

平成26年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成27年度調査）の
本報告案について

○ 明細書の無料発行の実施状況調査

・報告書（案）	1 頁
・NDBデータ	99 頁
・調査票	100 頁
・検証部会としての評価	136 頁

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 27 年度調査）

明細書の無料発行の実施状況調査
報告書（案）

◇◆目 次◇◆

I. 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	2
4. 調査項目	3
II. 調査の結果	5
1. 回収結果	5
2. 施設調査	6
(1) 施設の基本情報	7
①病院の基本情報	7
②一般診療所の基本情報	11
③歯科診療所の基本情報	14
④保険薬局の基本情報	15
⑤訪問看護ステーションの基本情報	17
⑥レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況	19
⑦レセプト請求方法	20
(2) 明細書の発行状況等	22
①明細書の発行状況	22
②診療所における明細書発行体制等加算の届出状況	23
(3) 明細書発行施設における明細書の発行状況等	25
①明細書発行にかかる費用徴収の有無	25
②明細書の発行状況	26
③明細書発行のタイミング	34
④自己負担額のない患者に対する明細書の発行状況	37
(4) 明細書発行施設における発行体制・体制整備等	41
①明細書の作成・発行体制	41
②明細書の内容等の問合せに対する対応体制	44
③明細書の発行開始時期	46
④明細書の作成及び患者からの照会のために行ったこと	47
⑤明細書発行のための運用経費	49
⑥明細書発行体制の整備における負担	50
(5) 明細書発行施設における明細書に関する患者の反応等	52
①明細書についての問合せの有無	52
②明細書についての問合せ項目	53

(6) 全患者に明細書の無料発行をしていない施設の状況等	57
①病院	57
②診療所	58
③訪問看護ステーション	60
(7) 明細書の無料発行に関する意見等	63
3. 患者調査	69
(1) 患者の属性等	70
①回答者	70
②患者の性別	70
③自己負担額の有無	71
④患者の年齢	72
⑤受療期間等	73
⑥「かかりつけ」に関する考え方等	74
(2) 調査日における明細書の受取状況等	81
①調査日における明細書の受取状況	81
②明細書受取に際しての費用支払い	82
③明細書の内容の確認状況	83
④明細書を受け取って良かったこと	84
(3) 明細書発行に関する今後の希望等	86
①明細書発行に関する今後の希望	86
②明細書発行を希望しない理由	87
③全ての患者に明細書が無料発行される制度の必要性	90
(4) 明細書の無料発行に関する意見等	91

I. 調査の概要

1. 目的

平成 26 年 4 月よりレセプトの電子請求を行っている保険医療機関（400 床以上のものに限る）及び保険薬局については、例外なく詳細な個別の点数項目がわかる明細書の発行が義務づけられた。また、レセプトの電子請求を行っている 400 床未満の病院についても、平成 28 年 4 月以降、例外なく明細書を発行することが義務づけられた。

本調査では、これらを踏まえ、保険医療機関、保険薬局及び訪問看護ステーションにおける明細書の発行状況、発行事務の現状、患者への影響等を調査するとともに、明細書発行に対する患者の意識等について調査を行う。

<主なねらい>

- ・ 明細書の発行実態（発行枚数（公費負担医療の対象患者への発行を含む）、費用徴収の有無及びその金額等）の把握
- ・ 明細書発行の事務・費用負担の実態（患者からの照会件数、照会への対応体制確保の状況、設備整備に要する費用等）の把握
- ・ 患者の明細書の受領状況及び明細書受領に関する意識（患者における必要性等）の把握
- ・ 患者の明細書の活用状況及び明細書の内容に関する理解度の把握

2. 調査対象

本調査では、「施設調査（5 種類）」と「患者調査（6 種類）」の 2 つの調査を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

	調査種別	対象
【施設調査】	①病院調査	全国の病院の中から無作為に抽出した 1,000 施設。
	②一般診療所調査	全国の一般診療所の中から無作為に抽出した 1,000 施設。
	③歯科診療所調査	全国の歯科診療所の中から無作為に抽出した 1,000 施設。
	④保険薬局調査	全国の保険薬局の中から無作為に抽出した 500 施設。
	⑤訪問看護ステーション調査	全国の訪問看護ステーションの中から無作為に抽出した 500 事業所。
【患者調査】	⑥病院（入院）患者調査	上記①「病院調査」の対象施設に調査期間中に入院していた患者。1 施設につき最大 2 名を対象とした。
	⑦病院（外来）患者調査	上記①「病院調査」の対象施設を調査期間中に受診した外来患者。1 施設につき最大 2 名を対象とした。
	⑧一般診療所患者調査	上記②「一般診療所調査」の対象施設を調査期間中に受診した外来患者。1 施設につき最大 2 名を対象とした。

⑨歯科診療所患者調査	上記③「歯科診療所調査」の対象施設を調査期間中に受診した外来患者。1施設につき最大2名を対象とした。
⑩保険薬局患者調査	上記④「保険薬局調査」の対象施設に調査期間中に院外処方せんを持って来局した患者。1施設につき最大2名を対象とした。
⑪訪問看護ステーション利用者調査	上記⑤「訪問看護ステーション調査」の対象事業所の訪問看護（医療保険）を1か月以上利用し、かつ調査期間中も利用のあった利用者。1事業所につき最大2名を対象とした。

3. 調査方法

- ・「施設調査」は、施設・事業所等宛の自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- ・「患者調査」は、調査対象施設・事業所を通じて自記式調査票を配布し、事務局宛の専用返信封筒により患者から直接郵送回収とした。
- ・調査実施時期は平成27年7月15日～平成27年9月15日。

4. 調査項目

・調査項目は以下の通り。

区分	主な調査項目
(1)施設調査	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設名、所在地、開設主体、施設種別、標榜診療科、DPC 対応の状況、許可病床数、1日平均在院患者数、入院患者数・外来患者数・利用者数、職員数、併設状況等 ・ 調剤基本料、基準調剤加算 ・ 医事会計システムの導入状況、レセプト請求方法 ○明細書の発行状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 明細書発行の状況 ・ 明細書発行体制等加算の届出状況、届出時期・算定回数 ・ 明細書発行における費用徴収の有無、徴収額・算出根拠 ・ 明細書発行件数 ・ 明細書の発行をしていない患者像、発行していない患者の割合 ・ 明細書発行のタイミング（頻度） ・ 自己負担額のない患者への発行の有無、発行していない理由等 ○明細書の発行体制・体制整備等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 明細書の作成・発行体制、作成・発行方法、問合せ対応体制 ・ 明細書の発行開始時期、明細書の発行体制整備のために行ったこと、初期費用額 ・ 明細書発行のための運用経費、体制整備における負担感等 ○明細書に対する患者の反応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者からの問合せ状況、問合せ項目 ○全患者に明細書の無料発行を行っていない理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全患者に明細書の無料発行を行っていない理由、今後の体制整備の予定、体制整備の際に困ること ○明細書の無料発行にあたっての意見・要望 <ul style="list-style-type: none"> ・ 明細書の無料発行にあたっての意見・要望
(2)患者調査	<ul style="list-style-type: none"> ○患者の属性等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 回答者と患者の関係性 ・ 性別、年齢、自己負担額の有無、受療期間・受診回数等 ・ かかりつけ医等の有無、当該医師・施設をかかりつけとした理由、かかりつけ医等の受診方法、かかりつけ医等のいない理由等 ○調査日における明細書の受取状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 明細書の受取状況、費用支払いの有無・金額、明細書の内容の確認状況、明細書を受け取って良かったこと

	<p>○明細書発行に関する今後の希望等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 明細書の発行に関する希望、明細書発行を希望しない理由・ 全患者に明細書が無料発行される制度の必要性
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Ⅱ. 調査の結果

1. 回収結果

病院調査の有効回答数は 439 件（有効回答率 43.9%）、一般診療所調査の有効回答数は 425 件（有効回答率 42.5%）、歯科診療所調査の有効回答数は 479 件（有効回答率 47.9%）、保険薬局調査の有効回答数は 266 件（有効回答率 53.2%）、訪問看護ステーション調査の有効回答数は 253 件（有効回答率 50.6%）であった。

病院（入院）患者調査の有効回答数は 372 件、病院（外来）患者調査の有効回答数は 499 件、一般診療所患者調査の有効回答数は 500 件、歯科診療所患者調査の有効回答数は 560 件、保険薬局患者調査の有効回答数は 323 件、訪問看護ステーション利用者調査の有効回答数は 269 件であった。

図表 1 回収の状況

	調査種別	①発送数	②回収数	③回収率 (②/①)	④有効回答数	⑤有効回答率 (④/①)
【施設調査】	①病院調査	1,000	441	44.1%	439	43.9%
	②一般診療所調査	1,000	427	42.7%	425	42.5%
	③歯科診療所調査	1,000	485	48.5%	479	47.9%
	④保険薬局調査	500	267	53.4%	266	53.2%
	⑤訪問看護ステーション調査	500	257	51.4%	253	50.6%
【患者調査】	⑥病院（入院）患者調査	—	374	—	372	—
	⑦病院（外来）患者調査	—	499	—	499	—
	⑧一般診療所患者調査	—	501	—	500	—
	⑨歯科診療所患者調査	—	562	—	560	—
	⑩保険薬局患者調査	—	323	—	323	—
	⑪訪問看護ステーション利用者調査	—	269	—	269	—

2. 施設調査

【調査対象等】

①病院調査

調査対象：全国の病院の中から無作為に抽出した 1,000 施設。

回答数：439 施設

回答者：管理者

②一般診療所調査

調査対象：全国の一般診療所の中から無作為に抽出した 1,000 施設。

回答数：425 施設

回答者：管理者

③歯科診療所調査

調査対象：全国の歯科診療所の中から無作為に抽出した 1,000 施設。

回答数：479 施設

回答者：管理者

④保険薬局調査

調査対象：全国の保険薬局の中から無作為に抽出した 500 施設。

回答数：266 施設

回答者：管理者

⑤訪問看護ステーション調査

調査対象：全国の訪問看護ステーションの中から無作為に抽出した 500 事業所。

回答数：253 事業所

回答者：管理者

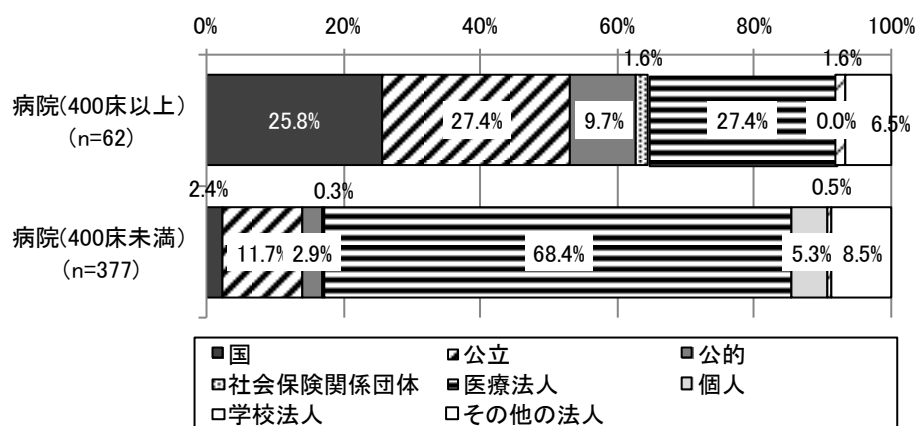
(1) 施設の基本情報

①病院の基本情報

1) 開設者

開設者の状況をみると、400床以上の病院では「公立」、「医療法人」が最も多く、それぞれ27.4%であった。400床未満の病院では「医療法人」が68.4%で最も多かった。

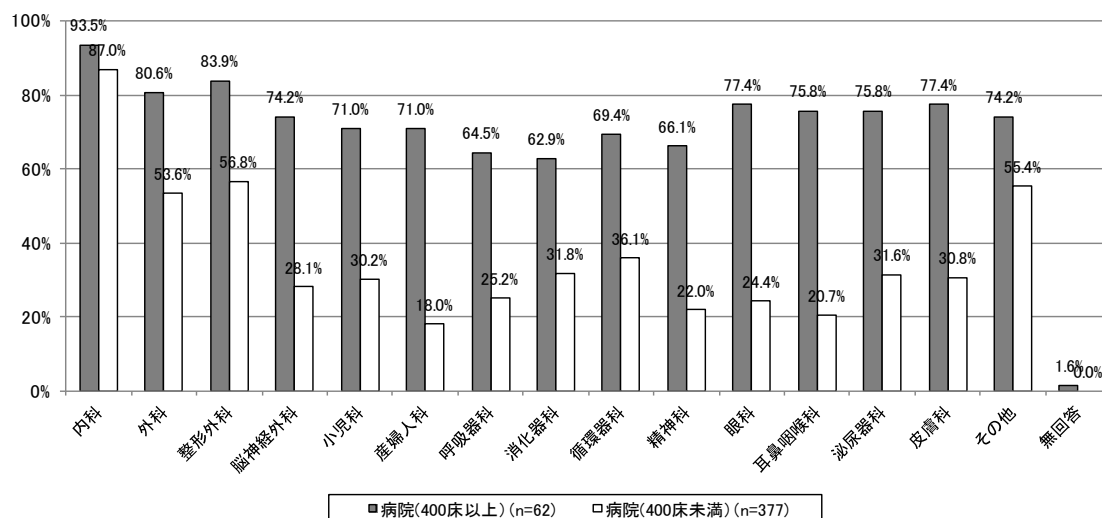
図表 2 開設者



2) 標榜診療科

標榜診療科をみると、400床以上の病院では「内科」が93.5%で最も多く、次いで「整形外科」(83.9%)、「外科」(80.6%)であった。400床未満の病院では「内科」が87.0%で最も多く、次いで「整形外科」(56.8%)、「外科」(53.6%)であった。

図表 3 標榜診療科 (複数回答)

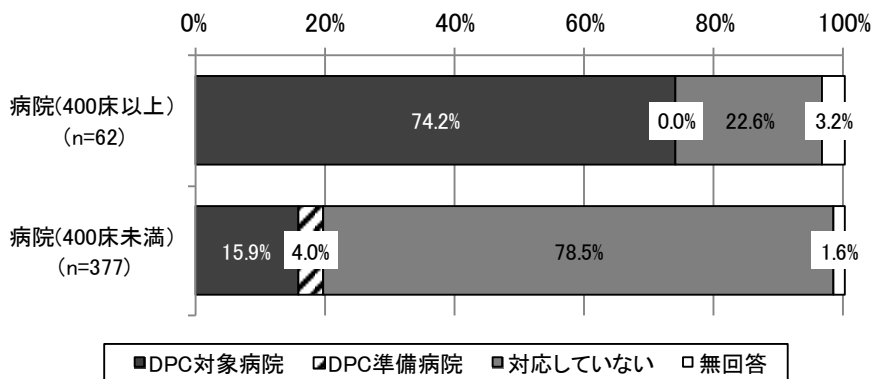


(注) 産婦人科には、婦人科・産科が含まれる。

3) DPC対応の状況

DPC 対応の状況をみると、400 床以上の病院では「DPC 対象病院」が 74.2%、「対応していない」が 22.6%であった。400 床未満の病院では「DPC 対応病院」が 15.9%、「DPC 準備病院」が 4.0%、「対応していない」が 78.5%であった。

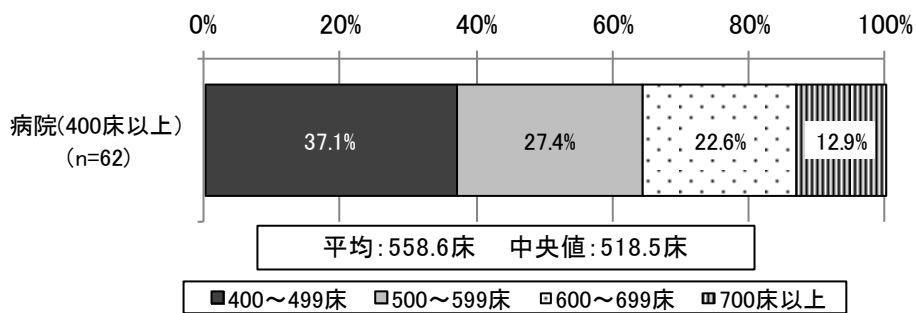
図表 4 DPC対応の状況



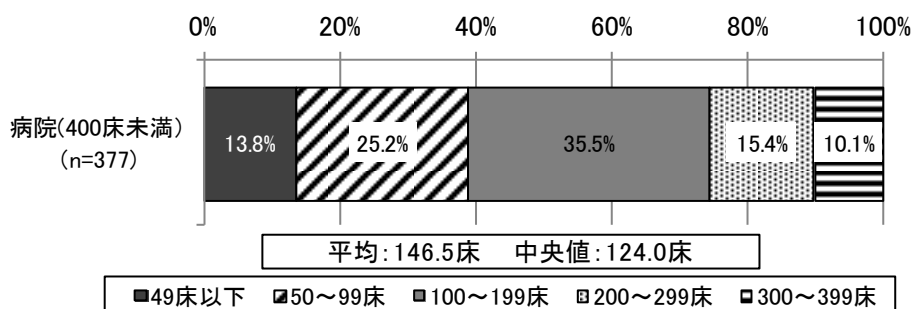
4) 許可病床数

許可病床数をみると、400 床以上の病院では平均 558.6 床、中央値 518.5 床であり、分布をみると「400～499 床」が 37.1%で最も多かった。400 床未満の病院では平均 146.5 床、中央値 124.0 床であり、分布をみると「100～199 床」が 35.5%で最も多かった。

図表 5 許可病床数 (400 床以上の病院)



図表 6 許可病床数 (400 床未満の病院)



5) 1日平均在院患者数

平成27年6月1か月の1日平均在院患者数をみると、400床以上の病院では1施設当たり平均456.6人（標準偏差132.9、中央値454.7）、400床未満の病院では平均115.3人（標準偏差74.9、中央値100.1）であった。

図表7 1日平均在院患者数（平成27年6月1か月）

（単位：人）

		平均値	標準偏差	中央値
病院(400床以上) (n=54)	一般病床	364.8	205.5	382.5
	療養病床	31.4	90.2	0.0
	精神病床	59.5	128.0	0.0
	結核病床	0.9	3.4	0.0
	感染症病床	0.1	0.6	0.0
	合計	456.6	132.9	454.7
病院(400床未満) (n=338)	一般病床	60.5	67.4	40.2
	療養病床	34.8	51.1	0.0
	精神病床	20.0	60.6	0.0
	結核病床	0.0	0.3	0.0
	感染症病床	0.0	-	0.0
	合計	115.3	74.9	100.1

（注）全ての項目に記入のあった施設を集計対象とした。

6) 外来患者数

平成27年6月1か月の外来患者数をみると、400床以上の病院では、初診患者が平均1,899.5人（標準偏差1,411.8、中央値1,778.0）、再診延べ患者が平均18,019.6人（標準偏差12,900.0、中央値17,648.0）であった。400床未満の病院では、初診患者が平均444.9人（標準偏差599.2、中央値196.0）、再診延べ患者が平均3,502.8人（標準偏差3,727.4、中央値2,238.5）であった。

図表8 外来患者数（平成27年6月1か月）

（単位：人）

		平均値	標準偏差	中央値
病院(400床以上) (n=59)	初診患者数	1,899.5	1,411.8	1,778.0
	再診延べ患者数	18,019.6	12,900.0	17,648.0
病院(400床未満) (n=364)	初診患者数	444.9	599.2	196.0
	再診延べ患者数	3,502.8	3,727.4	2,238.5

（注）全ての項目に記入のあった施設を集計対象とした。

7) 職員数

職員数をみると、400床以上の病院では、医師・歯科医師は平均161.3人（標準偏差159.4、中央値122.2）、看護職員は平均484.6人（標準偏差256.6、中央値442.2）、薬剤師は平均25.9人（標準偏差16.8、中央値23.8）、事務職員は平均103.6人（標準偏差73.9、中央値85.8）、その他職員は平均194.6人（標準偏差107.6、中央値177.3）、全職員合計で平均970.0人（標準偏差549.6、中央値869.0）であった。

400床未満の病院では、医師・歯科医師は平均14.8人（標準偏差17.0、中央値8.3）、看護職員は平均86.6人（標準偏差80.6、中央値61.9）、薬剤師は平均4.1人（標準偏差4.4、中央値2.7）、事務職員は平均22.9人（標準偏差25.8、中央値13.3）、その他職員は平均61.4人（標準偏差57.8、中央値50.6）、全職員合計で平均189.8人（標準偏差167.8、中央値143.6）であった。

図表 9 職員数（平成27年6月末時点、常勤換算）

（単位：人）

		平均値	標準偏差	中央値
病院(400床以上) (n=60)	医師・歯科医師	161.3	159.4	122.2
	看護職員	484.6	256.6	442.2
	薬剤師	25.9	16.8	23.8
	事務職員	103.6	73.9	85.8
	その他職員	194.6	107.6	177.3
	合計	970.0	549.6	869.0
病院(400床未満) (n=365)	医師・歯科医師	14.8	17.0	8.3
	看護職員	86.6	80.6	61.9
	薬剤師	4.1	4.4	2.7
	事務職員	22.9	25.8	13.3
	その他職員	61.4	57.8	50.6
	合計	189.8	167.8	143.6

(注)・全ての項目に記入のあった施設を集計対象とした。

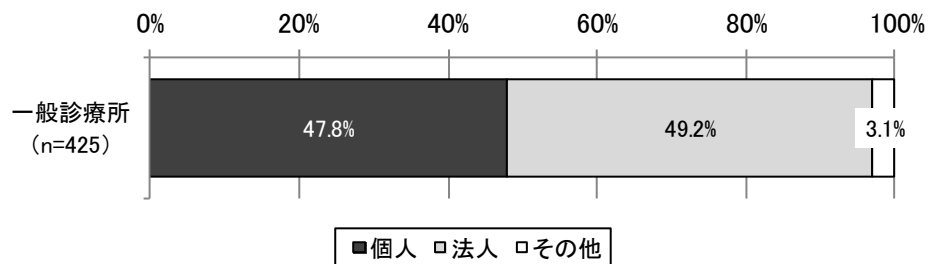
・委託職員・派遣職員を含める。

②一般診療所の基本情報

1) 開設者

開設者をみると、「個人」が47.8%、「法人」が49.2%であった。

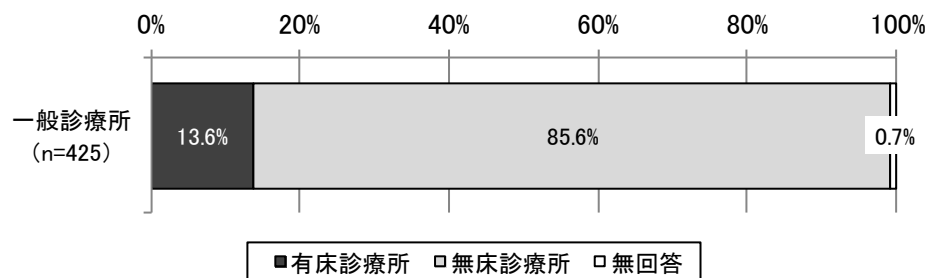
図表 10 開設者



2) 施設種別

施設の種別をみると、「有床診療所」が13.6%、「無床診療所」が85.6%であった。

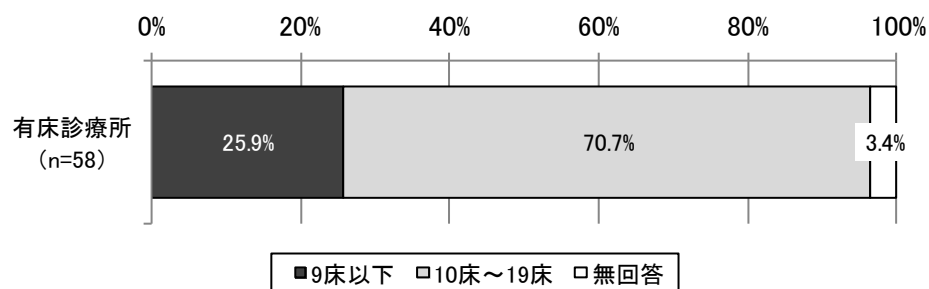
図表 11 施設種別



3) 許可病床数（有床診療所）

有床診療所の許可病床数をみると、「9床以下」が25.9%、「10～19床」が70.7%であった。

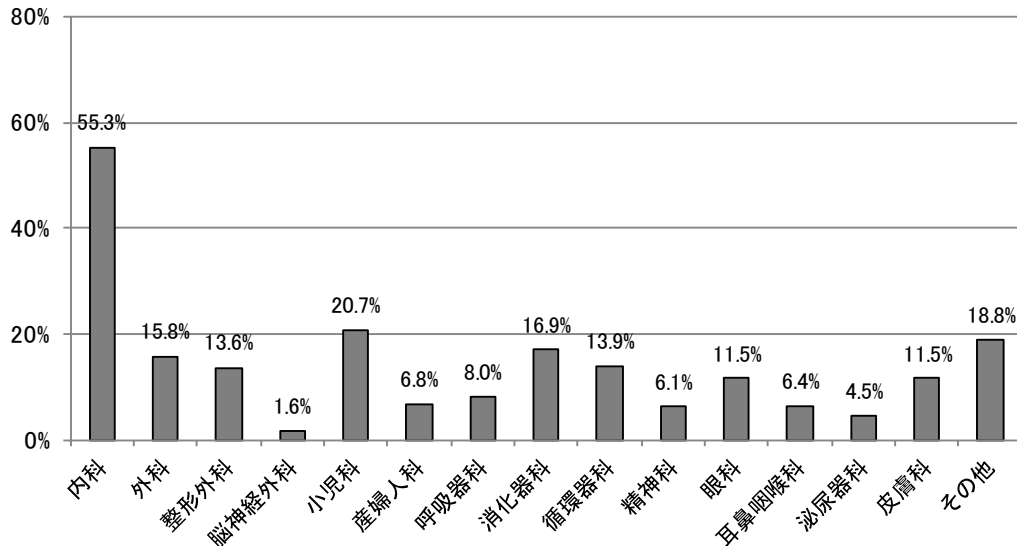
図表 12 許可病床数（有床診療所）



4) 標榜診療科

標榜診療科をみると、「内科」が 55.3%で最も多く、次いで「小児科」(20.7%)、「消化器科」(16.9%)であった。

図表 13 標榜診療科 (複数回答、n=425)



(注) 産婦人科には、婦人科・産科が含まれる。

5) 入院患者数 (有床診療所)

平成 27 年 6 月 1 か月の入院延べ患者数をみると、平均 124.2 人 (標準偏差 191.7、中央値 12.0) であった。

図表 14 入院延べ患者数 (平成 27 年 6 月 1 か月、有床診療所、n=56)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
入院延べ患者数	124.2	191.7	12.0

(注) 入院延べ患者数について記入のあった 56 施設を集計対象とした。

6) 外来患者数

平成 27 年 6 月 1 か月の外来患者数をみると、初診患者は平均 200.1 人（標準偏差 245.0、中央値 117.0）、再診延べ患者は平均 982.4 人（標準偏差 908.7、中央値 776.0）であった。

図表 15 外来延べ患者数（平成 27 年 6 月 1 か月、n=404）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
初診患者数	200.1	245.0	117.0
再診延べ患者数	982.4	908.7	776.0

（注）全ての項目に記入のあった 404 施設を集計対象とした。

7) 職員数

職員数をみると、医師は平均 1.4 人（標準偏差 1.0、中央値 1.0）、看護職員は平均 3.1 人（標準偏差 3.5、中央値 2.0）、薬剤師は平均 0.1 人（標準偏差 0.3、中央値 0.0）、事務職員は平均 2.7 人（標準偏差 1.8、中央値 2.0）、その他職員は平均 1.8 人（標準偏差 3.5、中央値 0.0）、全職員合計で平均 9.0 人（標準偏差 7.7、中央値 7.0）であった。

図表 16 職員数（平成 27 年 6 月末時点、常勤換算、n=419）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医師	1.4	1.0	1.0
看護職員	3.1	3.5	2.0
薬剤師	0.1	0.3	0.0
事務職員	2.7	1.8	2.0
その他職員	1.8	3.5	0.0
合計	9.0	7.7	7.0

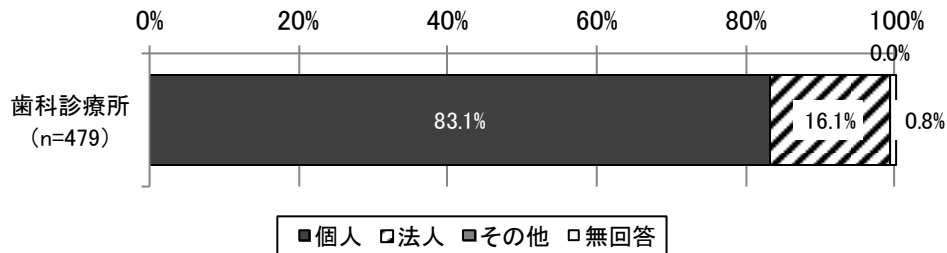
（注）全ての項目に記入のあった 419 施設を集計対象とした。

③ 歯科診療所の基本情報

1) 開設者

開設者をみると、「個人」が 83.1%、「法人」が 16.1%であった。

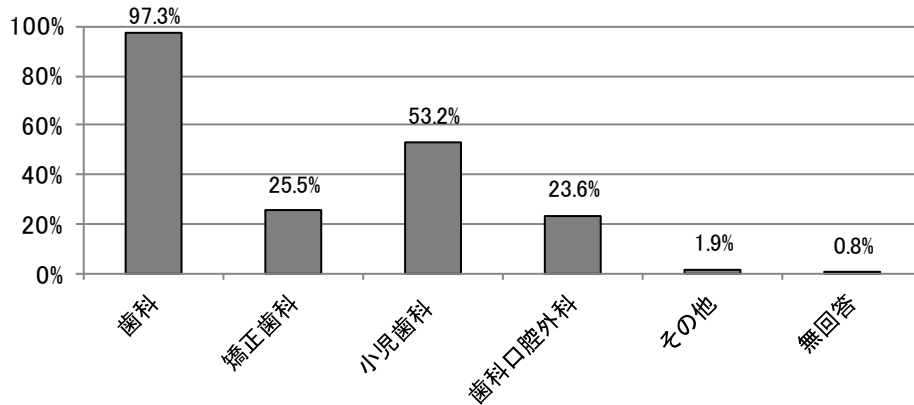
図表 17 開設者



2) 標榜診療科

標榜診療科をみると、「歯科」が 97.3%で最も多く、次いで「小児歯科」(53.2%)、「矯正歯科」(25.5%)、「歯科口腔外科」(23.6%)であった。

図表 18 標榜診療科 (複数回答、n=479)



3) 外来患者数

平成 27 年 6 月 1 か月の外来患者数をみると、初診患者は平均 83.1 人 (標準偏差 89.8、中央値 57.0)、再診延べ患者は平均 355.7 人 (標準偏差 301.2、中央値 294.0) であった。

図表 19 外来延べ患者数 (平成 27 年 6 月 1 か月、n=441)

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
初診患者数	83.1	89.8	57.0
再診延べ患者数	355.7	301.2	294.0

(注) 両項目に記入のあった 441 施設を集計対象とした。

4) 職員数

職員数をみると、歯科医師は平均 1.4 人（標準偏差 0.8、中央値 1.0）、歯科衛生士は平均 1.7 人（標準偏差 1.8、中央値 1.0）、その他職員は平均 2.1 人（標準偏差 1.8、中央値 2.0）、全職員合計で平均 5.2 人（標準偏差 3.4、中央値 4.4）であった。

図表 20 職員数（平成 27 年 6 月末時点、常勤換算、n=475）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
歯科医師	1.4	0.8	1.0
歯科衛生士	1.7	1.8	1.0
その他職員	2.1	1.8	2.0
合計	5.2	3.4	4.4

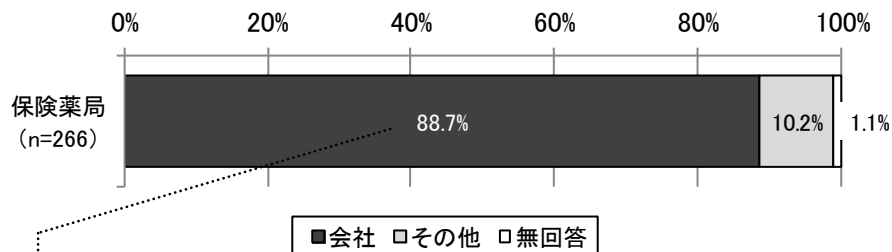
（注）全ての項目に記入のあった 475 施設を集計対象とした。

④保険薬局の基本情報

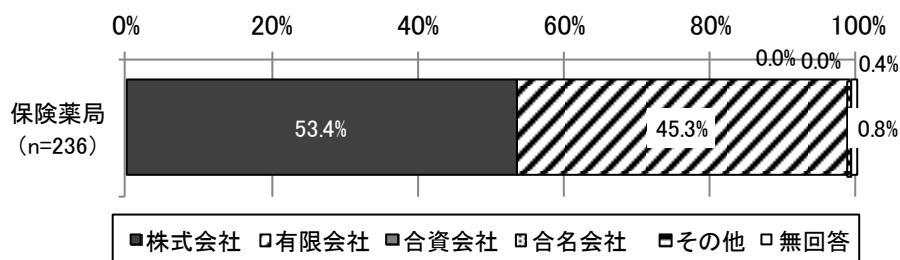
1) 組織形態

組織形態をみると、「会社」が 88.7%、「その他」が 10.2%であった。会社の形態としては、「株式会社」が 53.4%、「有限会社」が 45.3%であった。

図表 21 組織形態



図表 22 会社の形態



（注）「組織形態」が「会社」である 236 施設を集計対象とした。

2) 延べ来局人数

平成 27 年 6 月 1 か月の延べ来局人数をみると、平均 1,263.8 人（標準偏差 929.5、中央値 1,117.0）であった。

図表 23 延べ来局人数（平成 27 年 6 月 1 か月、n=258）

（単位：人）

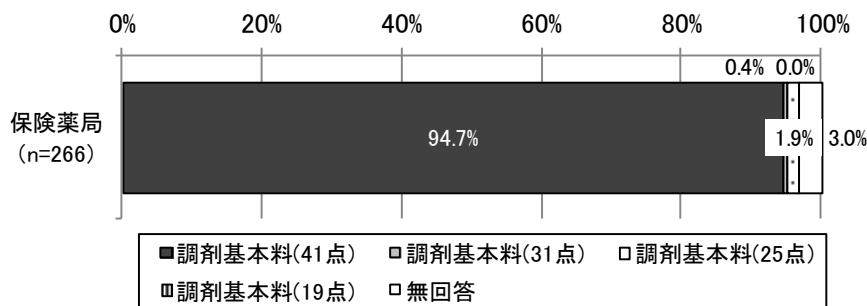
	平均値	標準偏差	中央値
延べ来局人数	1,263.8	929.5	1,117.0

（注）延べ来局人数について記入のあった 258 施設を集計対象とした。

3) 調剤基本料

調剤基本料をみると、「調剤基本料（41 点）」が 94.7%、「調剤基本料（31 点）」が 0.4%、「調剤基本料（25 点）」が 1.9%であった。

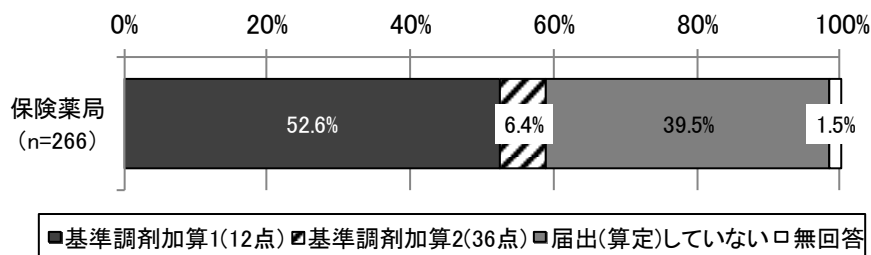
図表 24 調剤基本料



4) 基準調剤加算

基準調剤加算をみると、「基準調剤加算 1（12 点）」が 52.6%、「基準調剤加算 2（36 点）」が 6.4%、「届出（算定）していない」が 39.5%であった。

図表 25 基準調剤加算



5) 職員数

職員数をみると、薬剤師は平均 2.7 人（標準偏差 1.7、中央値 2.1）、事務職員は平均 2.2 人（標準偏差 1.4、中央値 2.0）、その他職員は平均 0.2 人（標準偏差 0.5、中央値 0.0）、全職員合計で平均 5.1 人（標準偏差 2.8、中央値 4.5）であった。

図表 26 職員数（平成 27 年 6 月末時点、常勤換算、n=263）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
薬剤師	2.7	1.7	2.1
事務職員	2.2	1.4	2.0
その他職員	0.2	0.5	0.0
合計	5.1	2.8	4.5

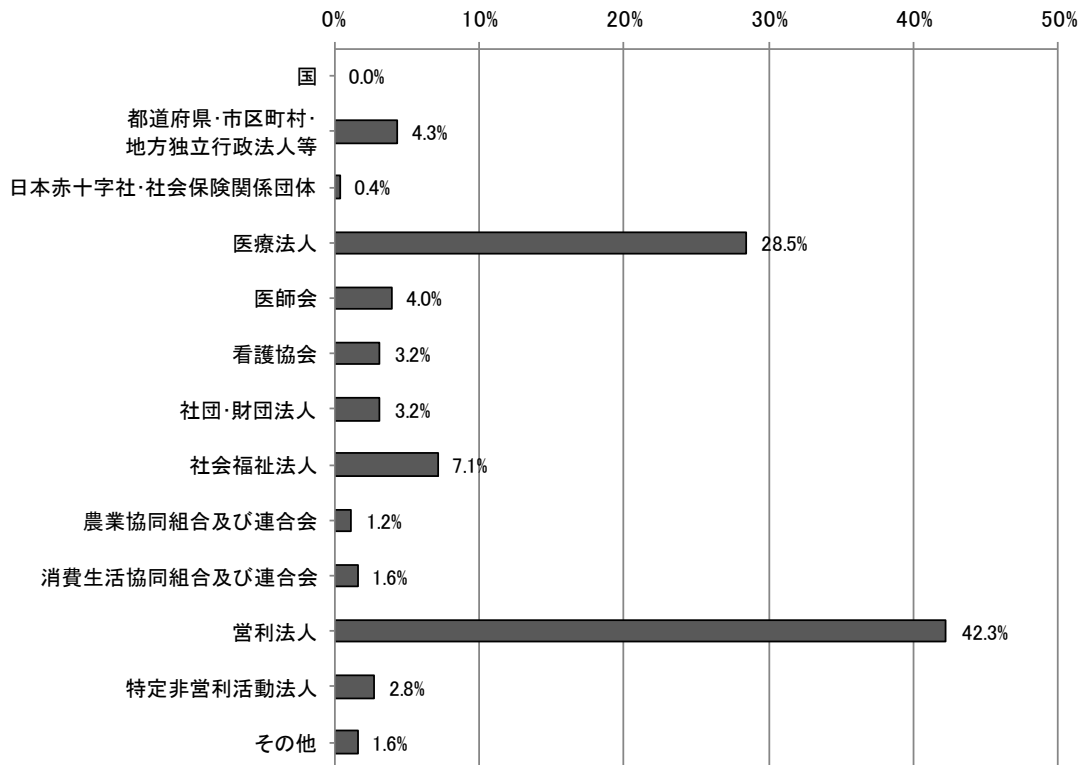
（注）全ての項目に記入のあった 263 施設を集計対象とした。

⑤訪問看護ステーションの基本情報

1) 開設者

開設者をみると、「営利法人」が 42.3%で最も多く、次いで「医療法人」（28.5%）、「社会福祉法人」（7.1%）であった。

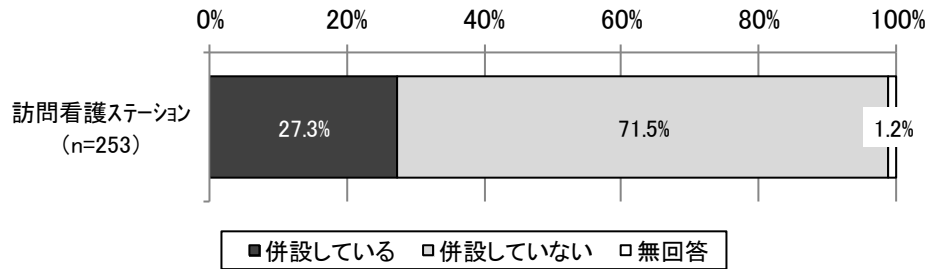
図表 27 開設者（単数回答、n=253）



2) 病院・診療所との併設状況

病院・診療所との併設状況をみると、「併設している」が 27.3%、「併設していない」が 71.5%であった。

図表 28 病院・診療所との併設状況



3) 訪問看護の実利用者数（保険種別）

平成 27 年 6 月 1 か月の訪問看護の実利用者数を保険種別にみると、医療保険の利用者数は平均 18.8 人（標準偏差 23.8、中央値 13.0）、介護保険の利用者数は平均 47.0 人（標準偏差 38.4、中央値 39.0）であった。

図表 29 訪問看護の実利用者数（保険種別、平成 27 年 6 月 1 か月、n=244）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
医療保険の利用者数	18.8	23.8	13.0
介護保険の利用者数	47.0	38.4	39.0

（注）両項目に記入のあった 244 事業所を集計対象とした。

4) 職員数

職員数をみると、看護職員は平均 5.1 人（標準偏差 3.0、中央値 4.4）、事務職員は平均 0.6 人（標準偏差 0.6、中央値 0.5）、その他職員は平均 1.1 人（標準偏差 2.1、中央値 0.0）、全職員合計で平均 6.7 人（標準偏差 4.2、中央値 5.7）であった。

図表 30 職員数（平成 27 年 6 月末時点、常勤換算、n=250）

（単位：人）

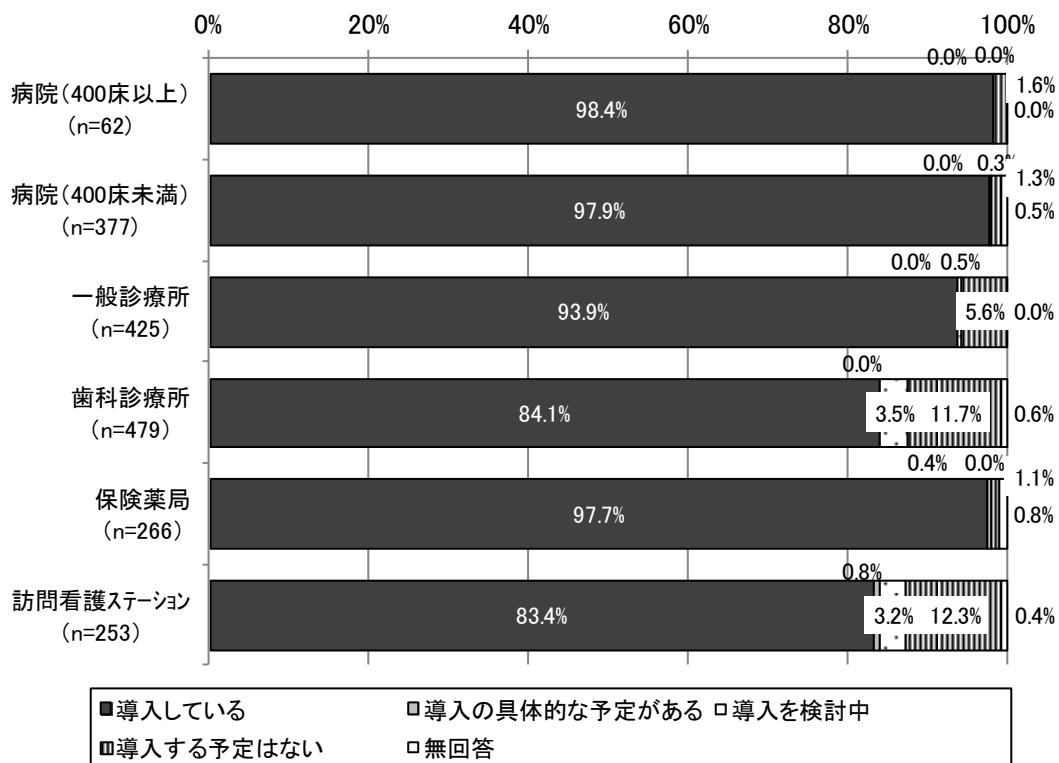
	平均値	標準偏差	中央値
看護職員	5.1	3.0	4.4
事務職員	0.6	0.6	0.5
その他職員	1.1	2.1	0.0
合計	6.7	4.2	5.7

（注）全ての項目に記入のあった 250 事業所を集計対象とした。

⑥レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況

レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況を見ると、400床以上の病院では98.4%、400床未満の病院では97.9%、一般診療所では93.9%、歯科診療所では84.1%、保険薬局では97.7%、訪問看護ステーションでは83.4%が「導入している」という回答であった。また、一般診療所では5.6%、歯科診療所では11.7%、訪問看護ステーションでは12.3%が「導入する予定はない」と回答していた。

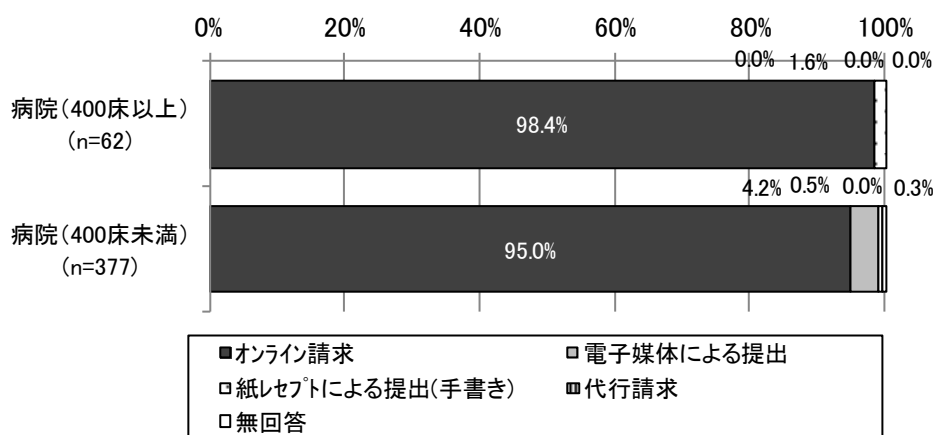
図表 31 レセプトコンピュータ等による医事会計システムの導入状況



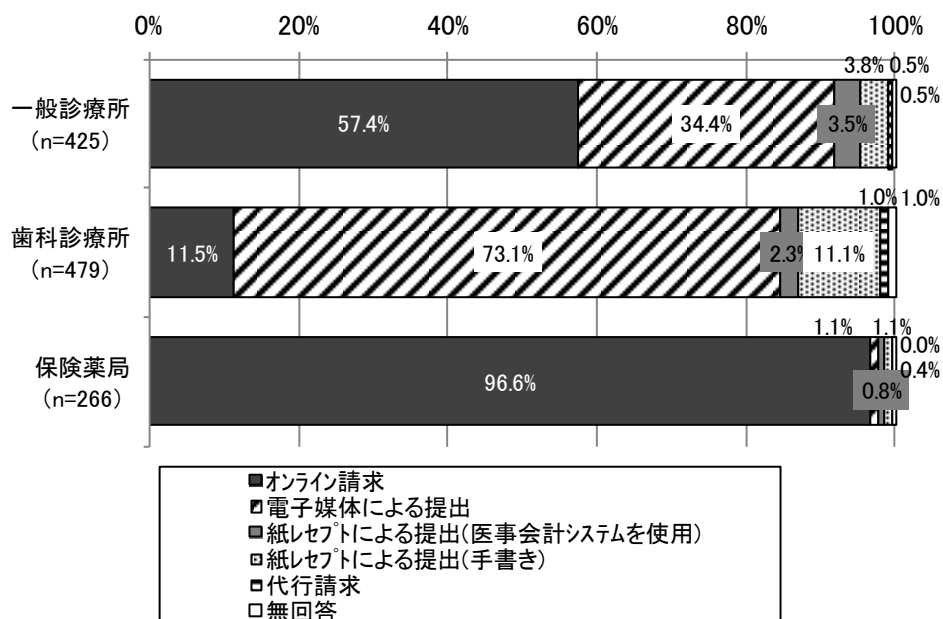
⑦レセプト請求方法

レセプトの請求方法についてみると、400床以上の病院では98.4%、400床未満の病院では95.0%、保険薬局では96.6%が「オンライン請求」であった。一般診療所では「オンライン請求」(57.4%)が最も多く、次いで「電子媒体による提出」(34.4%)であった。歯科診療所では「電子媒体による提出」(73.1%)が最も多く、次いで「オンライン請求」(11.5%)、「紙レセプトによる提出(手書き)」(11.1%)であった。訪問看護ステーションでは「紙レセプトによる提出(医事会計システムを使用)」(87.0%)が最も多く、次いで「紙レセプトによる提出(手書き)」(8.3%)であった。

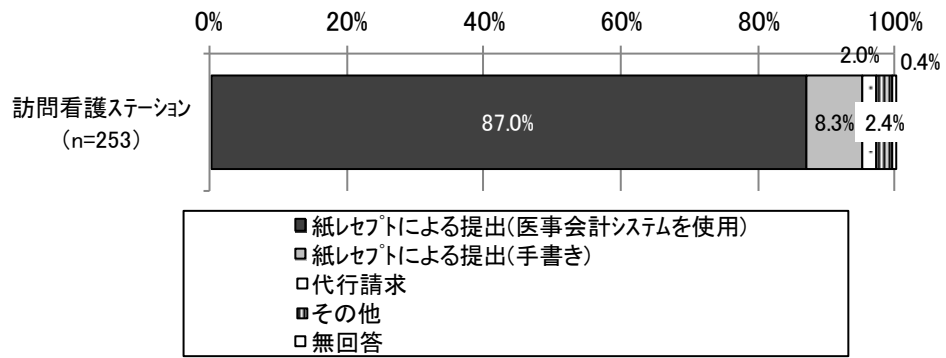
図表 32 レセプト請求方法（病院）



図表 33 レセプト請求方法（一般診療所、歯科診療所、保険薬局）



図表 34 レセプト請求方法（訪問看護ステーション）



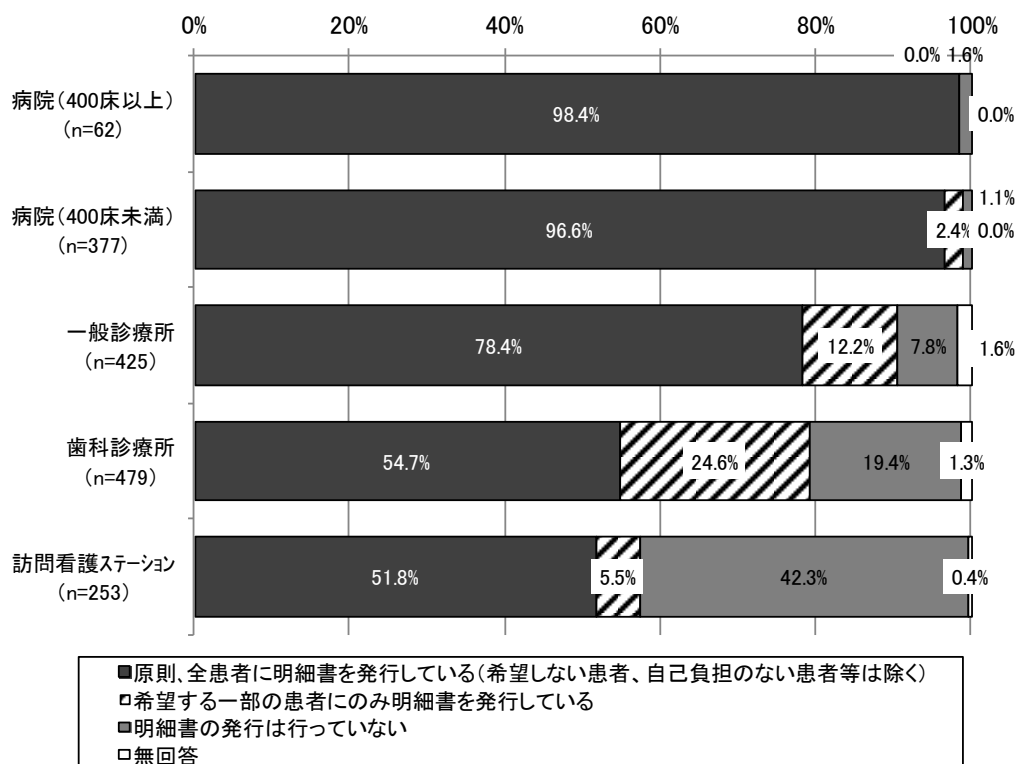
(注) 「その他」の内容として、「伝送」、「訪問看護システムを利用」が挙げられた。

(2) 明細書の発行状況等

①明細書の発行状況

明細書の発行状況についてみると、全施設で「原則、全患者に明細書を発行している（希望しない患者、自己負担のない患者等は除く）」が最も多く、400床以上の病院では98.4%、400床未満の病院では96.6%、一般診療所では78.4%、歯科診療所では54.7%、訪問看護ステーションでは51.8%であった。一般診療所と歯科診療所では、次いで「希望する一部の患者にのみ明細書を発行している」がそれぞれ12.2%、24.6%で多く、「明細書の発行は行っていない」はそれぞれ7.8%、19.4%であった。訪問看護ステーションでは、次いで「明細書の発行は行っていない」（42.3%）が多かった。

図表 35 明細書の発行状況



(注) 保険薬局は、当該質問項目は設けていない。

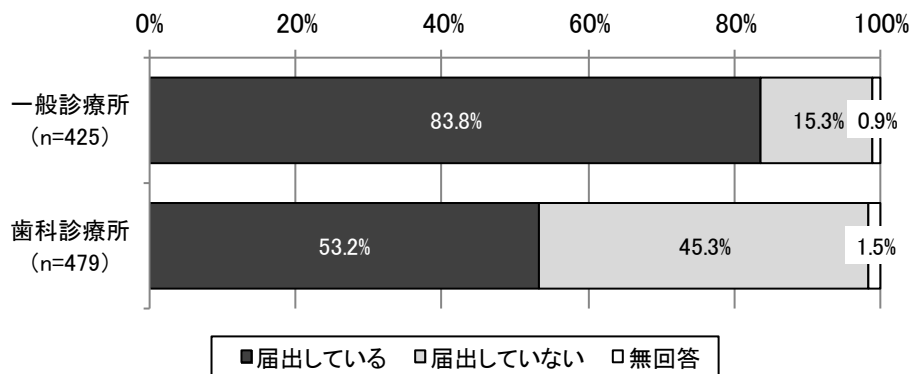
②診療所における明細書発行体制等加算の届出状況

診療所における明細書発行体制等加算の届出状況についてみると、一般診療所では83.8%、歯科診療所では53.2%が「届出している」であった。

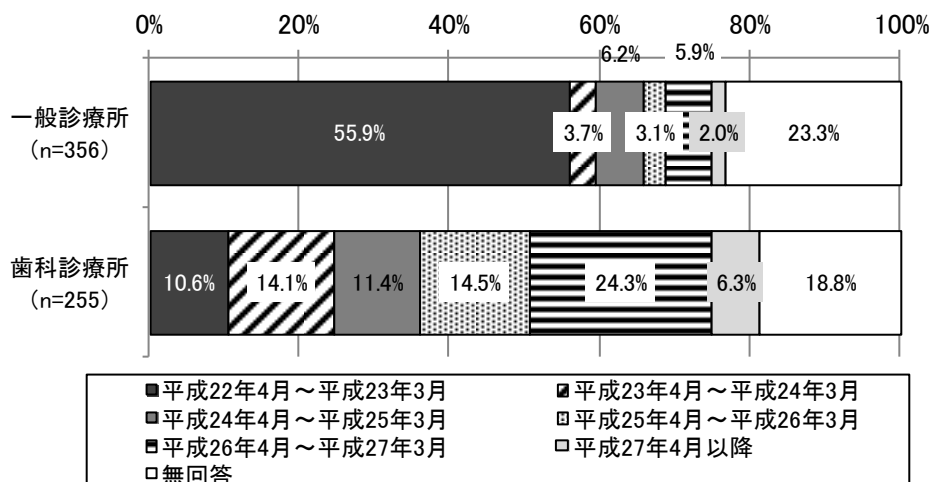
届出時期についてみると、一般診療所では「平成22年4月～平成23年3月」(55.9%)、歯科診療所では「平成26年4月～平成27年3月」(24.3%)が最も多かった。

平成27年6月1か月間の明細書発行体制等加算の算定回数についてみると、一般診療所では平均1,046.8回(標準偏差944.5、中央値842.0)であり、算定割合は86.6%であった。歯科診療所では平均326.6回(標準偏差282.5、中央値307.5)であり、算定割合は72.1%であった。

図表 36 診療所における明細書発行体制等加算の届出状況



図表 37 明細書発行体制等加算の届出時期
(明細書発行体制等加算の届出をしている診療所)



図表 38 明細書発行体制等加算の算定回数（平成 27 年 6 月 1 か月間）
 （明細書発行体制等加算の届出をしている診療所）

	再診患者延べ数(人)①			算定回数(回)②			算定割合 ②/①
	平均値	標準 偏差	中央値	平均値	標準 偏差	中央値	
一般診療所 (n=125)	1,208.8	989.0	964.0	1,046.8	944.5	842.0	86.6%
歯科診療所 (n=104)	452.8	309.8	400.5	326.6	282.5	307.5	72.1%

（注）明細書発行体制等加算の施設基準届出施設のうち、「再診患者延べ数」と「算定回数」のどちら
 も回答のあった施設を集計対象とした。

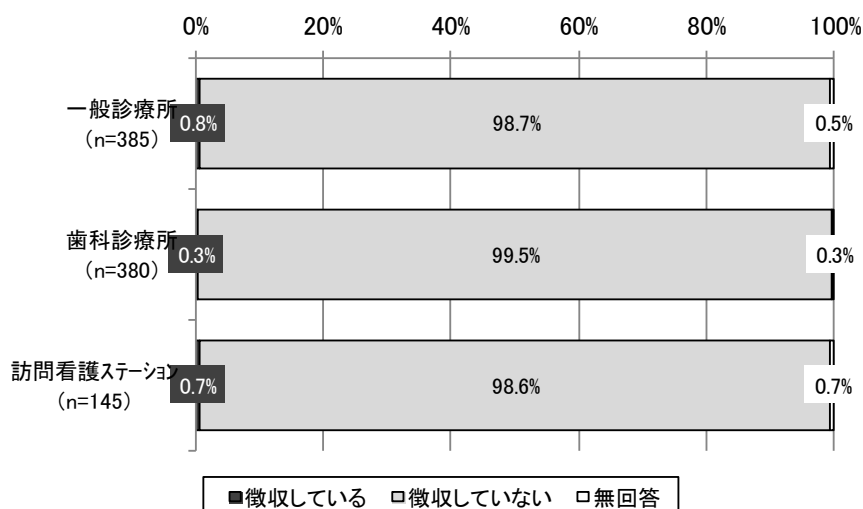
(3) 明細書発行施設における明細書の発行状況等

①明細書発行にかかる費用徴収の有無

明細書発行にかかる費用徴収の有無についてみると、「徴収している」は、一般診療所では0.8%、歯科診療所では0.3%、訪問看護ステーションでは0.7%であった。

費用を徴収している施設に明細書発行にかかる1件当たりの費用徴収額を尋ねたところ、一般診療所では平均290.0円（標準偏差255.1、中央値300.0）であった。

図表 39 明細書発行にかかる費用徴収の有無



(注) 明細書発行施設とは以下の定義による：

- ・病院では、「明細書の発行状況」において「原則、全患者に発行している」と回答した施設を明細書発行施設とした。但し、本質問については、「明細書の発行状況」において「希望する一部の患者にのみ発行している」と回答した施設に尋ねており、400床未満病院（9施設）では全て「徴収していない」であった。
- ・一般診療所・歯科診療所・訪問看護ステーションでは、「明細書の発行状況」において「原則、全患者に発行している」又は「希望する一部の患者にのみ発行している」と回答した施設を明細書発行施設とした（以下、同様）。
- ・保険薬局では、全施設を明細書発行施設とした（以下、同様）。なお、当該質問項目は設けていない。

図表 40 明細書発行にかかる1件当たりの費用徴収額（費用を徴収している施設）

(単位：円)

	平均値	標準偏差	中央値
一般診療所 (n=3)	290.0	255.1	300.0

(注) ・費用を「徴収している」と回答した施設・事業所のうち、費用徴収額に記入のあった施設を集計対象とした。

- ・歯科診療所、訪問看護ステーションでは、費用を「徴収している」と回答した施設は全て無回答であった。
- ・徴収金額の算出根拠として、「明細書発行体制加算に基づいて」、「レセプトコンピュータが導入されていないため作成に手間がかかるため」、「事務処理の労力を考慮して」が挙げられた。

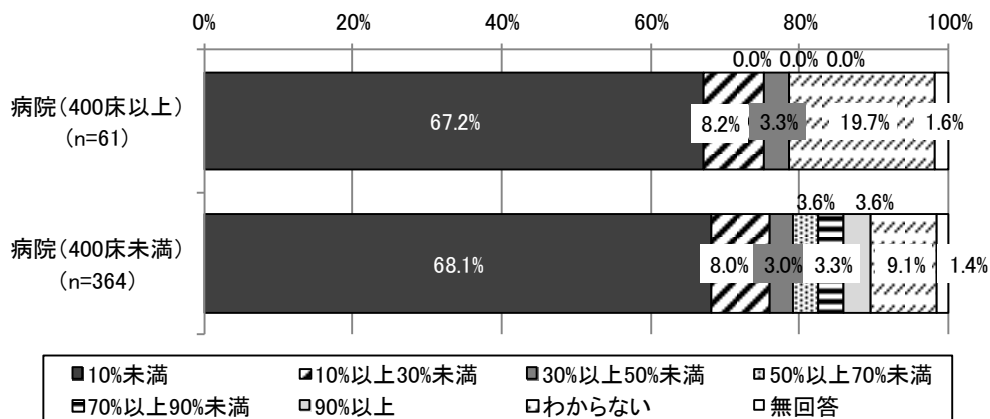
②明細書の発行状況

1) 病院

受診患者のうち、明細書を発行しなかった外来患者の割合についてみると、「10%未満」が最も多く、400床以上の病院では67.2%、400床未満の病院では68.1%であった。明細書を発行しなかった入院患者の割合についても「10%未満」が最も多く、400床以上の病院では78.7%、400床未満の病院では75.3%であった。

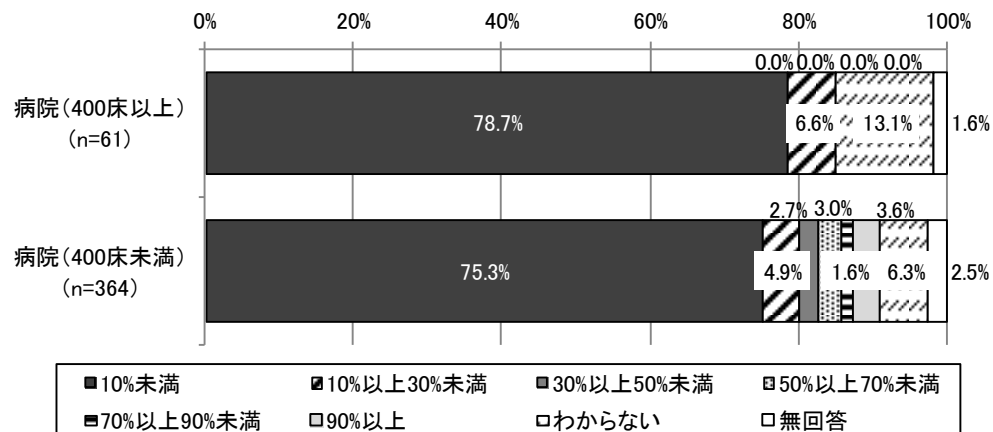
明細書を発行していない患者としてあてはまるものを尋ねたところ、「明細書の発行を希望しない患者」が最も多く、400床以上の病院では72.1%、400床未満の病院では79.9%であった。次いで「発行していない患者はいない」(それぞれ27.9%、18.4%)が多かった。

図表 41 受診患者のうち、明細書を発行しなかった外来患者の割合
(平成27年6月1か月間)



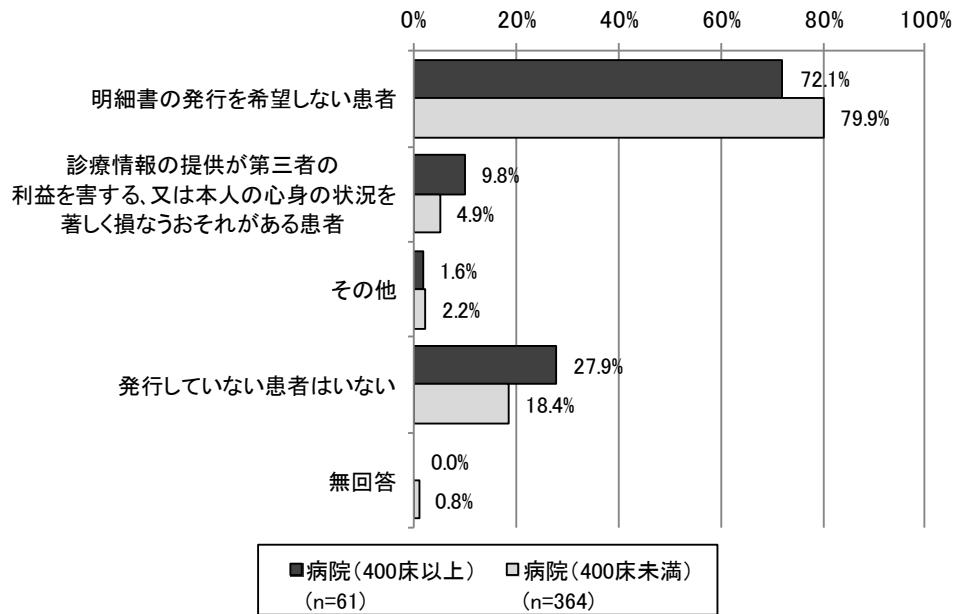
(注) 自己負担のない患者は除く。

図表 42 受診患者のうち、明細書を発行しなかった入院患者の割合
(平成27年6月1か月間)



(注) 自己負担のない患者は除く。

図表 43 明細書を発行していない患者としてあてはまるもの（複数回答）



(注)・自己負担のない患者は除く。

・「その他」の内容として、「老人ホームに入所している患者の定期診察、投薬時」、「入院はすべて発行、外来は希望者へ発行」、「職員」、「時間外受診の患者」等が挙げられた。

2) 一般診療所

平成 27 年 6 月 1 か月間の、一般診療所における 1 施設あたりの外来明細書発行件数についてみると、無料発行件数は、全体では平均 907.7 件（標準偏差 948.9、中央値 709.0）、全患者に発行している施設では平均 1,035.3 件（標準偏差 948.6、中央値 840.0）、一部の患者に発行している施設では平均 178.9 件（標準偏差 535.1、中央値 1.0）であった。有料発行件数は、全体では平均 1.6 件（標準偏差 27.4、中央値 0.0）、全患者に発行している施設では平均 1.9 件（標準偏差 29.8、中央値 0.0）であった。一部の患者に発行している施設では有料発行はなかった。

図表 44 一般診療所における 1 施設あたりの外来明細書発行件数
(平成 27 年 6 月 1 か月間)

(単位：件)

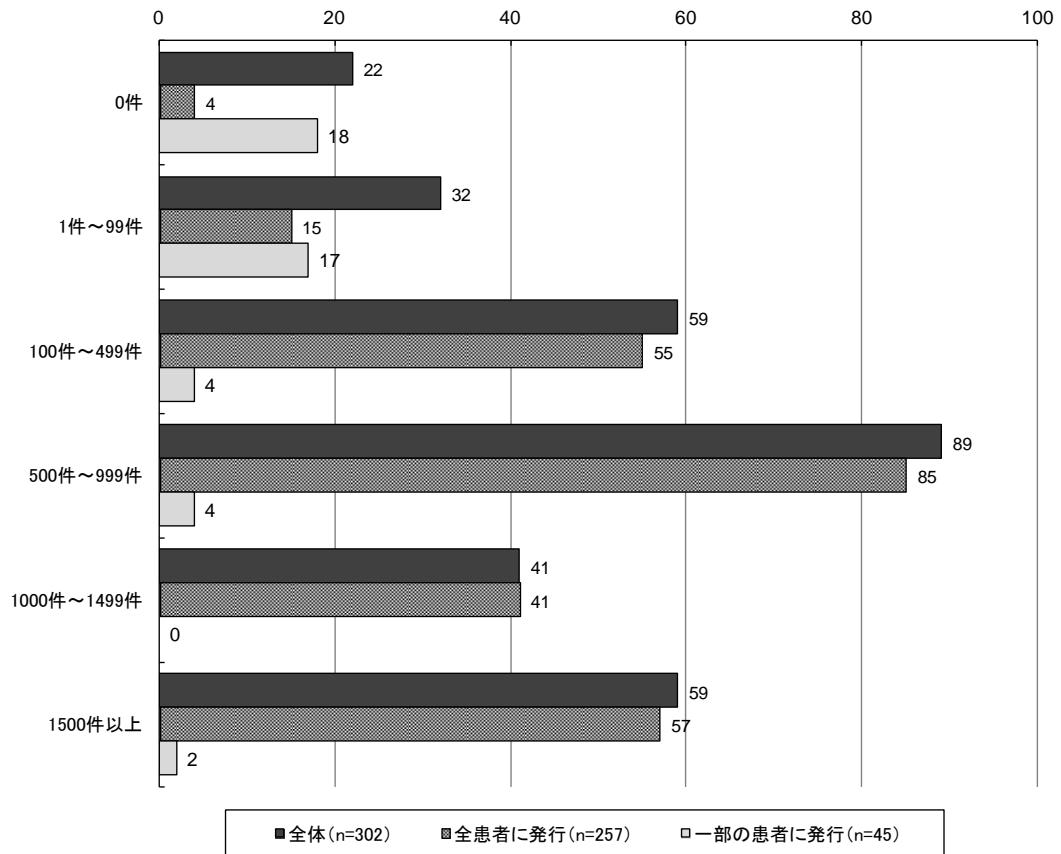
	無料発行件数			有料発行件数			総発行件数		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体(n=302)	907.7	948.9	709.0	1.6	27.4	0.0	909.2	947.8	709.0
全患者に発行(n=257)	1,035.3	948.6	840.0	1.9	29.8	0.0	1,037.1	947.0	840.0
一部の患者に発行(n=45)	178.9	535.1	1.0	0.0	-	0.0	178.9	535.1	1.0

(注)・自己負担のない患者への発行件数も含める。

・明細書発行件数について記入のあった 302 施設を集計対象とした。

図表 45 一般診療所における外来明細書（無料）発行件数の施設分布
 （平成 27 年 6 月 1 か月間）

（単位：施設）



平成 27 年 6 月 1 か月間の、一般診療所における 1 施設あたりの入院明細書発行件数についてみると、無料発行件数は、全体では平均 14.6 件（標準偏差 26.6、中央値 4.0）、全患者に発行している施設では平均 16.9 件（標準偏差 28.0、中央値 8.0）、一部の患者に発行している施設では平均 0.6 件（標準偏差 1.5、中央値 0.0）であった。全施設で有料発行はなかった。

図表 46 一般診療所における 1 施設あたりの入院明細書発行件数
（有床診療所、平成 27 年 6 月 1 か月間）

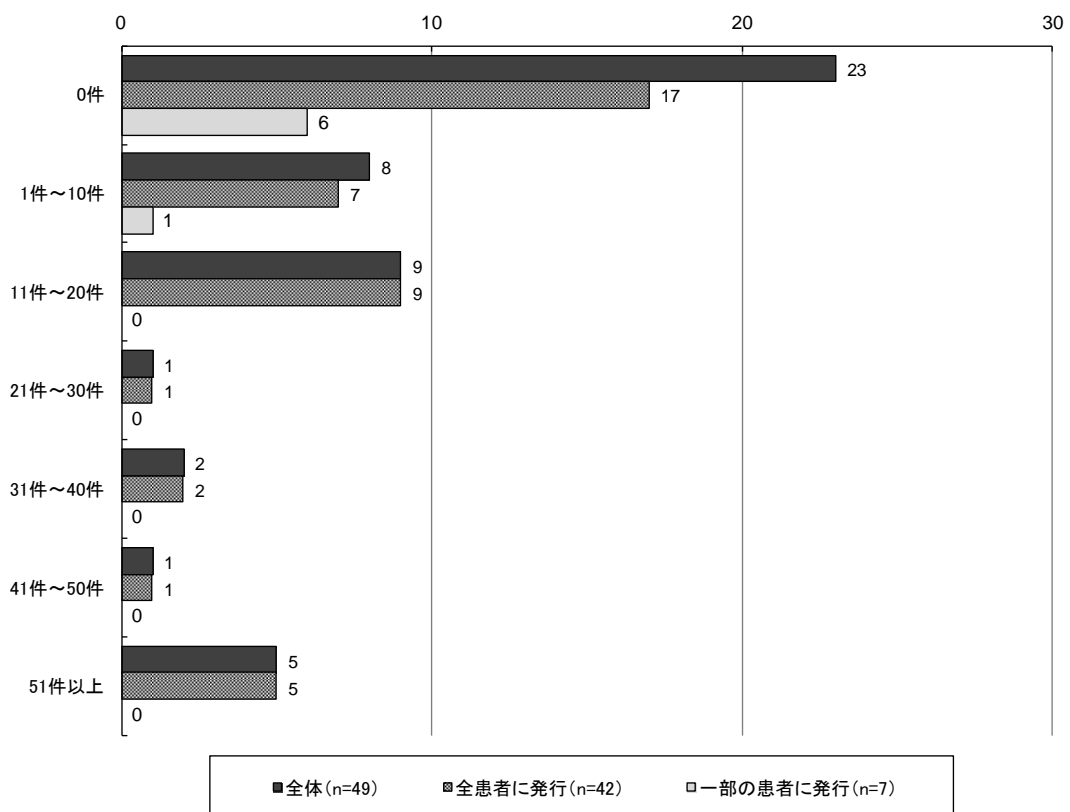
（単位：件）

	無料発行件数			有料発行件数			総発行件数		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体(n=49)	14.6	26.6	4.0	0.0	-	0.0	14.6	26.6	4.0
全患者に発行(n=42)	16.9	28.0	8.0	0.0	-	0.0	16.9	28.0	8.0
一部の患者に発行(n=7)	0.6	1.5	0.0	0.0	-	0.0	0.6	1.5	0.0

(注)・自己負担のない患者への発行件数も含める。
・明細書発行件数について記入のあった 49 施設を集計対象とした。

図表 47 一般診療所における入院明細書（無料）発行件数の施設分布
（有床診療所、平成 27 年 6 月 1 か月間）

（単位：施設）



3) 歯科診療所

平成 27 年 6 月 1 か月間の、歯科診療所における 1 施設あたりの明細書発行件数についてみると、無料発行件数の平均は、全体では 269.1 件（標準偏差 337.4、中央値 139.0）、全患者に発行している施設では 422.6 件（標準偏差 341.5、中央値 369.0）、一部の患者に発行している施設では 7.9 件（標準偏差 28.0、中央値 0.0）であった。有料発行件数の平均は、全体では 0.1 件（標準偏差 0.9、中央値 0.0）、全患者に発行している施設では 0.1 件（標準偏差 1.2、中央値 0.0）であった。一部の患者に発行している施設では有料発行はなかった。

図表 48 歯科診療所における 1 施設あたりの明細書発行件数
(平成 27 年 6 月 1 か月間)

(単位：件)

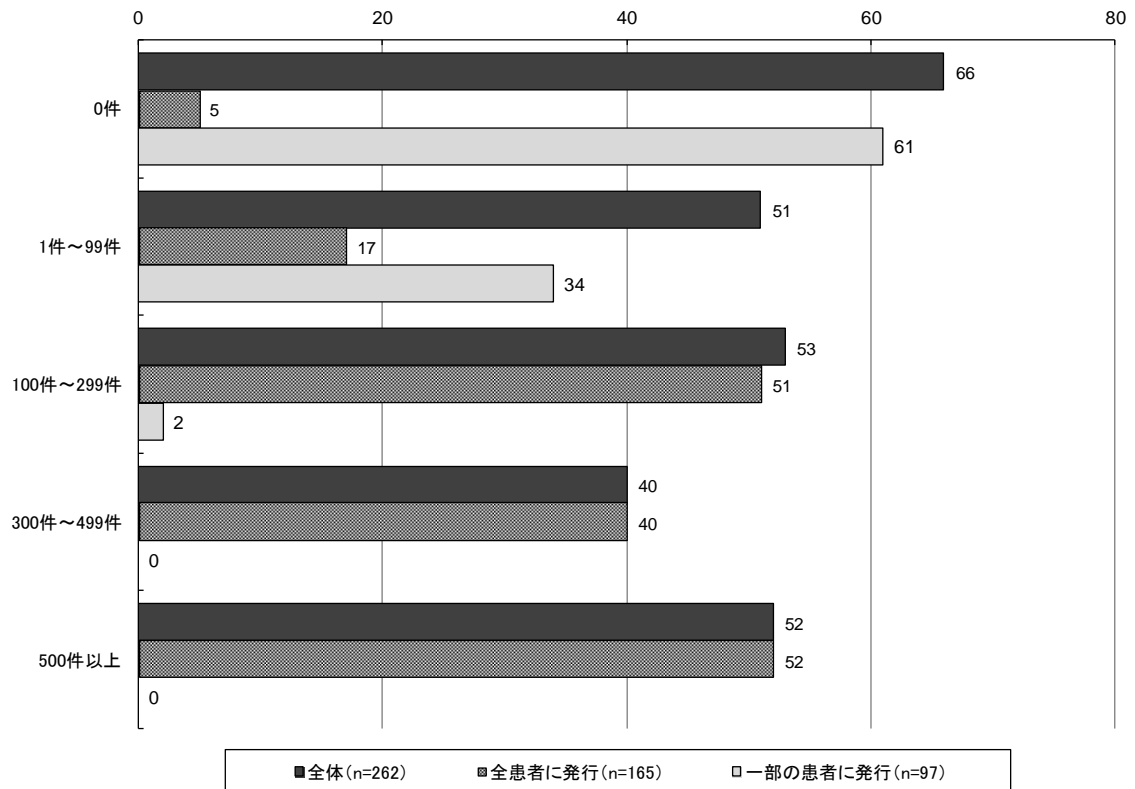
	無料発行件数			有料発行件数			総発行件数		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体(n=262)	269.1	337.4	139.0	0.1	0.9	0.0	269.1	337.3	139.0
全患者に発行(n=165)	422.6	341.5	369.0	0.1	1.2	0.0	422.7	341.4	369.0
一部の患者に発行(n=97)	7.9	28.0	0.0	0.0	-	0.0	7.9	28.0	0.0

(注)・自己負担のない患者への発行件数も含める。

・明細書発行件数について記入のあった 262 施設を集計対象とした。

図表 49 歯科診療所における明細書（無料）発行件数の施設分布
 （平成 27 年 6 月 1 か月間）

（単位：施設）

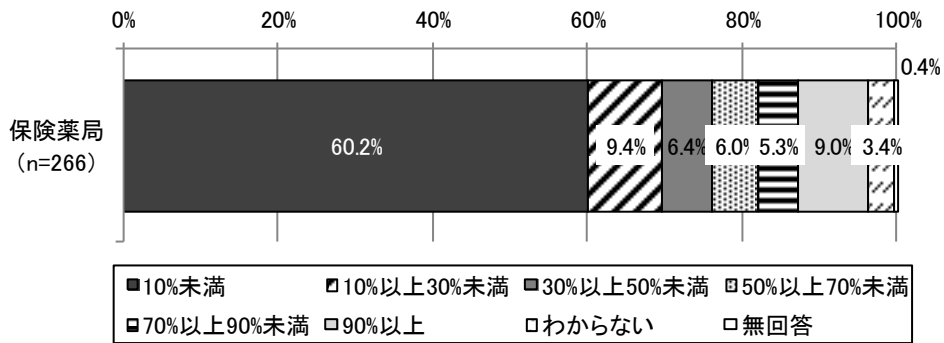


4) 保険薬局

処方せん受付患者のうち、明細書を発行しなかった患者の割合についてみると、「10%未満」が 60.2%で最も多く、次いで「10%以上 30%未満」(9.4%)、「90%以上」(9.0%)であった。

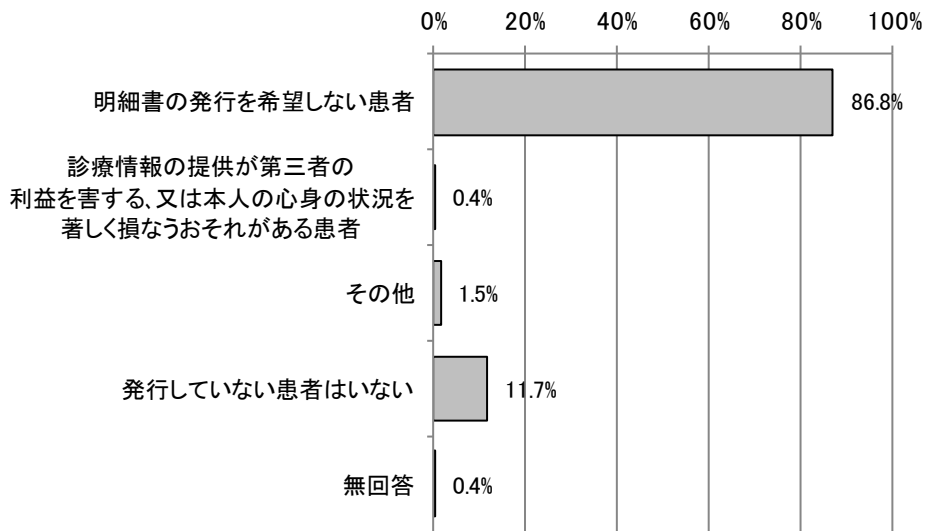
明細書を発行していない患者としてあてはまるものを尋ねたところ、「明細書の発行を希望しない患者」が 86.8%で最も多かった。「発行していない患者はいない」と回答した保険薬局は 11.7%であった。

図表 50 処方せん受付患者のうち、明細書を発行しなかった患者の割合
(平成 27 年 6 月 1 か月間)



(注) 自己負担のない患者は除く。

図表 51 明細書を発行していない患者としてあてはまるもの (複数回答、n=266)



(注) ・自己負担のない患者は除く。

・「その他」の内容として、「老人ホームに入所している患者の定期診察、投薬時」、「入院はすべて発行、外来は希望者へ発行」、「職員」、「時間外受診の患者」等が挙げられた。

5) 訪問看護ステーション

平成 27 年 6 月 1 か月間の、訪問看護ステーションにおける 1 事業所あたりの明細書発行件数をみると、無料発行件数は、全体では平均 27.5 件（標準偏差 37.8、中央値 11.0）、全利用者に発行する事業所では平均 30.7 件（標準偏差 39.0、中央値 15.0）、一部の利用者に発行する事業所では平均 2.4 件（標準偏差 3.1、中央値 1.0）であった。全事業所で有料発行はなかった。

図表 52 訪問看護ステーションにおける 1 事業所あたりの明細書発行件数
(平成 27 年 6 月 1 か月間)

(単位：件)

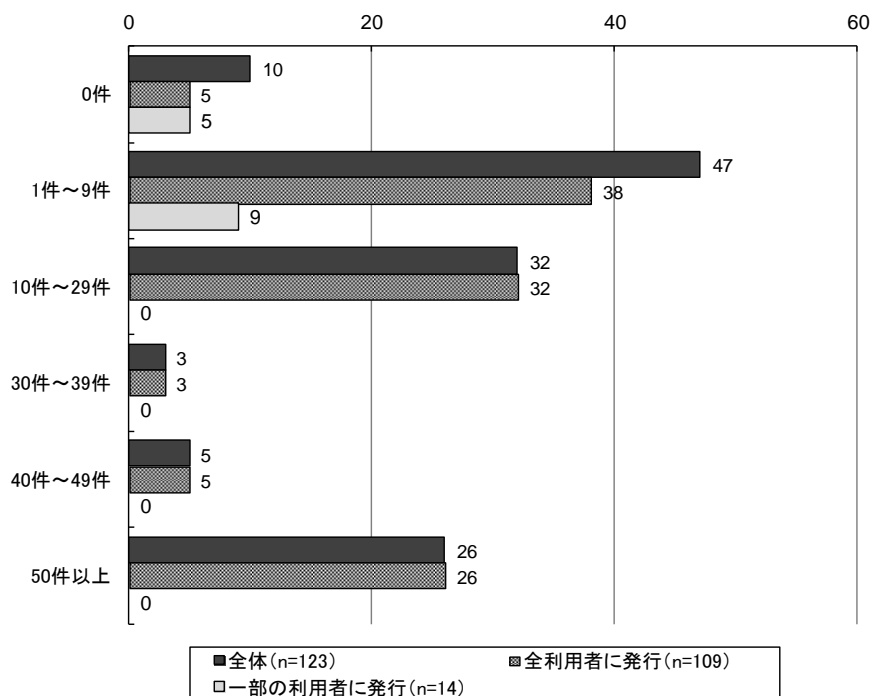
	無料発行件数			有料発行件数			総発行件数		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
全体(n=123)	27.5	37.8	11.0	0.0	-	0.0	27.5	37.8	11.0
全利用者に発行(n=109)	30.7	39.0	15.0	0.0	-	0.0	30.7	39.0	15.0
一部の利用者に発行(n=14)	2.4	3.1	1.0	0.0	-	0.0	2.4	3.1	1.0

(注)・自己負担のない患者への発行件数も含める。

・明細書発行件数について記入のあった 123 施設を集計対象とした。

図表 53 訪問看護ステーションにおける明細書（無料）発行件数の事業所分布
(平成 27 年 6 月 1 か月間)

(単位：事業所)

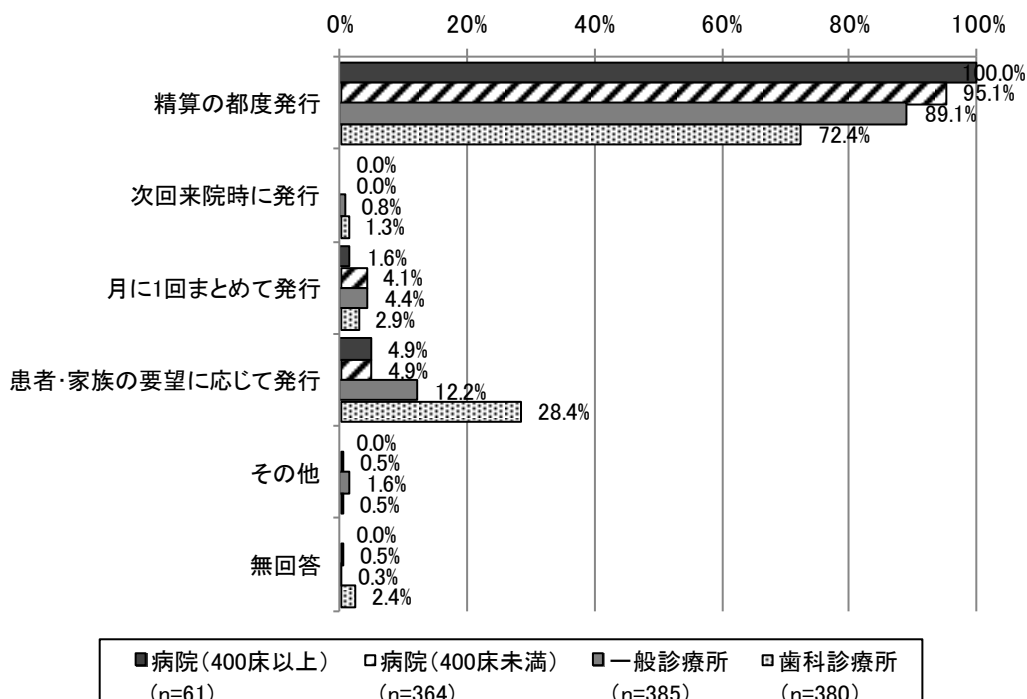


③明細書発行のタイミング

1) 医療機関における外来患者に対して明細書を発行するタイミング（頻度）

医療機関における外来患者に対して明細書を発行するタイミング(頻度)についてみると、いずれの施設でも「精算の都度発行」(400床以上の病院 100%、400床未満の病院 95.1%、一般診療所 89.1%、歯科診療所 72.4%)が最も多かった。また、一般診療所と歯科診療所では「患者・家族の要望に応じて発行」がそれぞれ 12.2%、28.4%と続いた。

図表 54 医療機関における外来患者に対して明細書を発行するタイミング（頻度）
(複数回答)

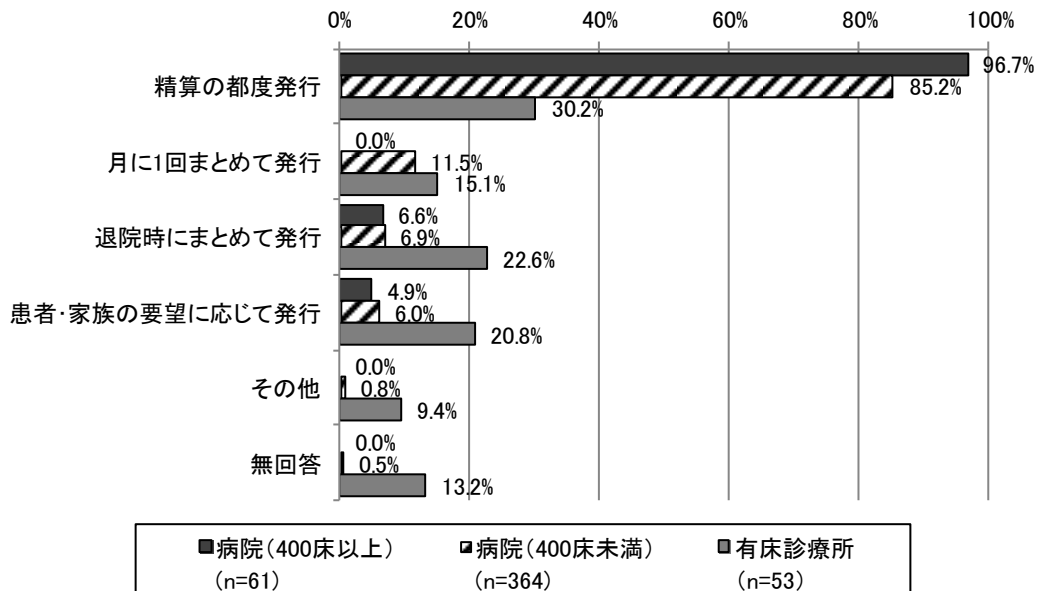


(注)「その他」の内容として、病院では「デイケアでは日ごとの請求になるため、月毎の請求書に同封して発送している」、一般診療所では「年に1回まとめて発行」(同旨含め2件)、「検査、点滴、放射、レントゲン等を実施した時」等、歯科診療所では「全ての診察終了時」が挙げられた。

2) 医療機関における入院患者に対して明細書を発行するタイミング（頻度）

医療機関における入院患者に対して明細書を発行するタイミング(頻度)についてみると、病院では「精算の都度発行」が最も多く、400床以上の病院では 96.7%、400床未満の病院では 85.2%であった。有床診療所では「精算の都度」(30.2%)が最も多く、次いで「退院時にまとめて発行」(22.6%)、「患者・家族の要望に応じて発行」(20.8%)が多かった。

図表 55 医療機関における入院患者に対して明細書を発行するタイミング（頻度）
（複数回答）



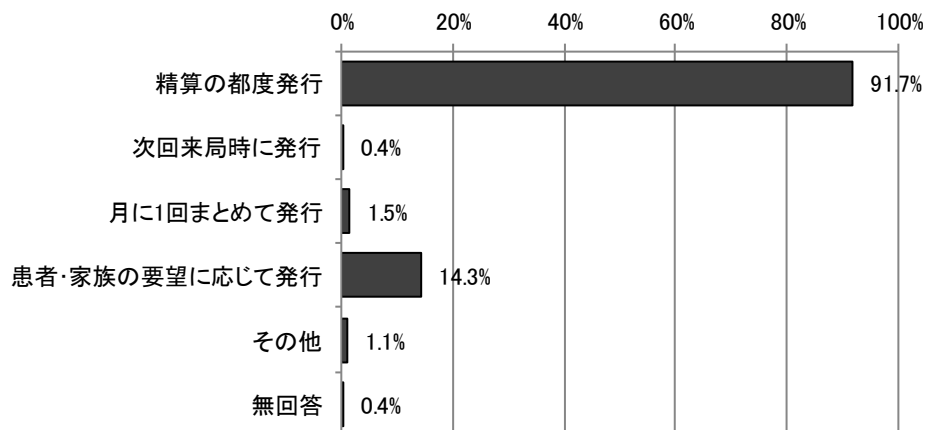
(注)・「精算の都度発行」には「定期請求」を含める。

・「その他」の内容として、病院では「請求書発行時に合わせて発行」（同旨含め 2 件）、「次回来院時に希望者のみ発行」、一般診療所では「休床中」（同旨含め 3 件）、「入院患者には発行していない」、「毎月 10 日、20 日、月末と 3 回に分けて発行（請求）」が挙げられた。

3) 保険薬局における明細書を発行するタイミング（頻度）

保険薬局における明細書を発行するタイミング（頻度）をみると、「精算の都度発行」が 91.7%で最も多く、次いで「患者・家族の要望に応じて発行」が 14.3%であった。

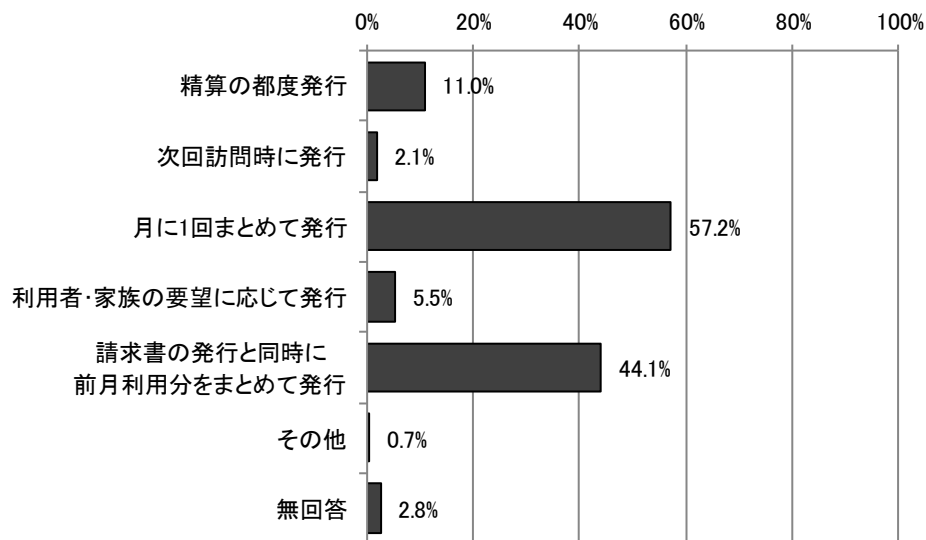
図表 56 保険薬局における明細書を発行するタイミング（頻度）
（複数回答、n=266）



4) 訪問看護ステーションにおける明細書を発行するタイミング（頻度）

訪問看護ステーションにおける明細書を発行するタイミング（頻度）をみると、「月に1回まとめて発行」が57.2%で最も多く、次いで「請求書の発行と同時に前月利用分をまとめて発行」（44.1%）、「精算の都度発行」（11.0%）であった。

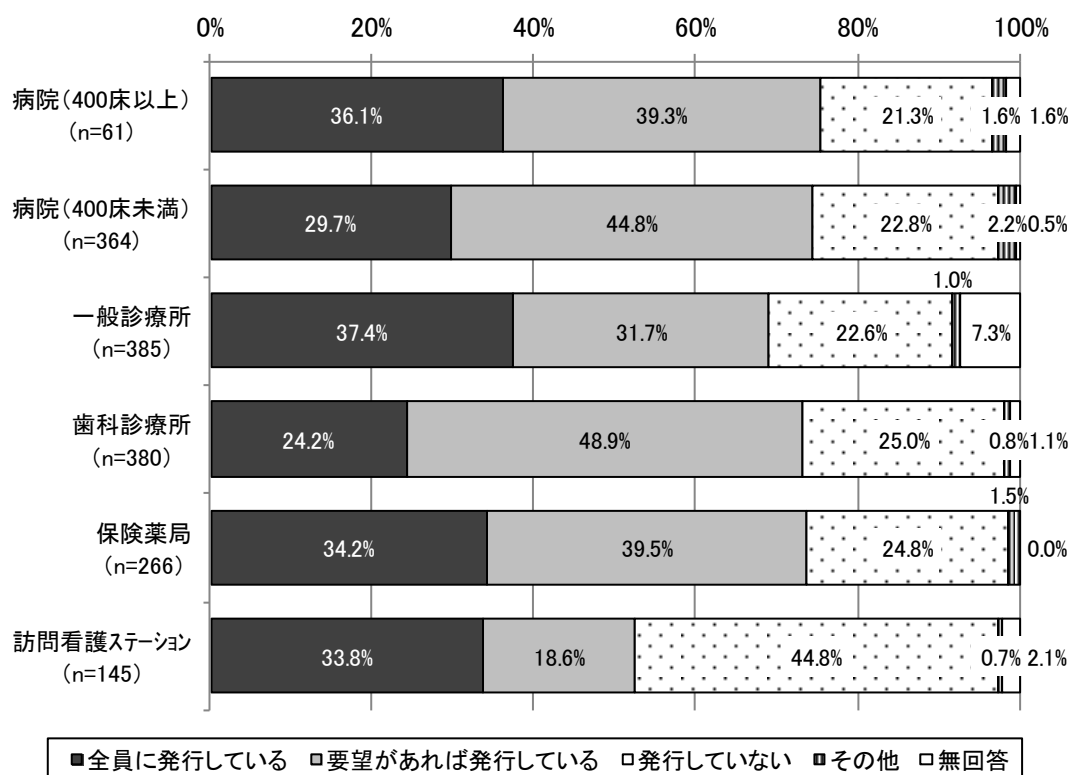
図表 57 訪問看護ステーションにおける明細書を発行するタイミング（頻度）
（複数回答、n=145）



④自己負担額のない患者に対する明細書の発行状況

自己負担額のない患者に対する明細書の発行状況をみると、400床以上の病院、400床未満の病院、歯科診療所、保険薬局では「要望があれば発行している」（それぞれ39.3%、44.8%、48.9%、39.5%）、「全員に発行している」（それぞれ36.1%、29.7%、24.2%、34.2%）の順に多く、「発行していない」は2割強であった。一般診療所では「全員に発行している」が37.4%で最も多く、次いで「要望があれば発行している」が31.7%、「発行していない」が22.6%であった。訪問看護ステーションでは「発行していない」が44.8%で最も多く、他の施設とは傾向が異なっていた。

図表 58 自己負担額のない患者に対する明細書の発行状況



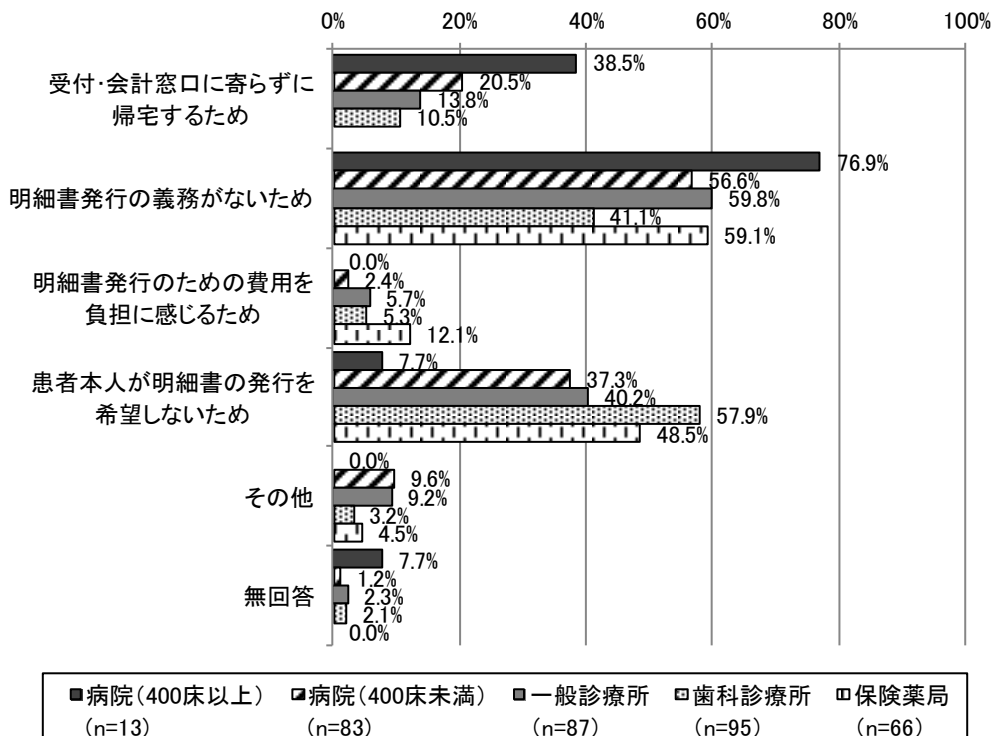
(注) 「その他」として、以下の内容が挙げられた。

- ・病院：「入院患者は全員に発行、外来患者は希望者のみ発行」（同旨含め2件）、「外来患者は全員に発行、入院患者はシステム上発行できない」、「労災・自賠責などは発行していない」等
- ・一般診療所：「自己負担額のない患者がいない」、「検査、点滴、レントゲン等実施時に発行」等
- ・訪問看護ステーション：「交通費負担の利用者のみ発行」
- ・保険薬局：「老人ホーム入居者以外全員発行」、「容器代などの負担がある時は発行」等

自己負担額のない患者に明細書を発行していない理由をみると、400床以上の病院、400床未満の病院、一般診療所、保険薬局では「明細書の発行義務がないため」（それぞれ76.9%、56.6%、59.8%、59.1%）が最も多かった。歯科診療所では「患者本人が明細書の発行を希望しないため」が57.9%で最も多かった。

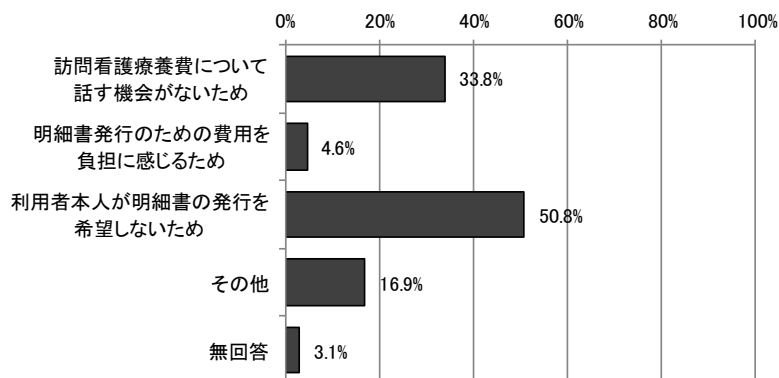
訪問看護ステーションでは「利用者本人が明細書の発行を希望しないため」が50.8%で最も多く、次いで「訪問看護療養費について話す機会がないため」（33.8%）であった。

図表 59 自己負担額のない患者に明細書を発行していない理由
 (自己負担額のない患者に明細書を発行していない医療機関・保険薬局、複数回答)



(注)・保険薬局では、「受付・会計窓口に寄らずに帰宅するため」の選択肢は設定していない。
 ・「その他」として、以下の内容が挙げられた。
 病院：「システムの設定上発行できない」(同旨含め 5 件)、「毎回診療内容が変わらないため」等
 一般診療所：「システムの設定上発行できない」(同旨含め 6 件)、「自己負担のない患者はその都度コンピュータに入力しないから(後でまとめて入力)」等
 歯科診療所：「該当する患者がいない」、「事務量、作業時間が多いため」、「手間がかかる」等
 保険薬局：「紙資源節約のため」、「自己負担がないので必要ないと解釈」、「システム上、領収証が発行されない場合は明細書も発行されないため」

図表 60 自己負担額のない利用者に明細書を発行していない理由
 (自己負担額のない利用者に明細書を発行していない訪問看護師・訪問看護ステーション、複数回答、n=65)



(注)「その他」の内容として、「本人からの料金徴収がないため」(同旨含め 2 件)、「システム上発行できない」、「開設母体の方針」等が挙げられた。

自己負担額(一部負担金)のない患者への明細書発行についての意見等を自由記述形式で記載して頂いた内容のうち、主な意見を取りまとめた。

①病院

- ・診療内容を明確化するためにも必要と考える。
- ・自己負担がなくても医療費の内訳がわかるよう全員への発行が好ましい。
- ・基本的に負担金がなくても、税金や補助でどれだけまかなわれているかを考えてほしい。
- ・明細書の発行は必要ない。(同旨含め3件)
- ・請求書がないのに明細書を渡すと、請求されたと勘違いされるケースが多く、時にはクレームとして申立てがある場合もあり困る。
- ・患者本人が希望しないことがほとんどである。 / 等

②一般診療所

- ・明細書の発行は必要ない。(同旨含め7件)
- ・希望する患者のみ発行すれば良い。(同旨含め2件)
- ・不要だと思える患者が多い。(同旨含め2件)
- ・自己負担のない患者は来院回数が多く、慢性的な治療が多いため、明細書の義務化は事務の負担、コストを考えても反対。
- ・ほぼ必要としていないようだが知る権利としてお渡ししている。資源のことを考えると希望する場合だけの方がいいようにも現実的には考える。
- ・自分の受診にどれだけのコストがかかっているかを知ってもらうことは大切。
- ・自己負担の有無ではなく、診療内容について、どんな検査をしたのか、点滴の薬剤名など、どの位の金額がかかっているのか、患者も知るべきだと思う。
- ・受付業務の待ち時間が嫌で、帰宅を急ぐ人がほとんど。 / 等

③歯科診療所

- ・明細書を発行する必要はない。(同旨含め5件)
- ・自己負担額のある・なしで発行の有無を分けるべきでない。全員に発行すべき。(同旨含め2件)
- ・患者本人からの発行希望はない。(同旨含め4件)
- ・要望があれば発行でよい。(同旨含め2件)
- ・一部負担金のない患者にも、いくら医療費がかかっているのか知ってもらうためにも発行した方がよい。
- ・他の患者と同じ対応で良いと思う。
- ・会計事務の負担に感じる。
- ・金銭の授受に関係する領収証の考えと、診療内容を伝える明細書では全く意味が違うのでは。 / 等

④保険薬局

- ・すべての患者に出すべきと考えている。
- ・どっちでもよい。
- ・不要と考える。(同旨含め3件)
- ・負担のない患者にはこれだけかかっているということをお知らせするつもりで発行しているが、ほとんど見ていない状況。必要ないのかもしれない。
- ・ジェネリック医薬品を希望しない患者には明細書を見せて公的支援でこの金額が支払われていることを話している。ジェネリックへの変更の資料としては良いと思う。
- ・患者に医療費を自覚してもらうために必要だと思う。
- ・明細書を「必要ない」と言う人がほとんどなので必要性を感じない。 /等

⑤訪問看護ステーション

- ・一部負担金がなくても明細書は発行すべきと思う。
- ・負担額があってもなくても、自分の利用したサービスの内容、金額を知るべき。
- ・利用者の希望があれば発行するし、義務付けがあれば発行する。
- ・利用料がなければできれば発行したくない。利用者・家族はあまり必要としていない。
- ・一部負担のない利用者に明細書を渡しても確認しない人がほとんど。
- ・発行を希望するかどうかの意思確認もしたことはない。利用料の明細なので必要だとは思わなかった。 /等

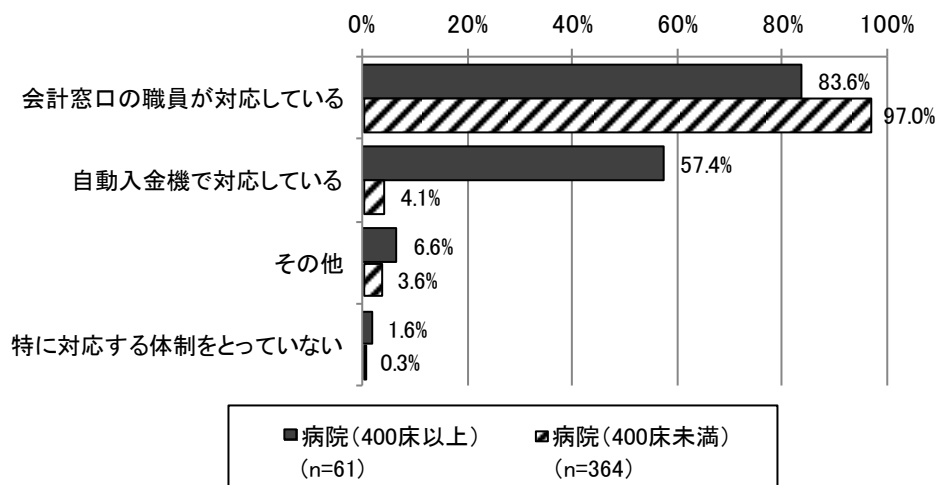
(4) 明細書発行施設における発行体制・体制整備等

①明細書の作成・発行体制

1) 病院

病院における明細書の作成・発行体制をみると、400床以上の病院、400床未満の病院では「会計窓口の職員が対応している」(それぞれ83.6%、97.0%)が最も多かった。400床以上の病院では、次いで「自動入金機で対応している」が57.4%と多かった。

図表 61 病院における明細書の作成・発行体制（複数回答）

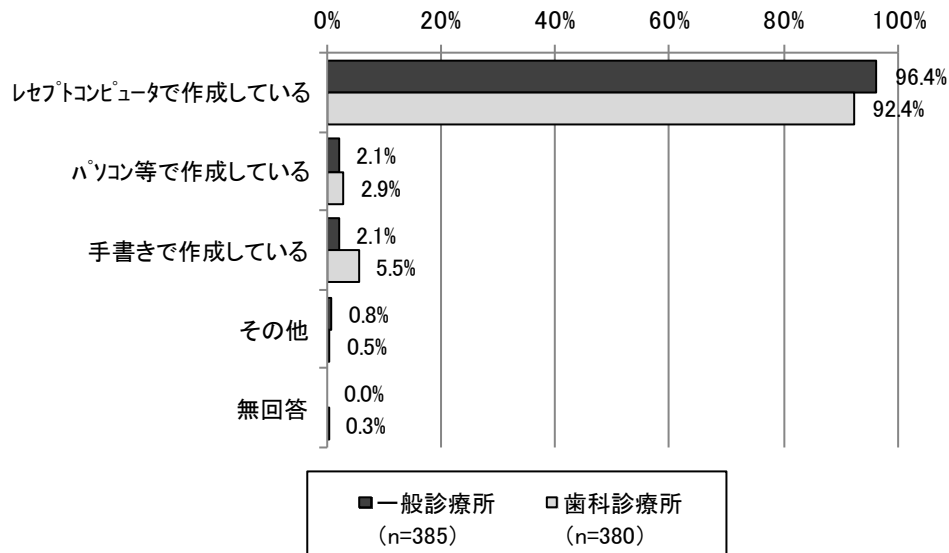


(注) 「その他」の内容として、「医事課職員」(同旨含め4件)、「入院患者は入院担当者」(同旨含め4件)、「会計伝票作成時に自動発行」(同旨含め4件)等が挙げられた。

2) 診療所

診療所における明細書の作成・発行体制をみると、一般診療所、歯科診療所では「レセプトコンピュータで作成している」(それぞれ96.4%、92.4%)が最も多かった。

図表 62 診療所における明細書の作成・発行体制 (複数回答)

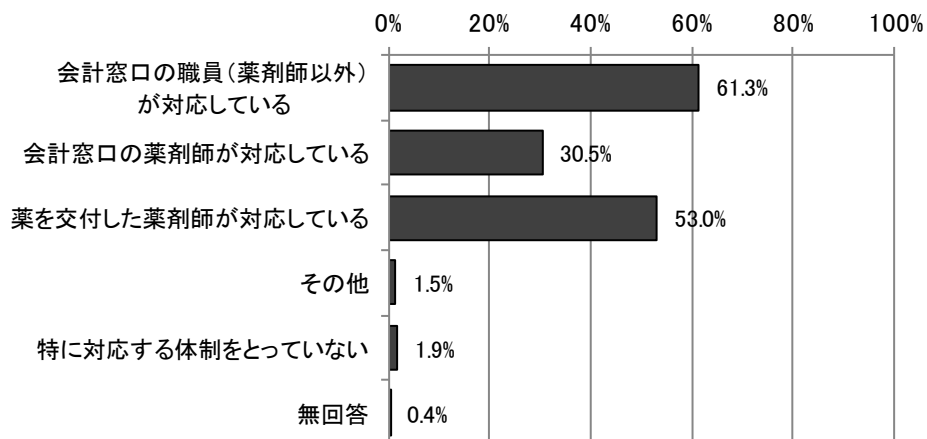


(注) 「その他」の内容として、一般診療所では「電子カルテから自動発行」(同旨含め2件)、歯科診療所では「外注」が挙げられた。

3) 保険薬局

保険薬局における明細書の作成・発行体制についてみると、「会計窓口の職員(薬剤師以外)が対応している」が61.3%で最も多く、次いで「薬を交付した薬剤師が対応している」(53.0%)、「会計窓口の薬剤師が対応している」(30.5%)であった。

図表 63 保険薬局における明細書の作成・発行体制 (複数回答、n=266)

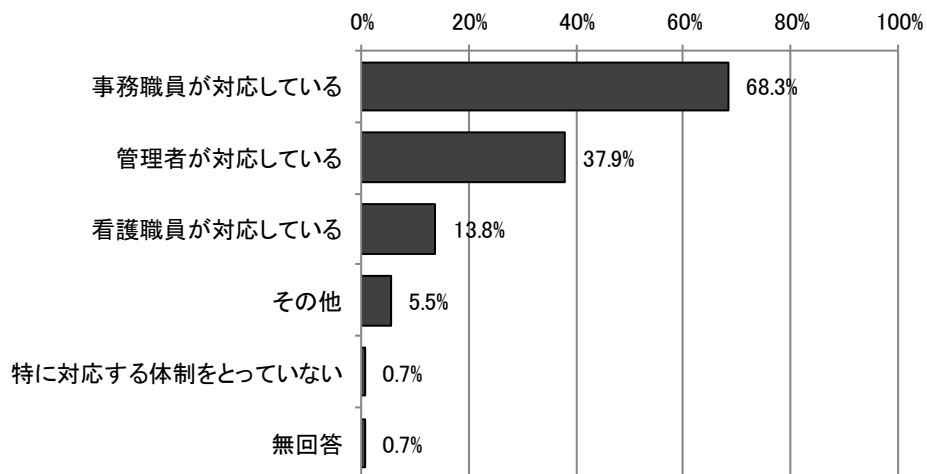


4) 訪問看護ステーション

訪問看護ステーションにおける明細書の作成・発行体制をみると、「事務職員が対応している」が68.3%で最も多く、次いで「管理者が対応している」(37.9%)であった。

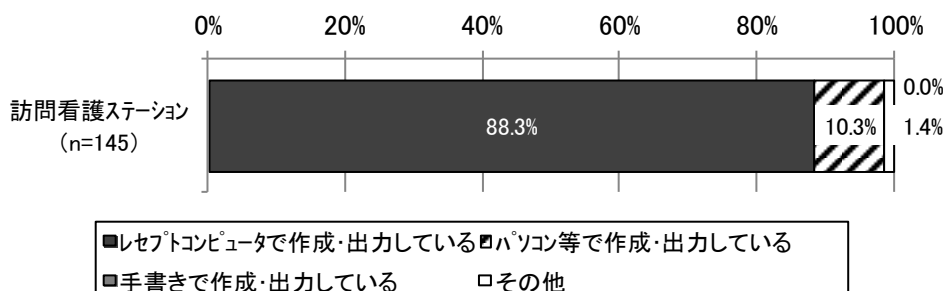
また、作成・発行方法についてみると、「レセプトコンピュータで作成・出力している」が88.3%で最も多かった。

図表 64 訪問看護ステーションにおける明細書の作成・発行体制（複数回答、n=145）



(注) 「その他」の内容として、「本社」(同旨含め2件)、「委託」(同旨含め2件)等が挙げられた。

図表 65 訪問看護ステーションにおける明細書の作成・発行方法 (n=145)

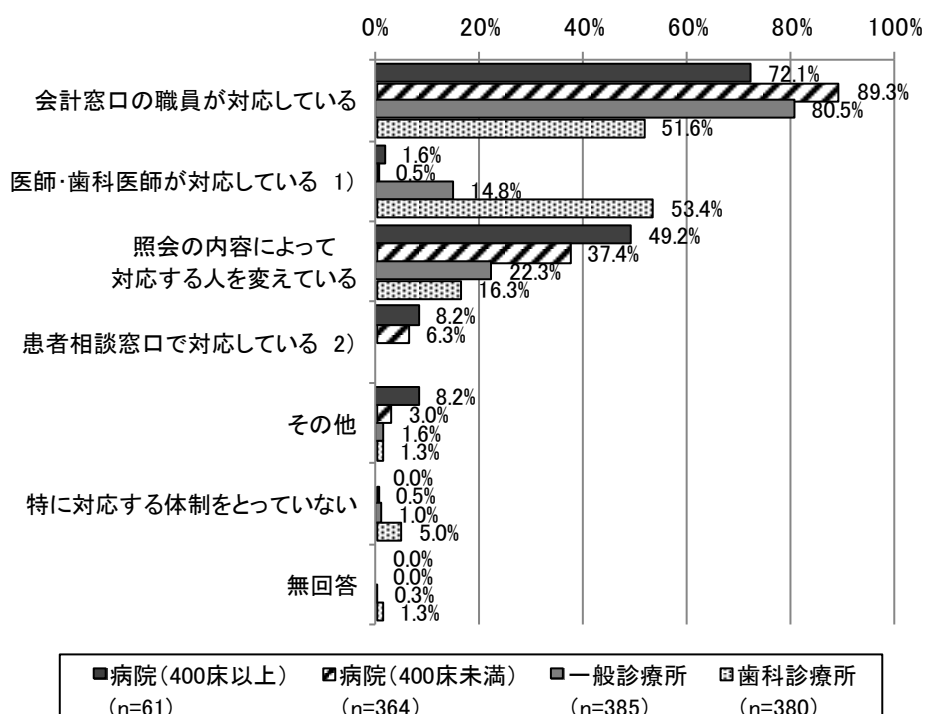


②明細書の内容等の問合せに対する対応体制

1) 医療機関

医療機関における明細書の内容等の問合せに対する対応体制をみると、歯科診療所以外の施設では「会計窓口の職員が対応している」（400床以上の病院72.1%、400床未満の病院89.3%、一般診療所80.5%）が最も多かった。歯科診療所では「歯科医師が対応している」が53.4%で最も多く、次いで「会計窓口の職員が対応している」（51.6%）であった。

図表 66 医療機関における明細書の内容等の問合せに対する対応体制（複数回答）



(注) 1) 一般診療所では「医師が対応している」、歯科診療所では「歯科医師が対応している」。

2) 一般診療所・歯科診療所では、本選択肢は設定していない。

・「その他」として、以下の内容が挙げられた。

病院：「医事課職員」（同旨含め4件）、「入院患者は入院担当者」（同旨含め2件）、「各外来窓口」（同旨含め2件）、「問合せがない」等

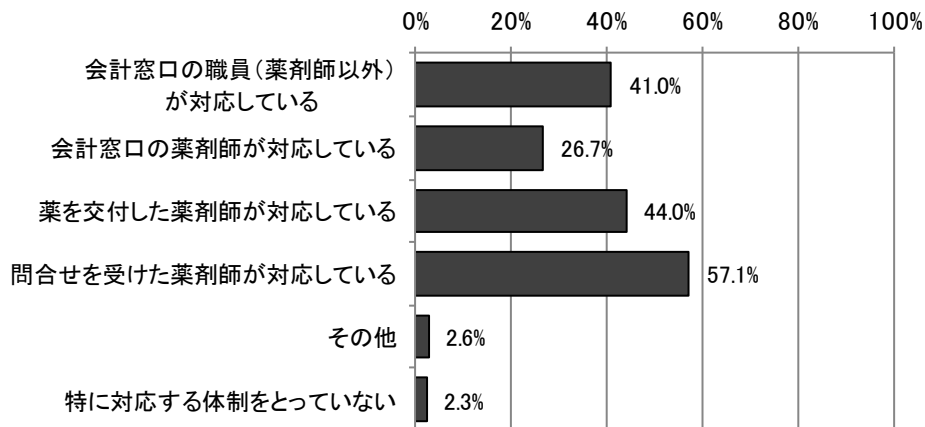
一般診療所：「問合せがない」（同旨含め3件）、「医事課」、「保健師」

歯科診療所：「問合せがない」（同旨含め2件）、「理事長」、「歯科医師又は歯科衛生士」

2) 保険薬局

保険薬局における明細書の内容等の問合せに対する対応体制についてみると、「問合せを受けた薬剤師が対応している」が57.1%で最も多かった。また、「会計窓口の職員（薬剤師以外）が対応している」、「薬を交付した薬剤師が対応している」も4割を超えた。

図表 67 保険薬局における明細書の内容等の問合せに対する対応体制（複数回答、n=266）

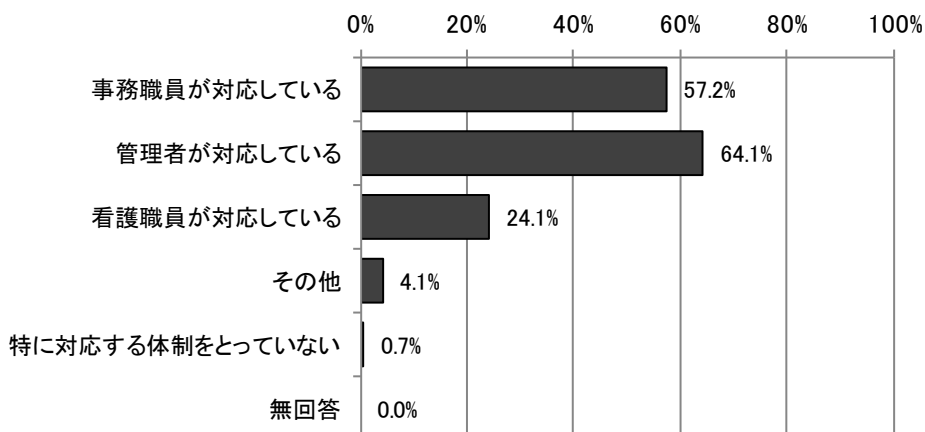


(注)「その他」の内容として、「問合せなし」(同旨含め3件)等が挙げられた。

3) 訪問看護ステーション

訪問看護ステーションにおける明細書の内容等の問合せに対する対応体制をみると、「管理者が対応している」が64.1%で最も多く、次いで「事務職員が対応している」(57.2%)であった。

図表 68 訪問看護ステーションにおける明細書の内容等の問合せに対する対応体制（複数回答、n=145）

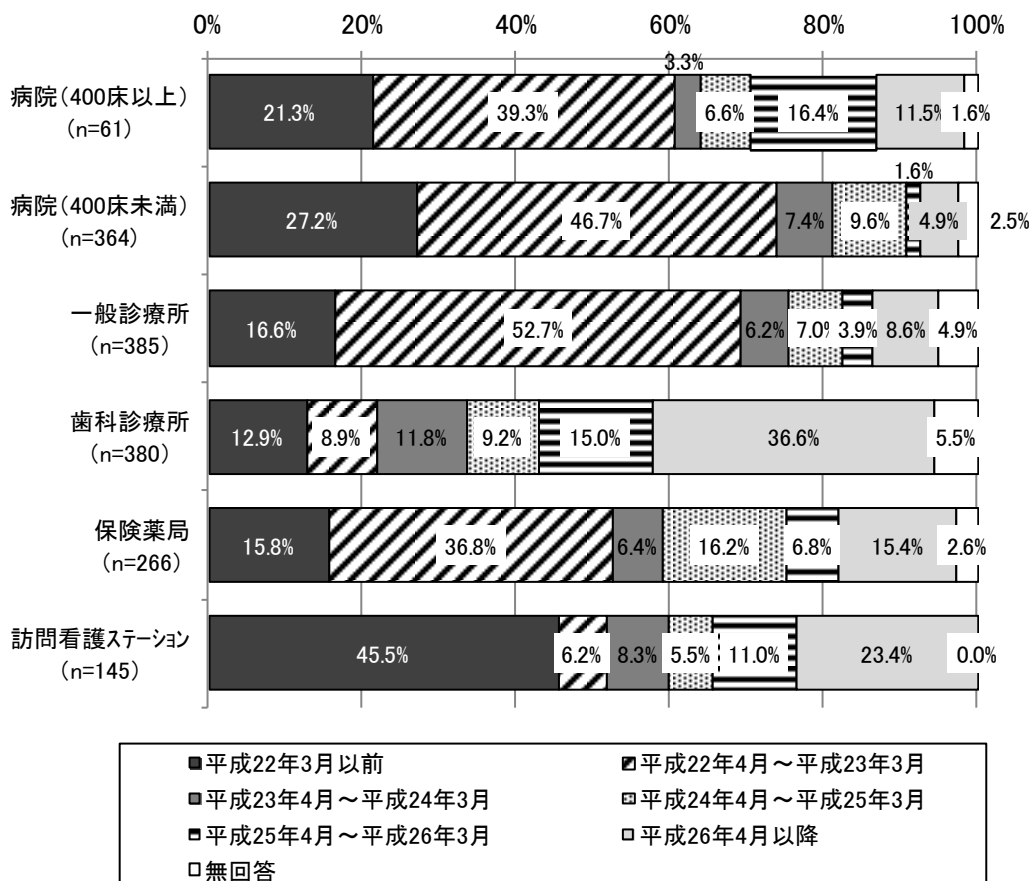


(注)「その他」の内容として、「本社」、「委託している」等が挙げられた。

③明細書の発行開始時期

明細書の発行開始時期についてみると、400床以上の病院、400床未満の病院、一般診療所、保険薬局では「平成22年4月～平成23年3月」（それぞれ39.3%、46.7%、52.7%、36.8%）が最も多かった。歯科診療所では「平成26年4月以降」が36.6%で最も多く、訪問看護ステーションでは「平成22年3月以前」が45.5%で最も多かった。

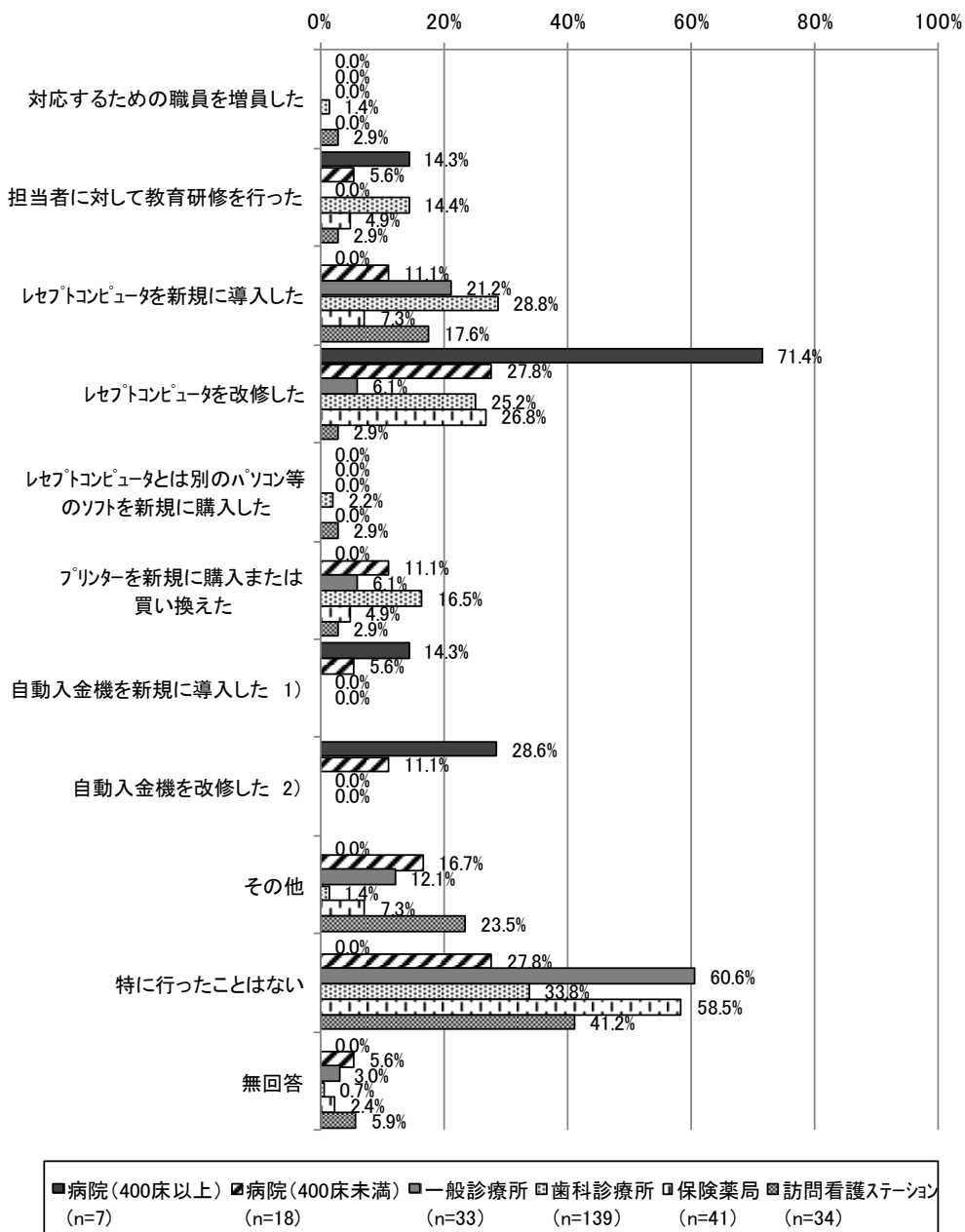
図表 69 明細書の発行開始時期



④明細書の作成及び患者からの照会のために行ったこと

明細書の発行開始時期が平成 26 年 4 月以降の施設・事業所に、明細書の作成及び患者からの照会のために行ったことを尋ねたところ、400 床以上の病院では「レセプトコンピュータを改修した」が 71.4%で最も多かった。400 床未満の病院では「レセプトコンピュータを改修した」と「特に行ったことはない」のいずれも 27.8%で最も多かった。それ以外の施設では「特に行ったことはない」(一般診療所 60.6%、歯科診療所 33.8%、保険薬局 58.5%、訪問看護ステーション 41.2%) が最も多かった。

図表 70 明細書の作成及び患者からの照会のために行ったこと
(明細書の発行開始時期が平成 26 年 4 月以降の施設・事業所、複数回答)



(注) 1) 2) 保険薬局・訪問看護ステーションでは、本選択肢は設定していない。

対応するための職員を増員した施設・事業所にその人数を尋ねたところ、歯科診療所と訪問看護ステーションのいずれも平均 1.0 人であった。

図表 71 対応するために増員した職員数（増員した施設・事業所）
(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
歯科診療所 (n=2)	1.0	0.0	1.0
訪問看護ステーション (n=1)	1.0	-	1.0

(注) 「対応するための職員を増員した」と回答した施設・事業所のうち、増員した職員数に記入のあった施設・事業所を集計対象とした。

明細書発行のための初期費用（人材体制整備のための費用）が発生した施設・事業所に費用額を尋ねたところ、歯科診療所では平均 12.3 万円（標準偏差 7.4、中央値 13.0）、保険薬局では平均 100.0 万円（中央値 100.0）、訪問看護ステーションでは平均 20.0 万円（中央値 20.0）であった。

図表 72 明細書発行のための初期費用（人材体制整備のための費用）
(明細書の発行開始時期が平成 26 年 4 月以降の施設・事業所)

	施設数(か所)			費用ありの施設における費用額(万円)		
	総数	費用なし	費用あり	平均値	標準偏差	中央値
病院(400床以上)	2	2	0	-	-	-
病院(400床未満)	7	7	0	-	-	-
一般診療所	19	19	0	-	-	-
歯科診療所	58	54	4	12.3	7.4	13.0
保険薬局	18	17	1	100.0	-	100.0
訪問看護ステーション	12	11	1	20.0	-	20.0

(注) 総数は記入のあった施設・事業所数、「費用なし」は「0(万円)」と記入があった施設・事業所数である。

明細書発行のための初期費用（設備投資のための費用）が発生した施設・事業所に費用額を尋ねたところ、400床以上の病院では平均 1,050.0 万円（標準偏差 1,060.7、中央値 1,050.0）、400床未満の病院では平均 227.1 万円（標準偏差 315.8、中央値 105.0）、一般診療所では平均 151.4 万円（標準偏差 122.1、中央値 152.0）、歯科診療所では平均 190.0 万円（標準偏差 356.9、中央値 75.0）、保険薬局では平均 500.0 万円（中央値 500.0）、訪問看護ステーションでは平均 77.5 万円（標準偏差 10.6、中央値 77.5）であった。

図表 73 明細書発行のための初期費用（設備投資のための費用）
（明細書の発行開始時期が平成 26 年 4 月以降の施設・事業所）

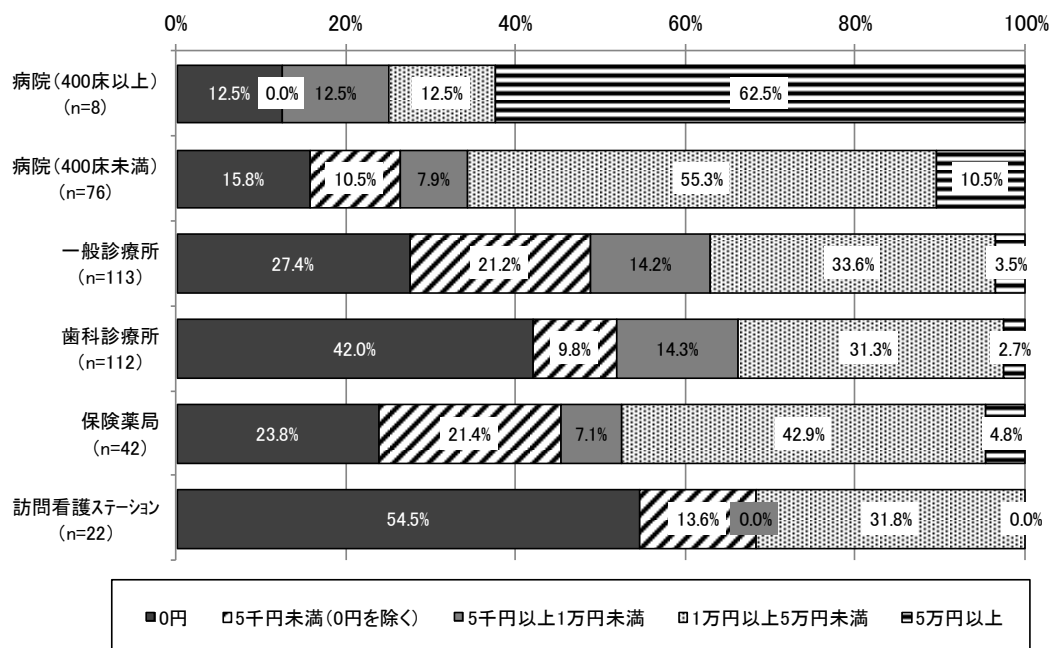
	施設数(か所)			費用ありの施設における費用額(万円)		
	総数	費用なし	費用あり	平均値	標準偏差	中央値
病院(400床以上)	3	1	2	1,050.0	1,060.7	1,050.0
病院(400床未満)	8	4	4	227.1	315.8	105.0
一般診療所	16	12	4	151.4	122.1	152.0
歯科診療所	59	21	38	190.0	356.9	75.0
保険薬局	18	17	1	500.0	-	500.0
訪問看護ステーション	11	9	2	77.5	10.6	77.5

(注) 総数は記入のあった施設・事業所数、「費用なし」は「0(万円)」と記入があった施設・事業所数である。

⑤明細書発行のための運用経費

平成 27 年 6 月 1 か月間における明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）についてみると、最も多かったのは、400 床以上の病院では「5 万円以上」（62.5%）、400 床未満の病院、一般診療所、保険薬局では「1 万円以上 5 万円未満」（それぞれ 55.3%、33.6%、42.9%）、歯科診療所、訪問看護ステーションでは「0 円」（それぞれ 42.0%、54.5%）であった。

図表 74 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）
（平成 27 年 6 月 1 か月間）

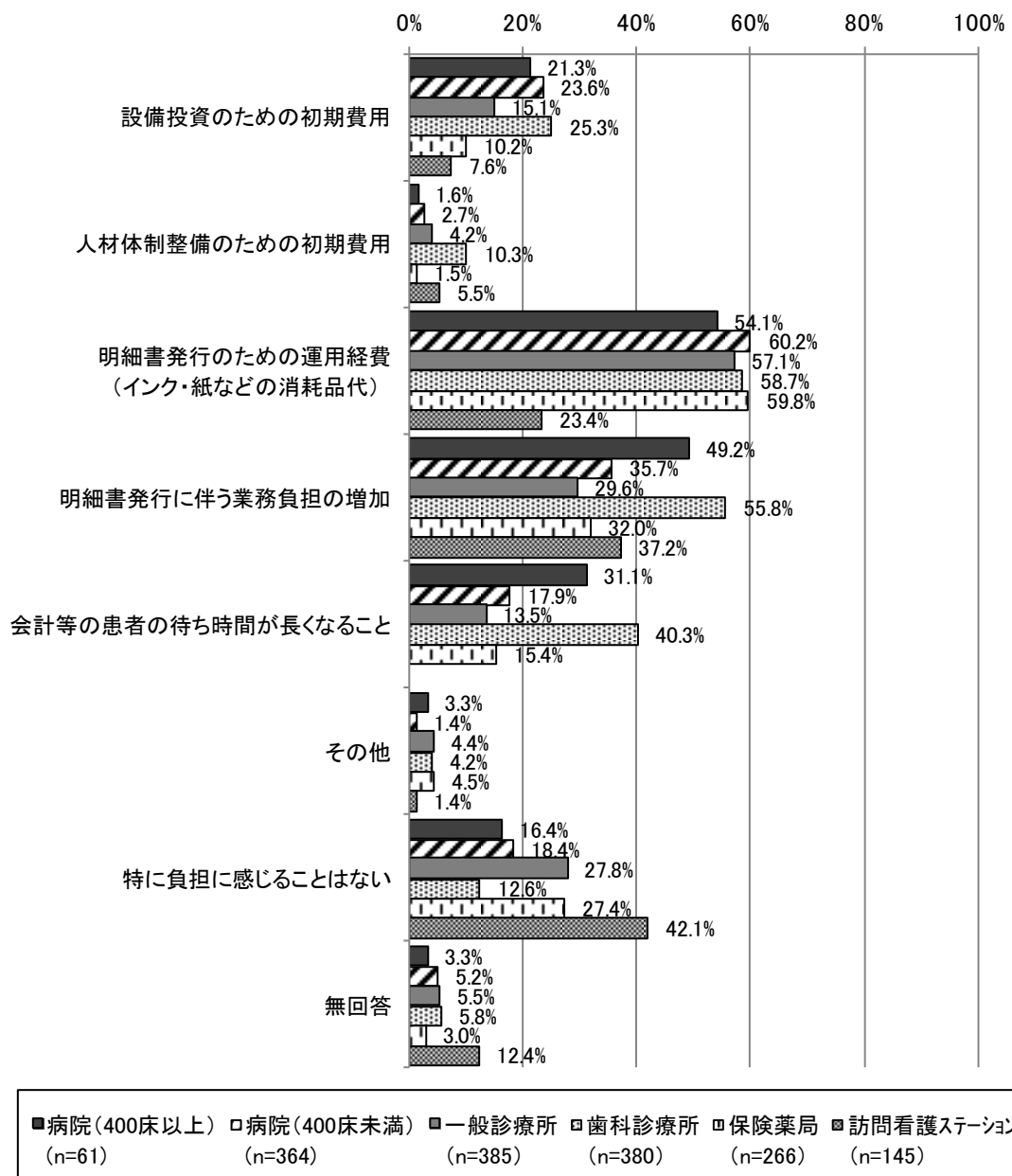


(注) 「明細書発行のための運用経費」に記入のあった施設・事業所を集計対象とした。

⑥明細書発行体制の整備における負担

明細書発行体制の整備における負担をみると、訪問看護ステーション以外の全施設で「明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）」が最も多く、5割を超えており、次いで「明細書発行に伴う業務負担の増加」が多かった。訪問看護ステーションでは「特に負担に感じることはない」が42.1%で最も多く、次いで「明細書発行に伴う業務負担の増加」（37.2%）であった。

図表 75 明細書発行体制の整備における負担（複数回答）



(注)・訪問看護ステーションでは、「会計等の患者の待ち時間が長くなること」の選択肢は設定していない。

・「その他」として、以下の内容が挙げられた。

病院：「内容に関する問合せ対応」（同旨含め3件）、「渡し誤りがないよう確認作業」、「患者に不必要と言われること」等

一般診療所：「内容に関する問合せ対応」（同旨含め6件）、「患者から紙が多いとの指摘を受ける」（同旨含め2件）、「不要となった紙の処分」等

歯科診療所：「不要になった明細書の処理作業コスト」（同旨含め2件）、「患者の質問への対応」（同旨含め2件）、「パソコンが壊れたときの修理費」、「控えの保存場所」等

訪問看護ステーション：「金額が利用者により必ずしも1割や3割負担でないこと」等

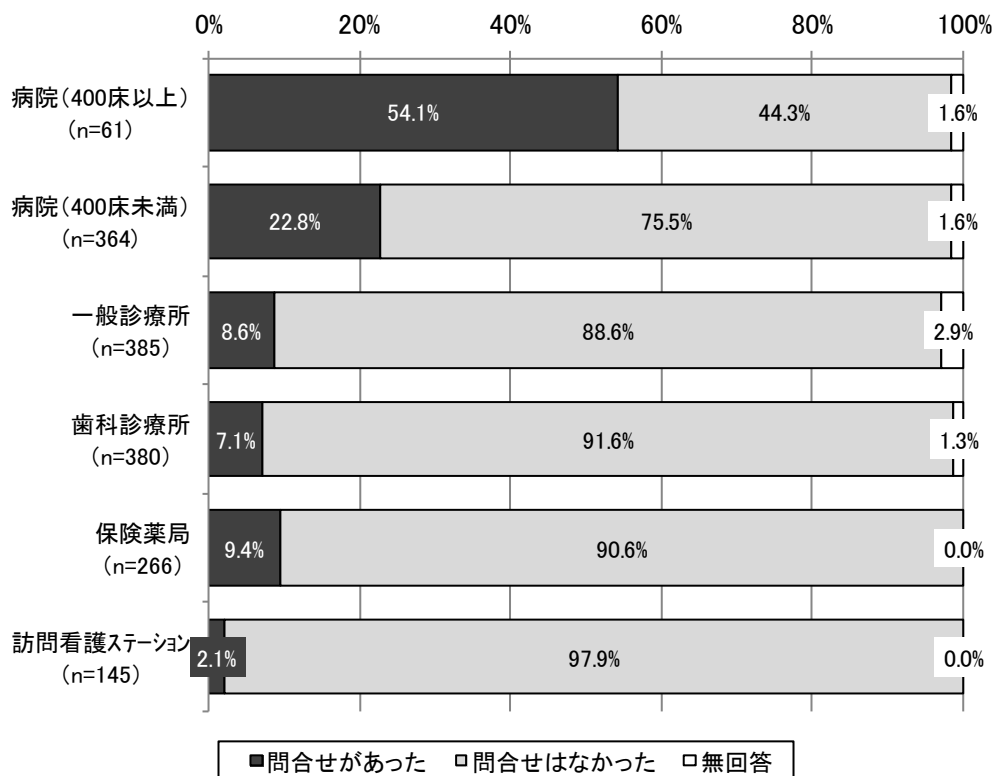
保険薬局：「初回来局時の方に聞く項目が増えること」、「明細書発行有無管理」等

(5) 明細書発行施設における明細書に関する患者の反応等

①明細書についての問合せの有無

平成 27 年 6 月 1 か月間における明細書についての問合せの有無を尋ねたところ、「問合せがあった」のは、400 床以上の病院では 54.1%、400 床未満の病院では 22.8%、一般診療所では 8.6%、歯科診療所では 7.1%、保険薬局では 9.4%、訪問看護ステーションでは 2.1%であった。

図表 76 明細書についての問合せの有無（平成 27 年 6 月 1 か月間）

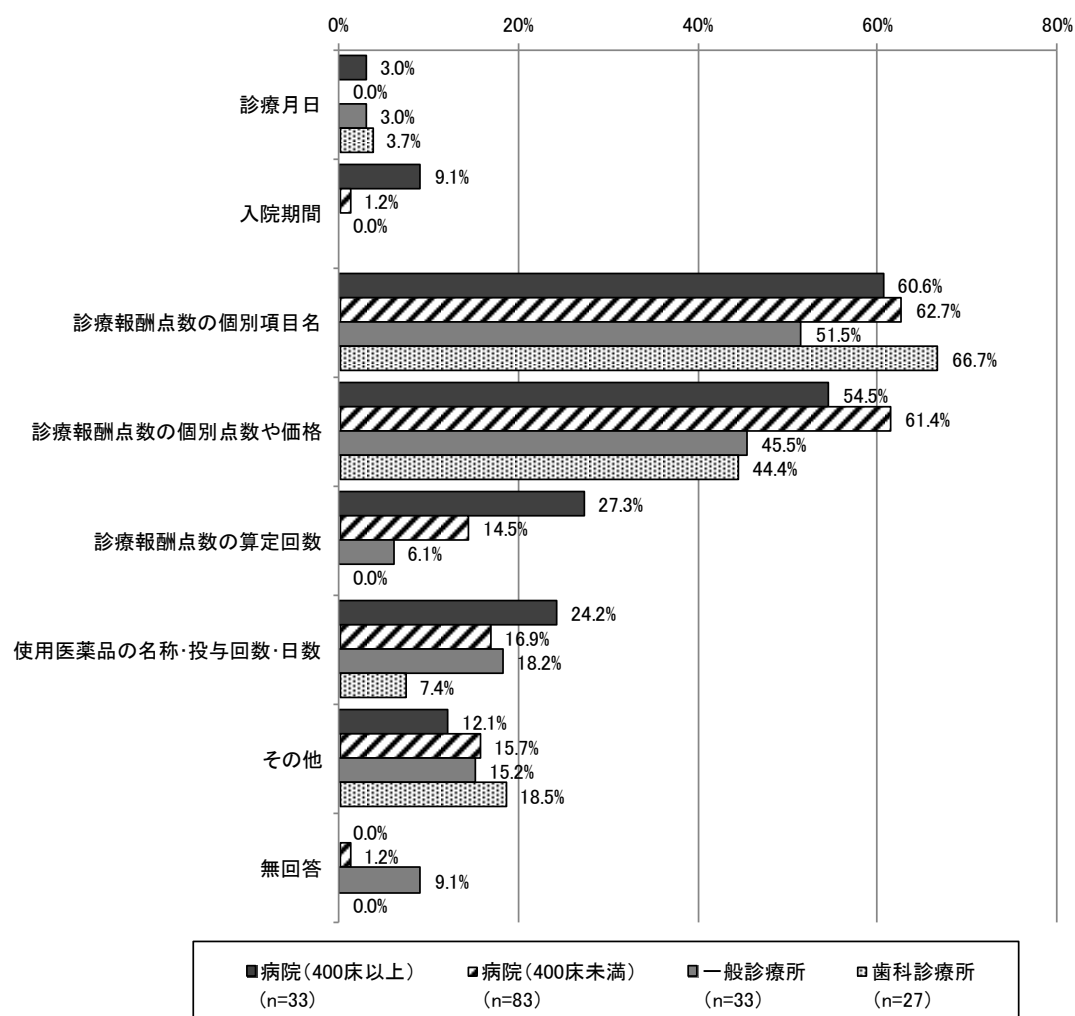


②明細書についての問合せ項目

問合せのあった施設に明細書についての問合せ項目を尋ねたところ、医療機関では「診療報酬点数の個別項目名」（400床以上の病院 60.6%、400床未満の病院 62.7%、一般診療所 51.5%、歯科診療所 66.7%）が最も多く全機関で過半数を超えた。次いで「診療報酬点数の個別点数や価格」が多かった。

また、最も多い問合せ項目としては、400床以上の病院、400床未満の病院、歯科診療所では「診療報酬点数の個別項目名」（それぞれ 42.4%、39.8%、51.9%）、一般診療所では「診療報酬点数の個別点数や価格」（39.4%）が最も多かった。

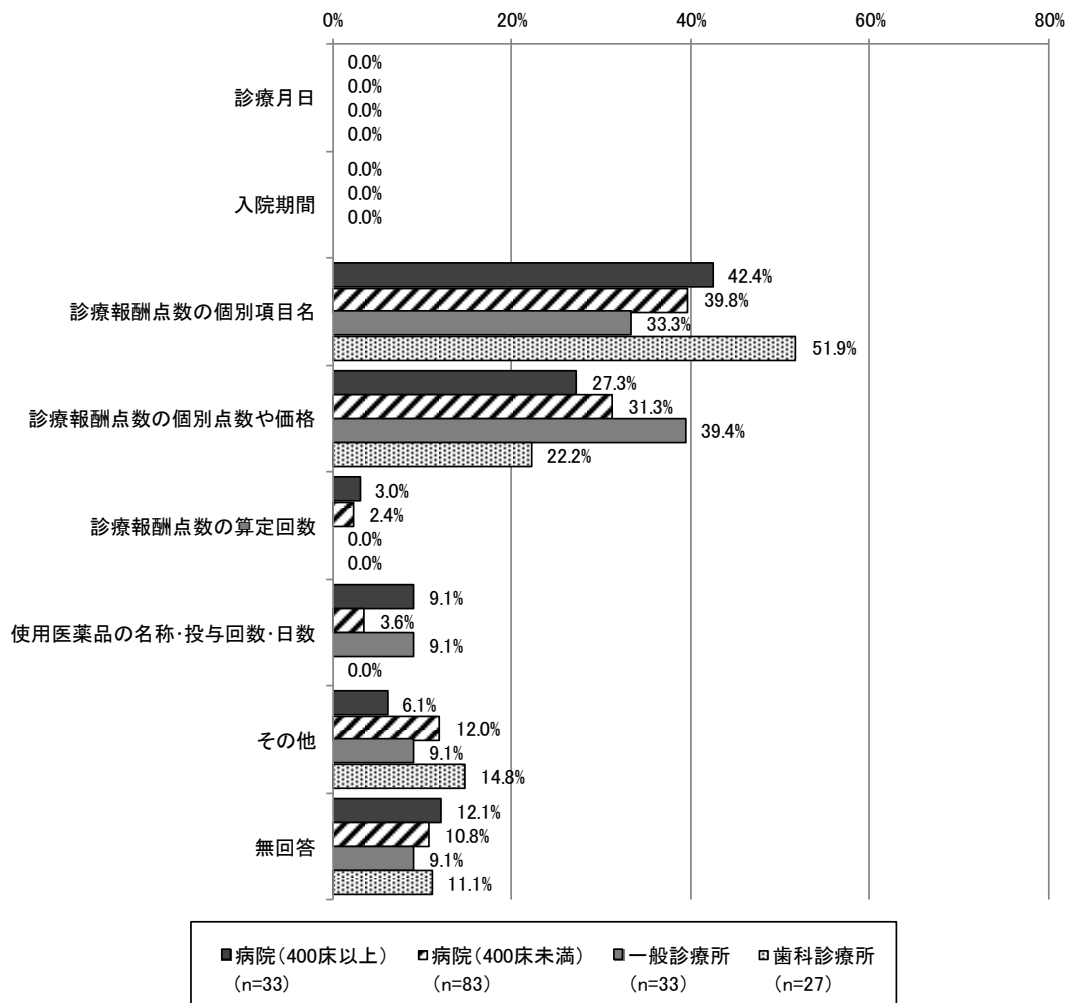
図表 77 医療機関における明細書についての問合せ項目
(問合せのあった施設、平成 27 年 6 月 1 か月間、複数回答)



(注) ・歯科診療所では、「入院期間」の選択肢は設定していない。

- ・「その他」の内容として、病院では「明細書の見方」（同旨含め 4 件）、「自己負担額の内容」（同旨含め 3 件）、「DPC の包括項目について」（同旨含め 2 件）等、一般診療所では「保険点数の理由」、「時間内の受診だったのに明細書に時間外対応加算が入っている」、「特定疾患療養管理料について」等、歯科診療所では「領収証があるのに明細書を出す理由」（同旨含め 2 件）、「保管の必要性」等が挙げられた。

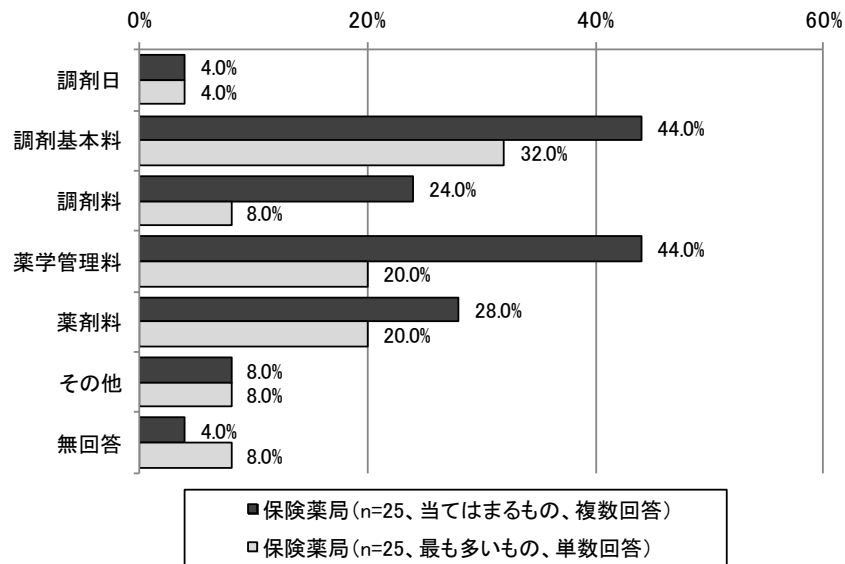
図表 78 医療機関における明細書についての問合せ項目（最も多いもの）
（問合せのあった施設、平成 27 年 6 月 1 か月間）



(注) 歯科診療所では、「入院期間」の選択肢は設定していない。

保険薬局では「調剤基本料」、「薬学管理料」がそれぞれ44.0%で最も多く、次いで「薬剤料」(28.0%)、「調剤料」(24.0%)であった。また、最も多い問合せ項目としては、「調剤基本料」が32.0%で最も多かった。

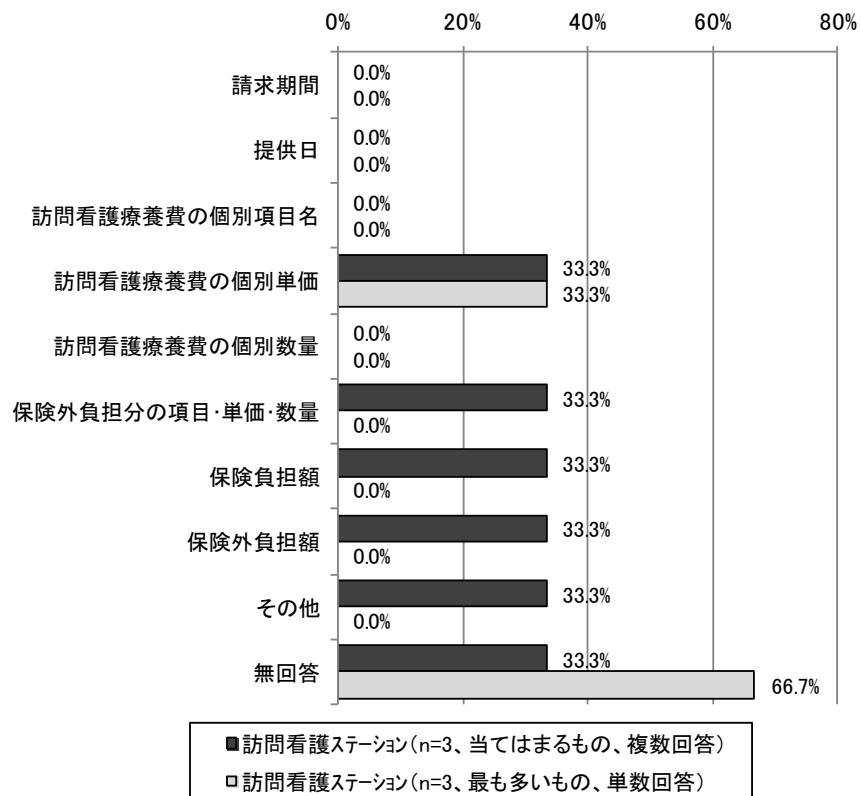
図表 79 保険薬局における明細書についての問合せ項目
(問合せのあった施設、平成27年6月1か月間)



(注) 「その他」の内容として、「負担割合」、「点数換算について」が挙げられた。

訪問看護ステーションでは「訪問看護療養費の個別単価」、「保険外負担分の項目・単価・数量」、「保険負担額」、「保険外負担額」がそれぞれ 33.3%であり、問合せ項目は分散していた。また、最も多い問合せ項目として回答があったのは「訪問看護療養費の個別単価」であった。

図表 80 訪問看護ステーションにおける明細書についての問合せ項目
(問合せのあった事業所、平成 27 年 6 月 1 か月間)



(注)「その他」の内容として、「支払方法」が挙げられた。

(6) 全患者に明細書の無料発行をしていない施設の状況等

①病院

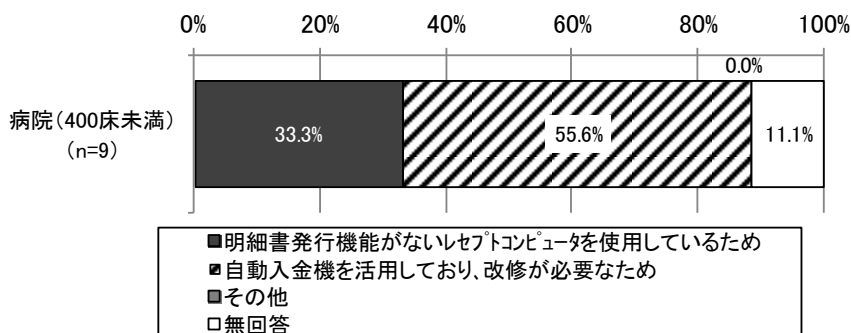
「正当な理由」の届出をし、希望する一部の患者にのみ明細書を発行している病院について、全患者に明細書の無料発行をしていない理由をみると、400床未満の病院では「明細書発行機能がないレセプトコンピュータを使用しているため」が33.3%、「自動入金機を活用しており、改修が必要なため」が55.6%であった。400床以上の病院では該当施設がなかった。

全患者への明細書無料発行体制の整備予定については、「具体的な計画がある」が55.6%、「具体的な時期は未定だが、検討中である」が33.3%であった。

全患者に明細書を無料発行する場合に困ることの有無については、「ある」が44.4%、「ない」が33.3%であった。

図表 81 全患者に明細書の無料発行をしていない理由

(「正当な理由」の届出をし、希望する一部の患者にのみ明細書を発行している病院)

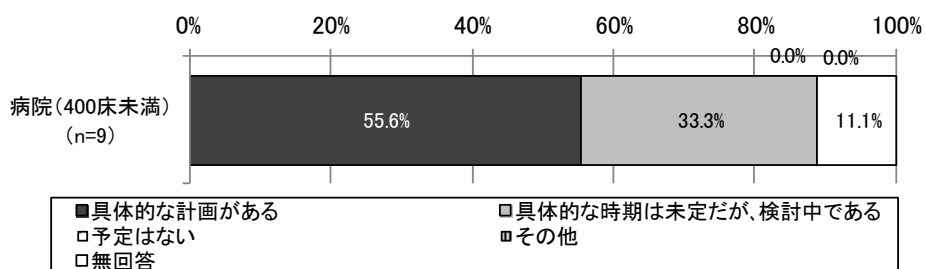


(注)・全患者に明細書の無料発行をしていない病院は、「明細書の発行状況」で『「正当な理由」の届出をし、発行を希望する一部の患者にのみ明細書発行をしている』を選択した9施設とした(以下同様)。

・400床以上の病院では該当施設がなかった。

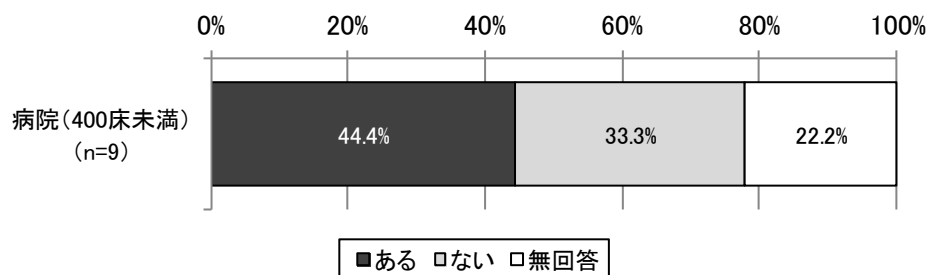
図表 82 全患者への明細書無料発行体制の整備予定

(「正当な理由」の届出をし、希望する一部の患者にのみ明細書を発行している病院)



(注) 明細書無料発行の具体的な予定があるとし、発行予定時期を回答した病院(400床未満)は、「平成28年1月頃」(2施設)、「平成27年8月頃」(1施設)、「平成28年4月頃」(1施設)であった。

図表 83 全患者に明細書を無料発行する場合に困ることの有無
 (「正当な理由」の届出をし、希望する一部の患者にのみ明細書を発行している病院)



(注) 「全患者に明細書を無料発行する場合に困ること」の具体的な内容として、「システムの改修が必要」、「費用がかさむ」、「追加請求分あるいは誤入力等による修正差替分の場合の対応方法について」、「明細書発行プリンターのメンテナンス費用、手間」が挙げられた。

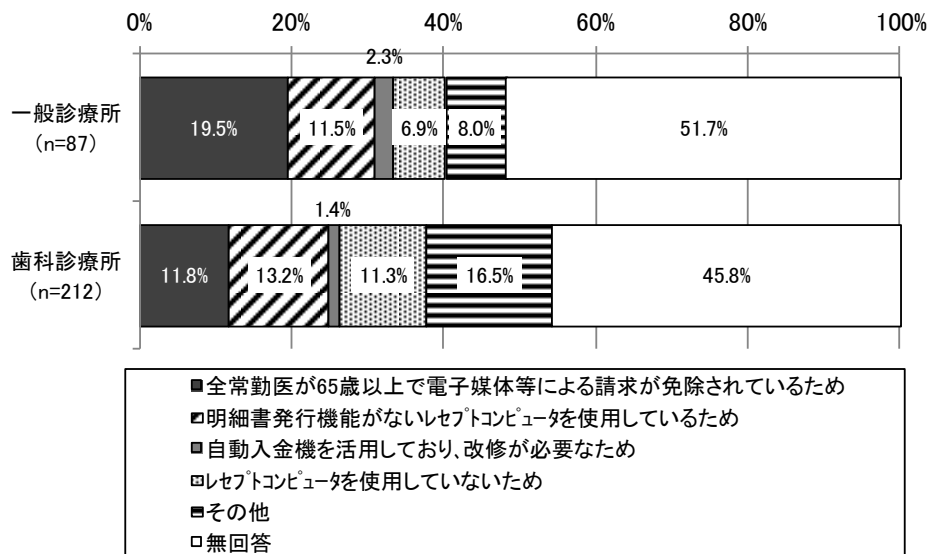
②診療所

全患者に明細書の無料発行をしていない診療所について、その理由をみると、一般診療所では「全常勤医が 65 歳以上で電子媒体等による請求が免除されているため」(19.5%) が最も多く、次いで「明細書発行機能がないレセプトコンピュータを使用しているため」(11.5%) であった。歯科診療所では「明細書発行機能がないレセプトコンピュータを使用しているため」が 13.2% で最も多く、次いで「全常勤医が 65 歳以上で電子媒体等による請求が免除されているため」(11.8%) であった。

全患者への明細書無料発行体制の整備予定については、一般診療所では「予定はない」(35.6%) が最も多く、次いで「具体的な時期は未定だが、検討中である」(9.2%) であった。歯科診療所では「具体的な時期は未定だが、検討中である」(26.4%) が最も多く、次いで「予定はない」(25.5%) であった。

全患者に明細書を無料発行する場合に困ることの有無については、一般診療所では「ある」が 13.8%、「ない」が 28.7% であった。歯科診療所では「ある」が 19.3%、「ない」が 31.6% であった。

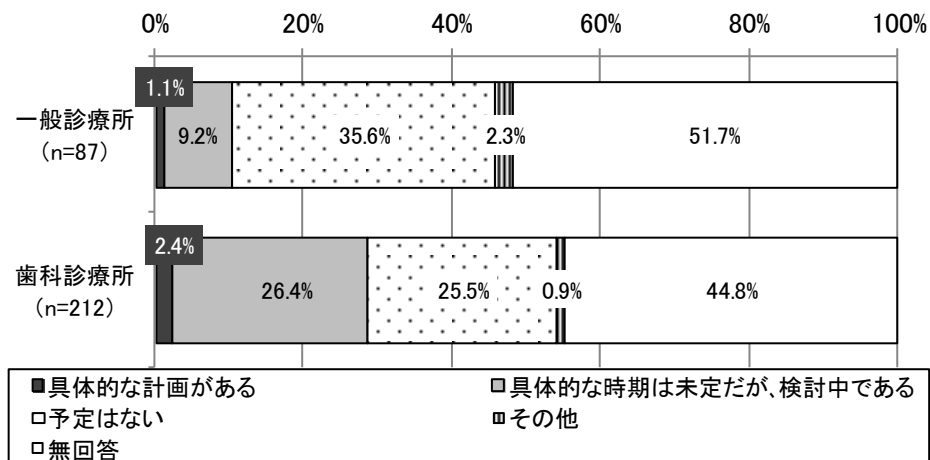
図表 84 全患者に明細書の無料発行をしていない理由
(全患者に明細書の無料発行をしていない診療所)



(注)・全患者に明細書の無料発行をしていない診療所は、「明細書の発行状況」で「希望する一部の患者にのみ明細書を発行している」又は「明細書の発行は行っていない」を選択した施設と、「明細書の発行状況」で「原則、全患者に明細書を発行している」を選択した施設のうち「明細書発行にかかる費用徴収の有無」で費用を「徴収している」と回答した施設とした（以下同様）。

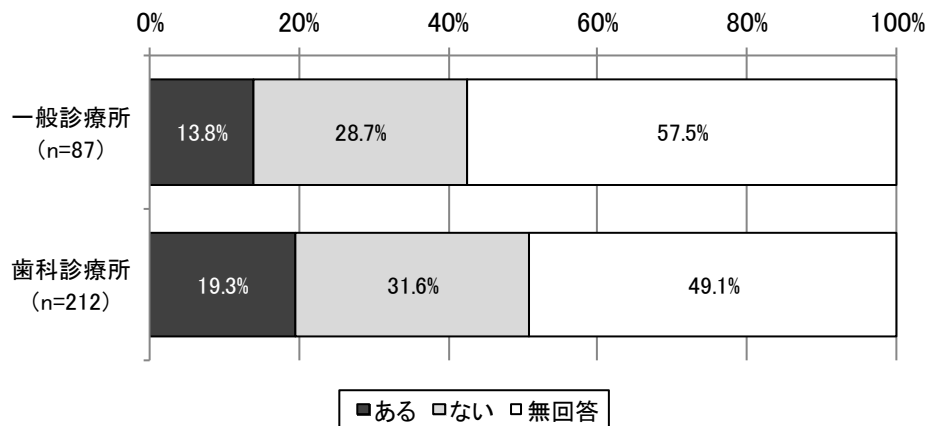
・「その他」の内容として、一般診療所では「患者からの希望がないため」（同旨含め 4 件）、「事務の負担増」、「特養入所者のみの診察のため、別途職員が治療内容を説明しているから」、「特に理由はない」等、歯科診療所では「患者からの希望がないため」（同旨含め 8 件）、「パソコンが苦手がよくわからない」（同旨含め 2 件）、「人手不足のため」（同旨含め 2 件）等が挙げられた。

図表 85 全患者への明細書無料発行体制の整備予定
(全患者に明細書の無料発行をしていない診療所)



(注) 明細書無料発行の具体的な予定があるとし発行予定時期を回答した診療所は、一般診療所では「平成 27 年 9 月頃」（1 施設）、歯科診療所では「平成 27 年 8 月頃」（2 施設）、「平成 27 年 9 月頃」（2 施設）、「平成 28 年 10 月頃」（1 施設）であった。

図表 86 全患者に明細書を無料発行する場合に困ることの有無
(全患者に明細書の無料発行をしていない診療所)



- (注) 「全患者に明細書を無料発行する場合に困ること」の具体的な内容として、以下が挙げられた。
- ・一般診療所：「人手が足りない」、「手間がかかり人件費等が増加する。現在でも赤字経営」、「明細書を発行するための設備投資に不安がある。現状では明細発行までの時間がかかり過ぎる (レセコンがないため)」等
 - ・歯科診療所：「設備投資や業務負担の増加」、「明細書発行機能はレセプトコンピュータ導入に初期費用がかかる」、「インク紙などの管理や置き場所、受付の時間の長さなど」、「医学管理科など患者が質問や不信を持ちやすい。説明に時間がかかる」等

③訪問看護ステーション

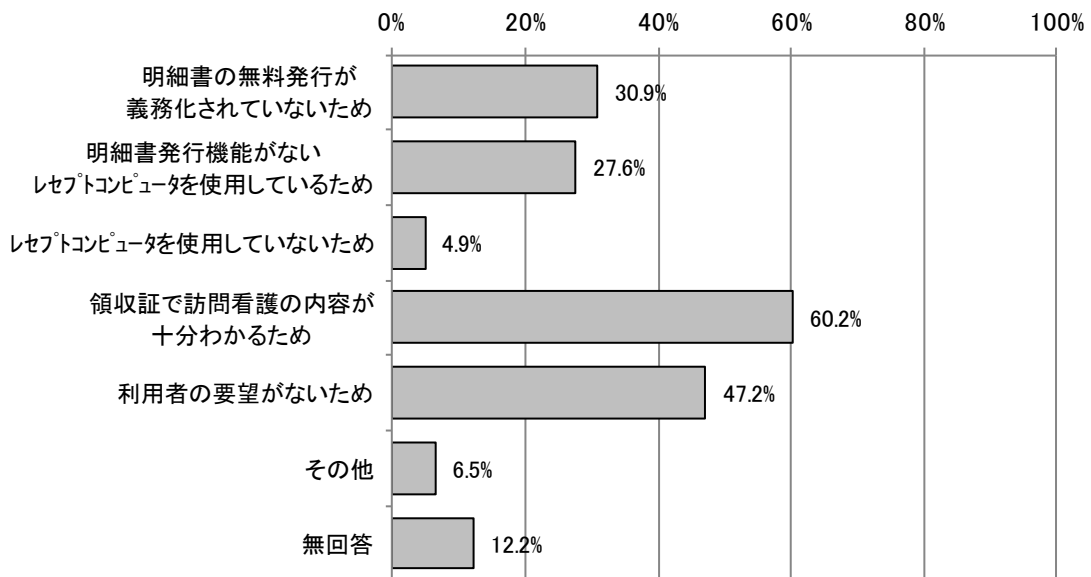
全利用者に明細書の無料発行をしていない訪問看護ステーションについて、その理由をみると、「領収証で訪問看護の内容が十分わかるため」が 60.2%で最も多く、次いで「利用者の要望がないため」(47.2%)であった。

全利用者への明細書無料発行体制の整備予定については、「予定はない」が 62.4%で最も多かった。

全利用者に明細書を無料発行する場合に困ることの有無については、「ある」が 22.0%、「ない」が 58.5%であり、困ることがなくとも整備予定がない事業所が多いと思われる。

図表 87 全利用者に明細書の無料発行をしていない理由

(全利用者に明細書の無料発行をしていない訪問看護ステーション、複数回答、n=123)

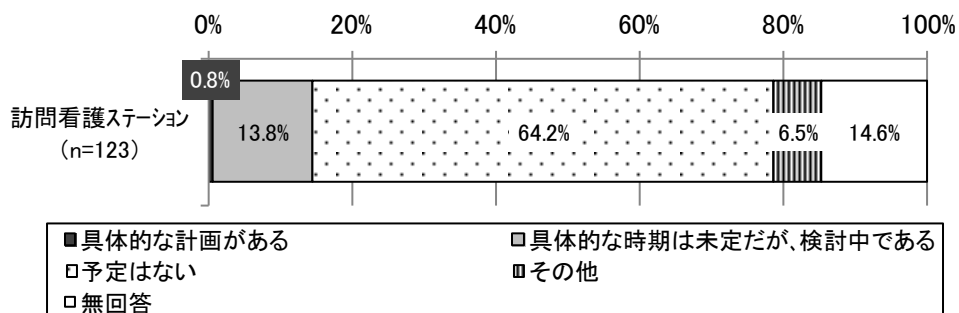


(注)・全利用者に明細書の無料発行をしていない訪問看護ステーションは、「明細書の発行状況」で「希望する一部の利用者にも明細書を発行している」又は「明細書の発行は行っていない」を選択した事業所と、「明細書の発行状況」で「原則、全利用者に明細書を発行している」を選択している事業所のうち「明細書発行にかかる費用徴収の有無」で費用を「徴収している」と回答した123事業所とした(以下同様)。

- ・「その他」の内容として、「請求書に明細書と同じ項目を記載してあるため」(同旨含め4件)、「自己負担額のない利用者がほとんどで、請求書にて療養費の詳細な内容がわかり、説明しているため」等が挙げられた。

図表 88 全利用者への明細書無料発行体制の整備予定

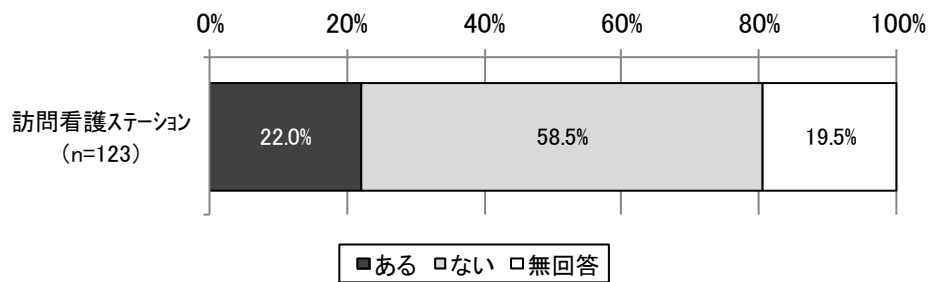
(全利用者に明細書の無料発行をしていない訪問看護ステーション)



(注)・明細書無料発行の具体的な予定があるとし発行予定時期を回答した訪問看護ステーションは、「平成28年4月頃」(1事業所)であった。

- ・「その他」の内容として、「利用者の要望があれば対応」(同旨含め2件)、「ソフトが対応できれば発行」(同旨含め2件)等が挙げられた。

図表 89 全利用者に明細書を無料発行する場合に困ることの有無
 (全利用者に明細書の無料発行をしていない訪問看護ステーション)



(注)「全利用者に明細書を無料発行する場合に困ること」の具体的な内容として、「事務業務の負担増」、「用紙印刷の調整とコスト調整」、「事務担当職員がいないため、管理者の業務が増える」、「現在、発行している請求書、領収証に、明細書で必要な項目、単価、回数も表示されるため、内容が重複する」等が挙げられた。

(7) 明細書の無料発行に関する意見等

本調査において、明細書の無料発行にあたっての意見等を自由記述形式で記載して頂いた内容のうち、主な意見を取りまとめた。

①病院

【業務負担・経済的負担が大きい】

- ・領収証と明細書のマッチングが大変。
- ・小規模の病院だと診療内容についての質問を回答できるスタッフのマンパワー不足となっていて、現在、体制（システム改修も含めて）検討中。
- ・運用に紙、インク代や人的経費がかかるので「希望者のみ発行」に改定してほしい。現状のままいくのであれば、診療報酬の加算を求める。 /等

【明細書発行対象者を限定すべき】

- ・機械的に渡しているが誰も見ていない。興味ある人がネットで自分のレセプトを見られるとよいのでは。
- ・外来で不要だという人が意外に多い（20%）。
- ・明細書に目を通さない人が多いので、希望者にのみ発行する方が良いと思う。 /等

【患者が明細書の意義・内容を理解できていない】

- ・明細書を見てもわからない点が多く、また、領収証があるのでいらないという患者が多い。
- ・患者から、明細書の内容を見てもよくわからないと言われることが多々ある。
- ・明細書の必要性を認識し、もらって行く人がほとんどいない（捨てられる）。「明細書を下さい」と言われたことがない。患者にとって不要なものを配っている気がする。 /等

【明細書の無料発行を行うべき】

- ・無料発行は当然だと思う。
- ・どれだけの人が明細書を確認しているかわからないが、内容が明確にわかり良いことだと思う。
- ・行われた診療行為が明確にわかるため、患者側は安心できるし、病院側は請求の間違いを減らすことができると思うので、無料発行の実施は良いと感じている。
- ・自己負担がない人にも義務化する必要があると考える。 /等

【環境負荷が大きい】

- ・明細書を発行しても見ていない患者が多数いて、環境（エコ）の観点から見て、全員に発行するのは疑問に感じる。希望者、もしくは、医療費が高額な入院患者のみに発行でもいいのではないかと感じる。
- ・患者側から不必要、資源のムダと言われることが多い。 /等

【その他】

- ・入金機からの取り忘れ、ゴミ箱への廃棄が多く、個人情報漏洩の危険がある。また、取ったとしてもそのままカバンへ入れる等患者もあまり見ていない。原則全員に無料発行する意義はない。
- ・悪性腫瘍の患者に渡す場合、関連する項目の記載があるので、告知を受けてない患者の場合等、トラブルにならないかなと思う。
- ・用紙代、業務負担の増加あり。会計までの時間がかかる。
- ・なくしてほしい。
- ・自動支払機に列ができる（時間を要する）。特に高齢者は領収証との区別がつかず、領収証を破棄する患者が増えた。 /等

②一般診療所

【業務負担・経済的負担が大きい】

- ・用紙、インク、人材体制など負担が多く発生する。
- ・明細書発行体制加算が1点は、あまりにも安すぎる。コスト、手間を考えると最低でも3点はほしいところ（プリンタを酷使するためメンテナンス費用がかさむ）。
- ・1人に1点10円のわりに整備のための人件費、設備費が多すぎる。 /等

【明細書発行対象者を限定すべき】

- ・不要の人が多いため、発行は希望者のみにしてほしい。
- ・大多数の患者には不必要なものであり、必要な患者にのみ（希望される方）有料で渡せば良い。
- ・希望する方のみ無料発行で良いと思う。 /等

【患者が明細書の必要性を感じていない】

- ・とても良いことだとは思いますが、内容を見てない人も多いようだ。
- ・明細書を発行して渡しても、「いらないので処分してください」とよく言われる。
- ・明細書について無関心な患者が多いように思う。 /等

【患者が明細書の意義・内容を理解できていない】

- ・患者に内容が理解できているのか疑わしい。
- ・明細書を希望するが確認に時間がかかったり、保管の仕方・提出するものかなどの質問ばかり。一番多いのは、自宅のメモ用紙にするために発行してほしいと言われる。とりやめにしてほしい。 /等

【明細書の無料発行を行うべき】

- ・診療内容についてわかるので、無料発行は良いことだと思う。

- ・診療内容とその負担額が明示され、患者にとっては有意義だと思われる。
- ・医療費そのものへの患者の関心や意識の向上に役立っている上、診療報酬の過誤や不正請求に対する監視の役割もあり、今後も無料で継続すべき。 /等

【環境負荷が大きい】

- ・紙資源の無駄だから必要ないという患者が多い。
- ・一人ひとりに領収証で内訳、点数を明記して渡しているのに、その都度「診療明細書」を渡すのは紙のムダ。こんなにエコを推奨しているのに…。希望する人にもみ渡すので良いと思う。 /等

【その他】

- ・無料発行は必要なし。
- ・少人数（1～2人）で診療している施設では困難。
- ・紙資源節約の風潮の中、時代に逆行している気もするが、自身が病院にかかり検査等を受けた場合、内容を知りたいので明細書を確認したい。
- ・点数表記でなく金額表記にするべき。具体的料金が意識され次回からの削減効果期待できる。
- ・有料化が望ましい（高額でなく）。
- ・患者側が医療費の内訳を知りたいと思うのは、当然であると思うが、無料ではなく、現行のような加算体制が望ましい。 /等

③歯科診療所

【業務負担が大きい】

- ・窓口の患者からの質問の対応が特別増加している。診療時間の減少、スタッフの対応の増加など、診療と関係のない危機管理が増加した。その点は何とかしてほしい。
- ・歯科医療の場合、診療内容の点数が細分化されているので、明細書の発行は事務的な手続きが多くなり難しいと思う。
- ・非常に業務負担が重いので困る。その割に患者は重要視していないし、目の前でくしゃくしゃに丸められたりする。いらないという人もいる。業務負担が増えるとミスも出てくるので迷惑。 /等

【経済的負担が大きい】

- ・今の点数では赤字である。点数を上げてほしい。
- ・レセコン新規導入に対応するための費用が高すぎる。約300万円の費用負担になり、回収は不可能。老人は明細書をすぐにゴミ箱に捨てるので意味がない。
- ・消耗品の費用の負担をお願いしたい。 /等

【明細書発行対象者を限定すべき】

- ・要望者のみの発行にするべき。
- ・ほとんどの人が必要と思っていないように見受けられるので、必要な人は申し出てもらって発行するほうが望ましいように思う。 /等

【領収証の内容で十分である】

- ・患者と医者との信頼関係が成り立っている場合は、手間のかかる明細書の発行は無駄で、領収証の発行だけでよいと思う。
- ・患者からの要望があれば発行している状態だが、要望がほとんどない。当初、患者に明細を出してほしいか聞いていたが「領収証で十分です」との答えがほとんどだった（必ずしも全患者に発行する必要はないものと思われる）。 /等

【患者が明細書の必要性を感じていない】

- ・当診療所では明細書の発行を不要とする患者が圧倒的に多く、このことが医療費を抑制する効果にはならないと思う。
- ・患者の中にはすぐに捨てる人もいる。
- ・「領収証はください」といわれるが「明細書は紙ばかりもらってもわからないのでいらない」と言われる。 /等

【患者が明細書の意義・内容を理解できていない】

- ・発行するなら患者にもわかる言葉を使うべき。
- ・明細書の内容を患者が理解できるとは思えない。専門用語をそのまま使うのではなく素人にもわかるような言葉で発行したらよい。
- ・処置名が難しいので患者にはわかりにくいのではないかな。 /等

【その他】

- ・きちんとした文書なので有料にしてほしい（低価でもよい）。
- ・無料有料にかかわらず明細書の発行は大病院など施設により診療内容（オペ、新しい検査など）により必要な場合も考えられるが、料が少ない規模の小さな町医者には大変な負担である。また、口頭の説明・領収証などで理解できるほどの診療内容もあると思われるので、一律ということについては熟慮を必要と思われる。
- ・スタッフの業務が少し煩雑になるが、やむを得ないことだろう。
- ・領収証の内容についてどの程度の詳細が必要なのか、一般の患者の意見を聞きたい。どのような領収証がほしいのか選択性にすべきだろう。 /等

④保険薬局

【患者に渡す書類が多い】

- ・患者が医療機関の受診で受け取る紙の量が多すぎる（領収証、明細書、薬情など）といったクレームを時々聞く。
- ・明細書発行のために患者に渡す用紙が増えるため、必要とする書類が見つげにくくなり困っている様子をよく見受ける。
- ・患者も紙ばかりもらって何が何の書類かわからない人が多い。 /等

【業務負担、経済的負担が大きい】

- ・明細書を今まで不要と言っていた患者を含め、すべての患者に発行するとなると経費がかかる（紙代、インク代など）。
- ・運用経費と労力がかかるので要望の有無にて発行したい。服薬指導と同時になることもあり、待合室に「早く薬を出してくれ、あまり待ちたくない」という雰囲気のある患者もいるのでせつないことがある。 /等

【明細書発行対象者を限定すべき】

- ・明細書発行希望者のみにしてほしい。
- ・保険薬局の明細書に関しては、領収証にもほぼ同様の記載があるため発行を希望しない患者も多い。ゴミになるとの意見もあり希望者のみでよいのではないかと考える。
- ・必要とする患者の少なさに驚きあり。毎回ではなく必要な人のみでよいのでは。 /等

【患者が明細書の意義・内容を理解できていない】

- ・明細書の意義に対して患者自身が理解していないケースがあると感じることもある。
- ・特に高齢者や自己負担のない患者は必要性を感じてもらえないことが多い。文言が専門すぎて理解できない患者が多い。
- ・不要の人もいて、中にはメモ用紙にもらって行くからという人もいる。患者の要望に応じた対応でよいと思う。 /等

【環境負荷が大きい】

- ・明細書はお薬手帳を兼ねている。資源の無駄だと思うので1枚に統一したほうがよい。
- ・最初のころは興味を示す患者もいたが徐々にいなくなり、ゴミになるから出さないでと希望する患者さんがかなり増えた。資源の面から考えると無駄なところも感じる。 /等

【その他】

- ・現行のままで特に問題はない。
- ・料金の透明性が得られてよいと思う。不正ができない。
- ・患者から廃棄の手間についての意見が多い。個人情報が多く病名も連想されやすいとのこと。

- ・明細書の要否の把握について患者ごとに異なるため日常業務において大変である。
- ・診療や調剤の中身をオープンにすることは意味があると思うが、調剤の明細書の中身は意味が薄い。料金の方は領収証でわかるし、薬の品名については別に薬情や手帳を渡しているので重複している。医科の明細書は注射の中身や検査の内容がわかり、患者から見せてもらって勉強になるが…。 /等

⑤訪問看護ステーション

【領収証の内容で十分である】

- ・利用料請求書及び領収証に「サービス費内訳」として明記してあるため、必要性を感じていない現状。義務化、あるいは、求めがあれば無料発行する。
- ・領収証に明細が載っている。領収証を渡す際、口答でも説明しているので、明細書の必要を感じないし、利用者から請求されたこともない。
- ・領収証の中にくわしく内訳が書かれているため、明細書を出すとしてもたぶん中身は同じものになるので、何の意味があるのかわからない。薬局や病院ならわかるが。 /等

【業務負担、経済的負担が大きい】

- ・現在は負担を最小限におさえられているが、今後利用者が増加した後に対応する負担は大きいと考える。
- ・請求書に同時に出力されるので特に問題はない。ただ、その機能がない事業所の方の導入はきびしいかもしれない（コスト、時間、人件費、操作についてなど）。
- ・業務量が多く、レセプトコンピュータに反映して出てくるようなら発行するのは可能だが、今の領収証でも、明細代わりになりそうだが…。 /等

【その他】

- ・利用者はもって行った日にくずかごに捨てている。ショック。
- ・結局紙の無駄になる気がする。必要としている人は少人数で、その他は明細をみても理解が難しい人がたくさんいる。
- ・明細書の発行は義務の一つだと思う。利用者からの内訳等の問合せにも対応していきたい。
- ・統一フォーマットやDBがあると嬉しい。
- ・渡す紙が多すぎて、利用者のニーズが知りたい。 /等

3. 患者調査

【調査対象等】

①病院（入院）患者調査

調査対象：調査期間中に「病院調査」の対象施設で精算があった入院患者。ただし、1施設につき最大2名を対象とした。

回答数：372人

②病院（外来）患者調査

調査対象：調査期間中に「病院調査」の対象施設で精算があった外来患者。ただし、1施設につき最大2名を対象とした。

回答数：499人

③一般診療所患者調査

調査対象：調査期間中に「一般診療所調査」の対象施設で精算があった外来患者。ただし、1施設につき最大2名を対象とした。

回答数：500人

④歯科診療所患者調査

調査対象：調査期間中に「歯科診療所調査」の対象施設で精算があった外来患者。ただし、1施設につき最大2名を対象とした。

回答数：560人

⑤保険薬局患者調査

調査対象：調査期間中に「保険薬局調査」の対象施設に院外処方せんを持って来局し、精算のあった患者。ただし、1施設につき最大2名を対象とした。

回答数：323人

⑥訪問看護ステーション利用者調査

調査対象：調査期間中に「訪問看護ステーション調査」の対象事業所の訪問看護（医療保険）を1か月以上利用し、かつ調査期間中も利用のあった利用者。ただし、1事業所につき最大2名を対象とした。

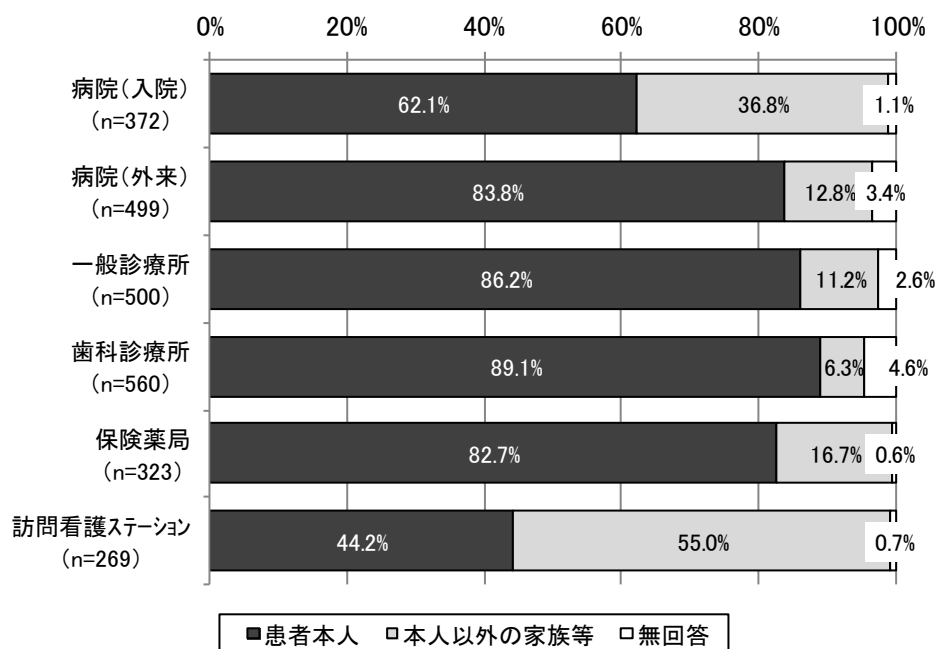
回答数：269人

(1) 患者・利用者の属性等

①回答者

回答者についてみると、病院（外来）、一般診療所、歯科診療所、保険薬局では「患者本人」が8割を超え、病院（入院）では「患者本人」が6割強であった。訪問看護ステーションでは「利用者本人」が4割強であり、「本人以外の家族等」の方が多かった。

図表 90 回答者

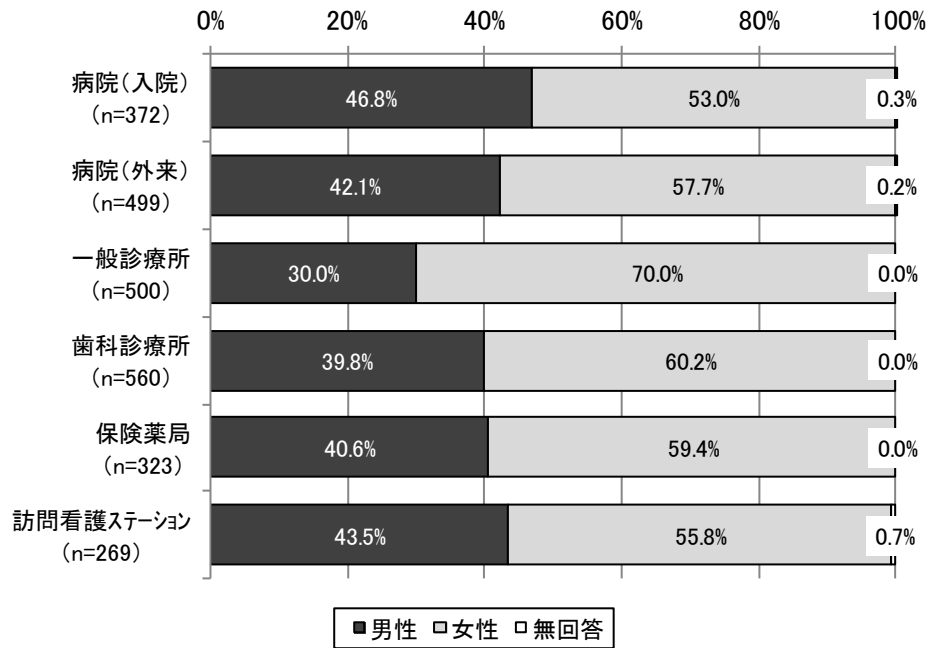


(注) 訪問看護ステーションでは「利用者本人」。

②患者・利用者の性別

患者・利用者の性別についてみると、病院（入院）では「男性」が46.8%、「女性」が53.0%であった。病院（外来）では「男性」が42.1%、「女性」が57.7%であった。一般診療所では「男性」が30.0%、「女性」が70.0%であった。歯科診療所では「男性」が39.8%、「女性」が60.2%であった。保険薬局では「男性」が40.6%、「女性」が59.4%であった。訪問看護ステーションでは「男性」が43.5%、「女性」が55.8%であった。

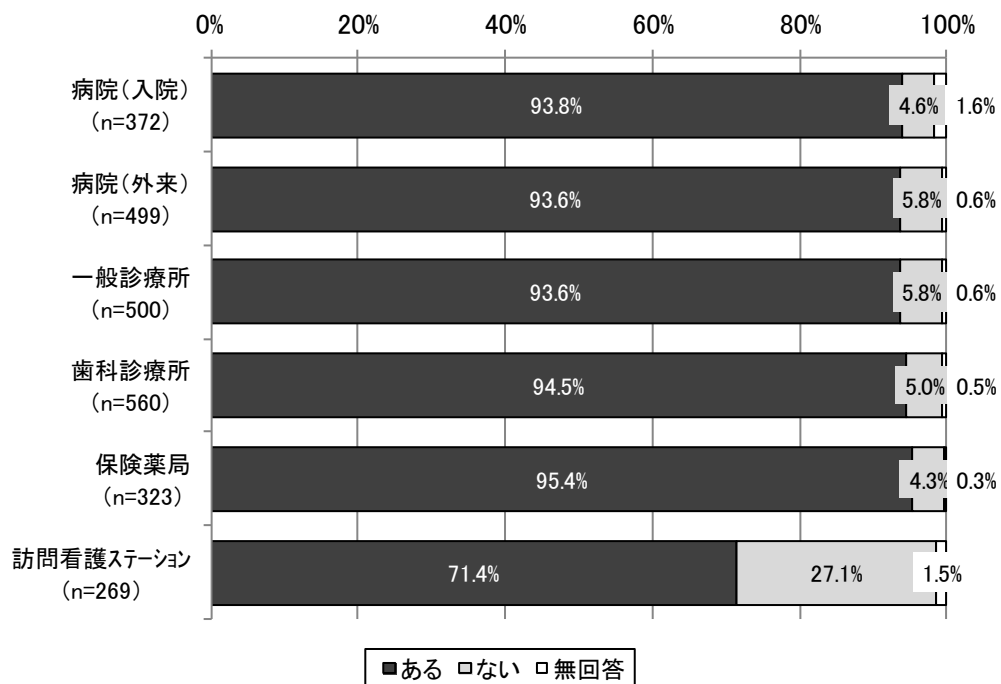
図表 91 患者・利用者の性別



③自己負担額の有無.

自己負担額の有無についてみると、訪問看護ステーション以外の施設では、「ある」が 9割を超えていた。訪問看護ステーションでは、「ある」が 71.4%にとどまり、「ない」が 27.1%あった。

図表 92 自己負担額の有無



④患者・利用者の年齢

患者・利用者の年齢についてみると、病院（入院）では平均 64.1 歳（標準偏差 19.7、中央値 66.0）、病院（外来）では平均 54.9 歳（標準偏差 18.6、中央値 56.0）、一般診療所では平均 55.0 歳（標準偏差 18.9、中央値 58.0）、歯科診療所では平均 52.4 歳（標準偏差 18.4、中央値 53.0）、保険薬局では平均 55.3 歳（標準偏差 20.3、中央値 56.0）、訪問看護ステーションでは平均 68.4 歳（標準偏差 19.4、中央値 72.0）であった。

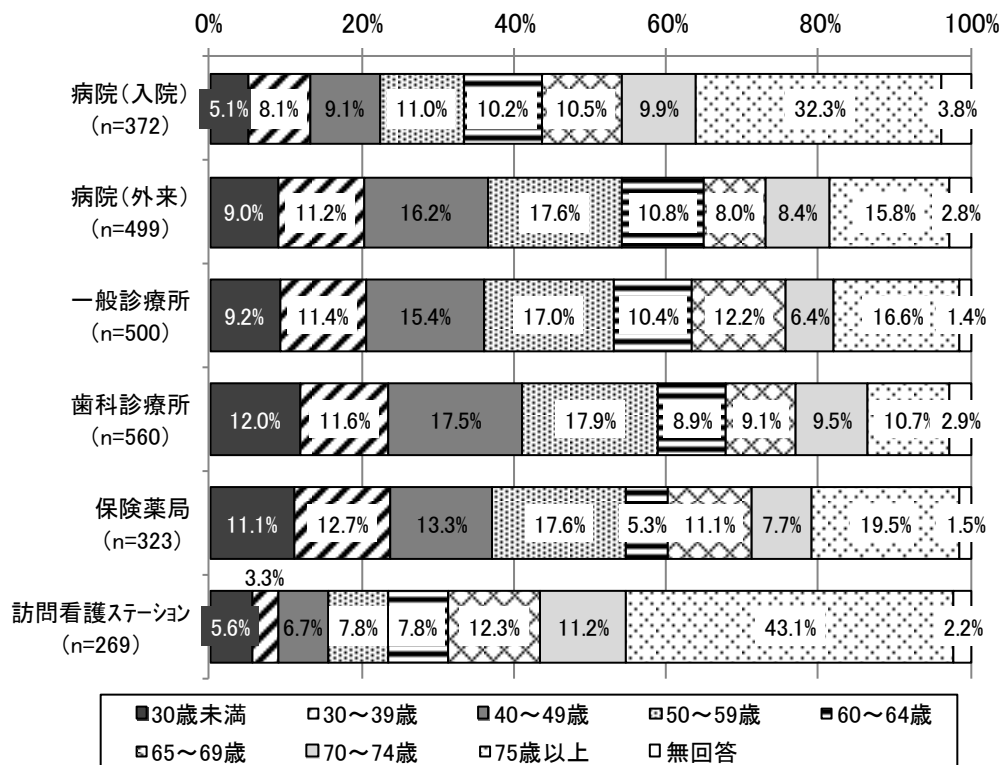
図表 93 患者・利用者の年齢

(単位：歳)

	平均値	標準偏差	中央値
病院(入院) (n=358)	64.1	19.7	66.0
病院(外来) (n=485)	54.9	18.6	56.0
一般診療所 (n=493)	55.0	18.9	58.0
歯科診療所 (n=544)	52.4	18.4	53.0
保険薬局 (n=318)	55.3	20.3	56.0
訪問看護ステーション (n=263)	68.4	19.4	72.0

(注) 患者の年齢に記入のあった患者・利用者を集計対象とした。

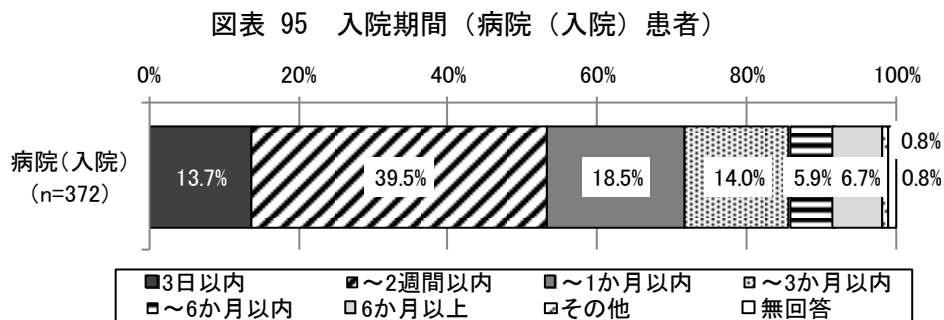
図表 94 患者・利用者の年齢分布



⑤受療期間等

病院（入院）患者について入院期間をみると、「～2週間以内」が39.5%で最も多く、次いで「～1か月以内」（18.5%）、「～3か月以内」（14.0%）であった。

その他の患者・利用者について1か月あたりの受診・利用頻度をみると、病院（外来）では平均2.3回（標準偏差2.8、中央値1.0）、一般診療所では平均2.3回（標準偏差3.5、中央値1.0）、歯科診療所では平均2.4回（標準偏差1.5、中央値2.0）、保険薬局では平均1.4回（標準偏差0.8、中央値1.0）、訪問看護ステーションでは平均10.7回（標準偏差12.3、中央値8.0）であった。



図表 96 1か月あたりの受診・利用頻度
（病院（外来）・一般診療所・歯科診療所・保険薬局の患者、訪問看護ステーションの利用者）
（単位：回）

	平均値	標準偏差	中央値
病院（外来）（n=490）	2.3	2.8	1.0
一般診療所（n=487）	2.3	3.5	1.0
歯科診療所（n=551）	2.4	1.5	2.0
保険薬局（n=320）	1.4	0.8	1.0
訪問看護ステーション（n=264）	10.7	12.3	8.0

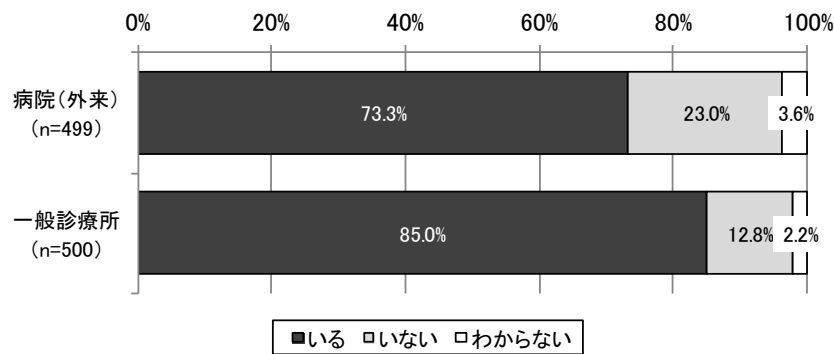
（注）1か月の利用頻度に回答のあった患者・利用者を集計対象とした。

⑥「かかりつけ」に関する考え方等

1) かかりつけ医（病院（外来）・一般診療所の患者）

かかりつけ医の有無をみると、病院（外来）では「いる」が73.3%、「いない」が23.0%であった。一般診療所では「いる」が85.0%、「いない」が12.8%であった。

図表 97 かかりつけ医の有無



かかりつけ医のいる人のかかりつけ医の数を見ると、病院（外来）では病院医師が平均1.3人（標準偏差0.8、中央値1.0）、診療所医師が平均0.2人（標準偏差0.5、中央値0.0）であった。一般診療所では病院医師が平均0.4人（標準偏差0.8、中央値0.0）、診療所医師が平均1.1人（標準偏差0.7、中央値1.0）であった。

当該医師をかかりつけ医とした理由をみると、病院（外来）、一般診療所いずれも「自宅や職場・学校に近いから」（それぞれ57.4%、62.6%）が最も多く、次いで「人柄などが信頼できる医師がいるから」（それぞれ34.7%、39.8%）であった。また、「診療科に関わらず何でも相談に乗ってくれるから」は、診療所が病院（外来）よりも11.7ポイント高く、「緊急時に入院できるから」は病院（外来）が診療所よりも11.6ポイント高かった。

かかりつけ医への受診の仕方をみると、病院（外来）、一般診療所ともに、「1つの病気にかかっている、1人の『かかりつけ医』から治療を受けている」（それぞれ39.6%、30.4%）が最も多く、次いで「複数の病気にかかっている、病気ごとに別の『かかりつけ医』から治療を受けている」（それぞれ26.8%、23.8%）であった。

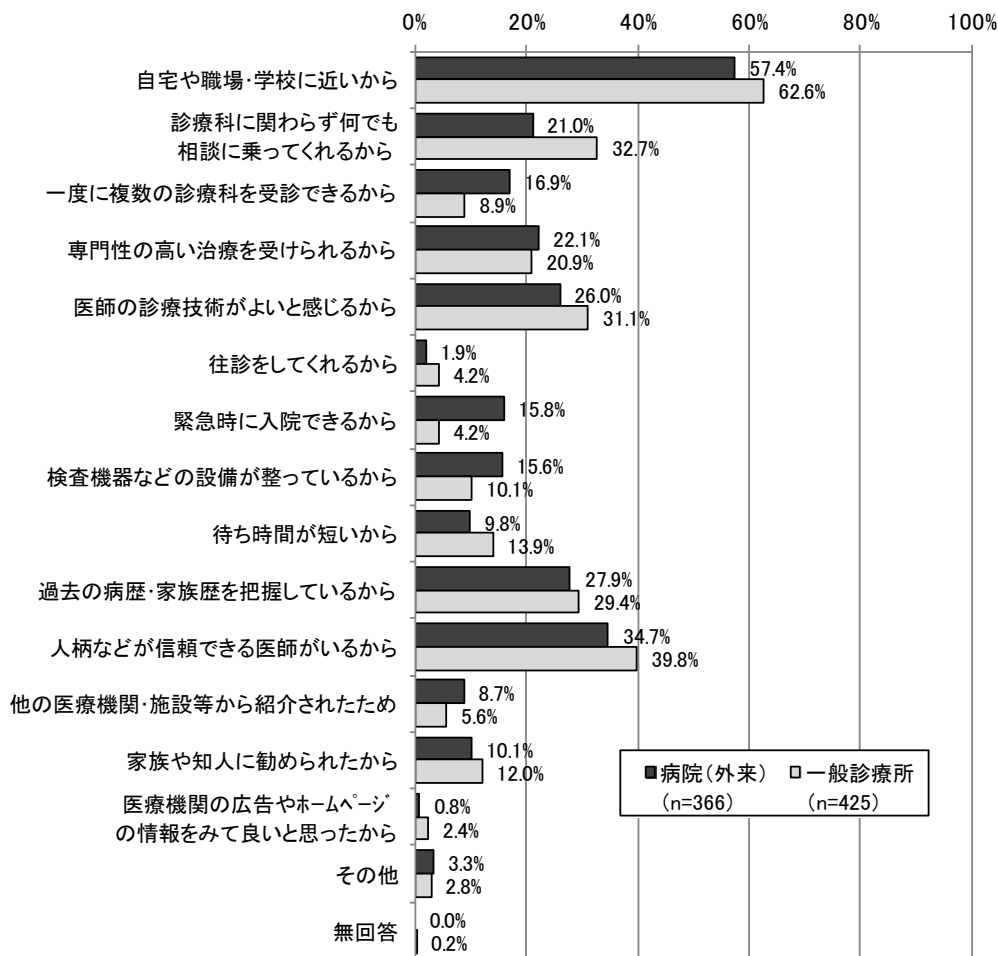
図表 98 かかりつけ医の数（かかりつけ医のいる人、医師の所属施設別）

（単位：人）

		平均値	標準偏差	中央値
病院(外来) (n=342)	病院医師	1.3	0.8	1.0
	診療所医師	0.2	0.5	0.0
一般診療所 (n=408)	病院医師	0.4	0.8	0.0
	診療所医師	1.1	0.7	1.0

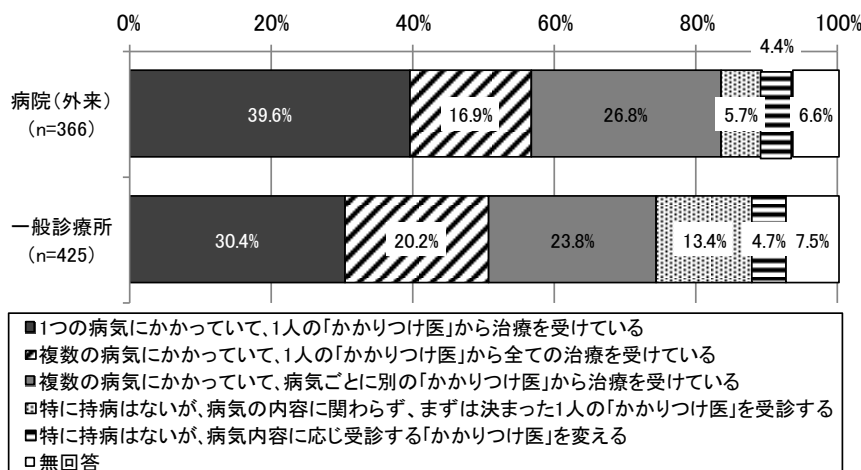
（注）「病院医師」「診療所医師」の両項目に記入のあった患者を集計対象とした。

図表 99 当該医師をかかりつけ医とした理由（かかりつけ医のいる人、複数回答）



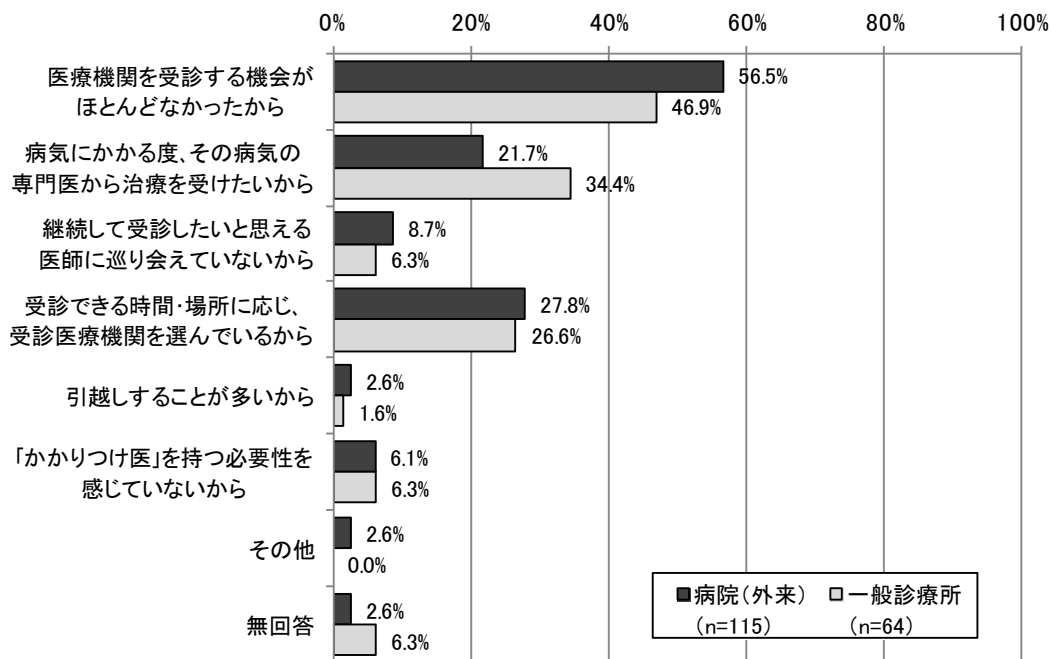
(注) 「その他」の内容として、病院（外来）では「緊急時に受診後継続して通院」（同旨含め 4 件）、「土曜日でも利用できるから」、「地域の他の医療機関に診療科がないため」、一般診療所では「親族が勤務しているから」（同旨含め 3 件）、「使用している薬の処方ができる医師」、「検査が必要と判断したらすぐ大きな病院を紹介してくれるから」等が挙げられた。

図表 100 かかりつけ医への受診の仕方（かかりつけ医のいる人）



かかりつけ医のいない人にかかりつけ医のいない理由を尋ねたところ、病院（外来）、一般診療所ともに「医療機関を受診する機会がほとんどなかったから」がそれぞれ 56.5%、46.9%で最も多かった。病院（外来）では、次いで「受診できる時間・場所に応じ、受診医療機関を選んでいるから」（27.8%）が多かった。一般診療所では、次いで「病気にかかる度、その病気の専門医から治療を受けたいから」（34.4%）が多かった。

図表 101 かかりつけ医のいない理由（かかりつけ医のいない人、複数回答）



(注) 「その他」の内容として、病院（外来）では「受診の度に医師が変わるため」（同旨含め 2 件）、「疾病が多く診療科にわたり、多くのかかりつけ医が必要になる」、「いつも同じ先生に診てもらっているが、かかりつけ医と感じてはいない」が挙げられた。

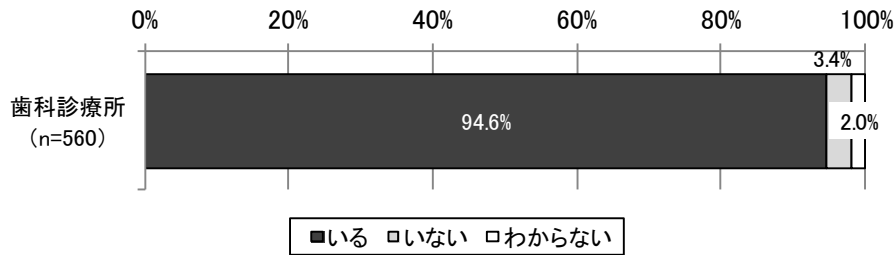
2) かかりつけ歯科医（歯科診療所の患者）

かかりつけ歯科医の有無をみると、「いる」が 94.6%、「いない」が 3.4%であった。

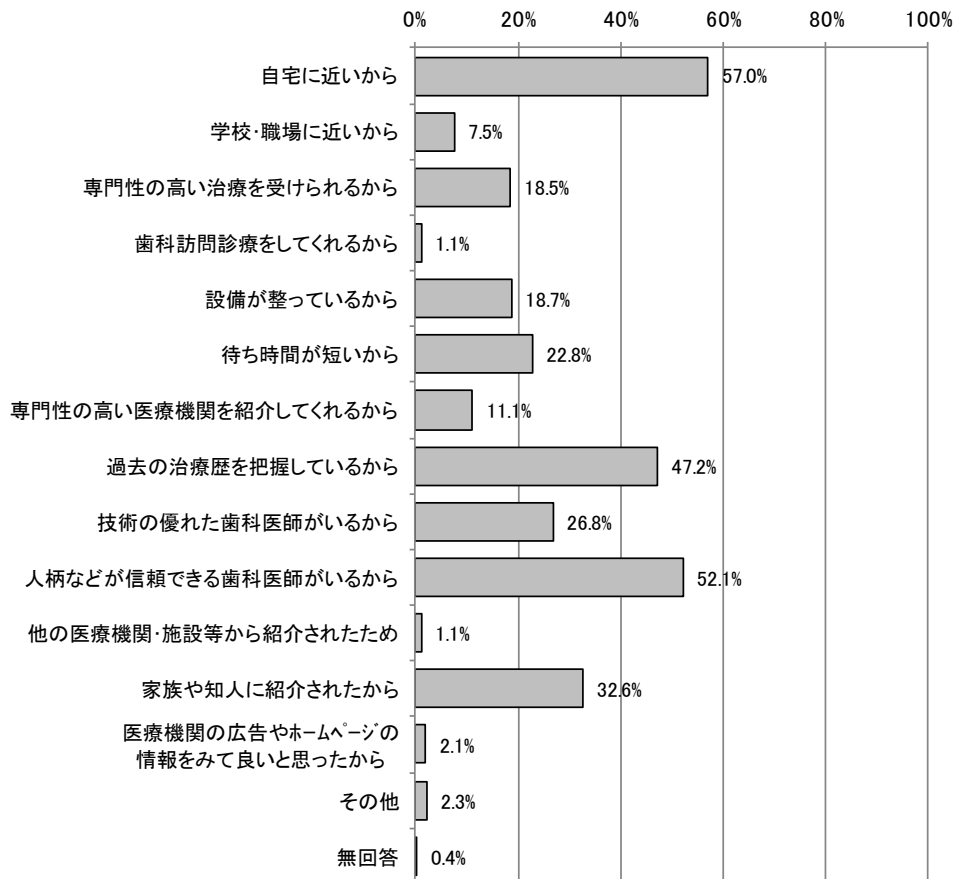
かかりつけ歯科医のいる人の当該歯科医をかかりつけ歯科医とした理由をみると、「自宅に近いから」が 57.0%で最も多く、次いで「人柄などが信頼できる歯科医師がいるから」（52.1%）、「過去の治療歴を把握しているから」（47.2%）であった。

かかりつけ歯科医のいない人のかかりつけ歯科医のいない理由をみると、「歯科医療機関を受診する機会がほとんどなかったから」（52.6%）が最も多く、過半数を超えた。

図表 102 かかりつけ歯科医の有無

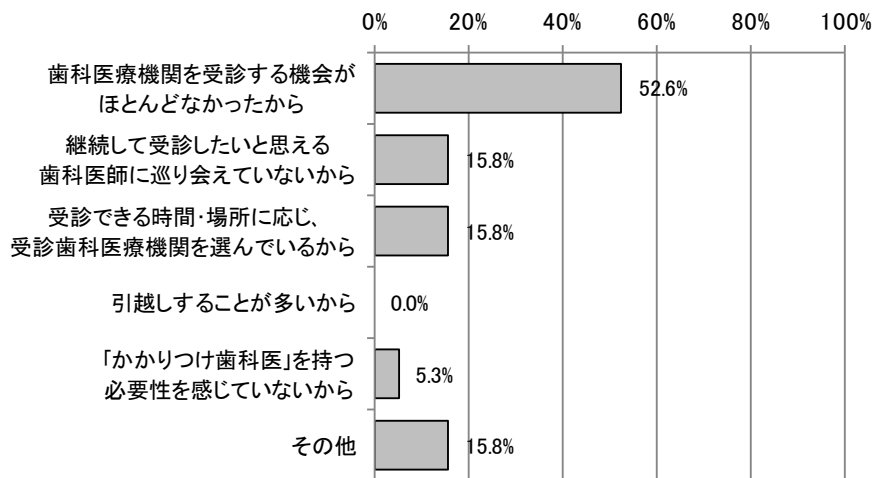


図表 103 当該歯科医をかかりつけ歯科医とした理由
(かかりつけ歯科医のいる人、複数回答、n=530)



(注) 「その他」の内容として、「知人が働いているから」、「月1回のメンテナンスを勧められたから」、「麻酔をしっかりしてくれる」、「歯科衛生士も信頼できるので」、「健康保険組合の関係」、「日曜日に診察しているから」、「説明をわかりやすくしてくれるから」、「予防歯科に対する考えがとても信頼できる」等が挙げられた。

図表 104 かかりつけ歯科医のいない理由
 (かかりつけ歯科医のいない人、複数回答、n=19)



(注)「その他」の内容として、「かかりつけにしていた歯科医院が休診しているから」(同旨含め2件)が挙げられた。

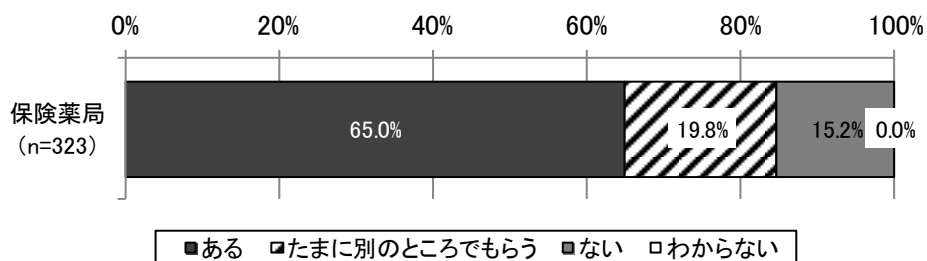
3) かかりつけ薬局 (保険薬局の患者)

かかりつけ薬局の有無をみると、「ある」が 65.0%、「たまに別のところでもらう」が 19.8%、「ない」が 15.2%であった。

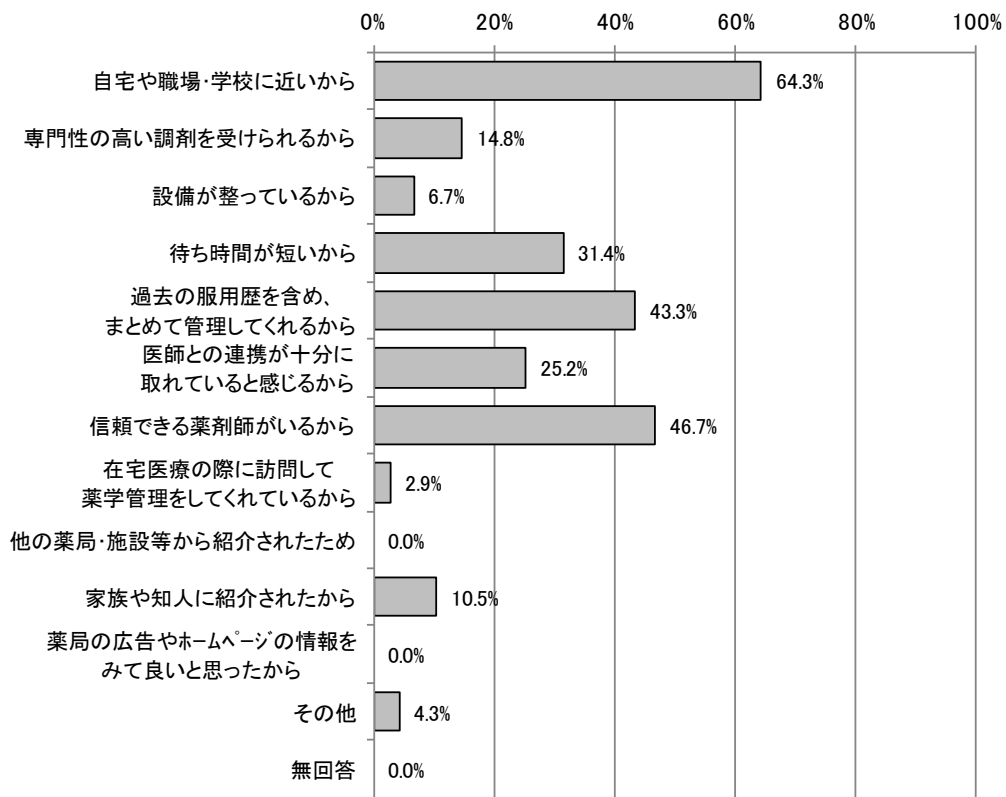
かかりつけ薬局がある人の当該薬局をかかりつけ薬局とした理由をみると、「自宅や職場・学校に近いから」が 64.3%で最も多く、次いで「信頼できる薬剤師がいるから」(46.7%)、「過去の服用歴を含め、まとめて管理してくれるから」(43.3%)であった。

かかりつけ薬局がない人のかかりつけ薬局がない理由をみると、「薬をもらいたい場所や時間に応じ、薬局を選んでいるから」が 53.1%で最も多く、次いで「薬局に行く機会がほとんどなかったから」(32.7%)であった。

図表 105 かかりつけ薬局の有無

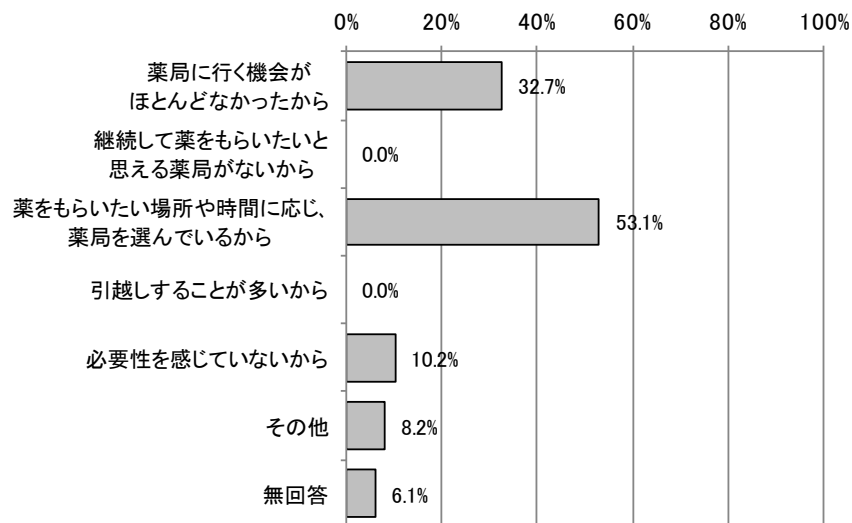


図表 106 当該薬局をかかりつけ薬局とした理由
 (かかりつけ薬局がある人、複数回答、n=210)



(注) 「その他」の内容として、「治療を受けている病院から近い薬局だから」(同旨含め5件)、「知人(親族)が勤めているから」(同旨含め2件)等が挙げられた。

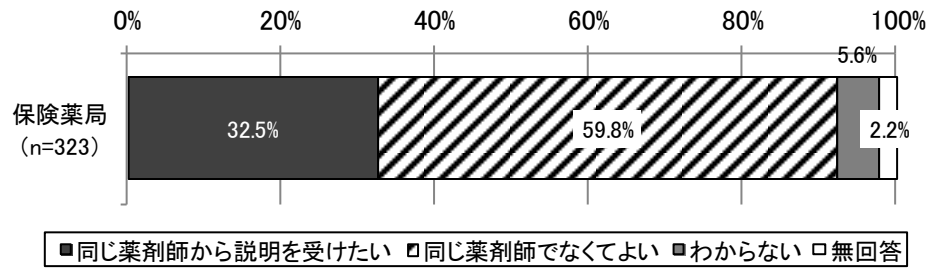
図表 107 かかりつけ薬局がない理由
 (かかりつけ薬局がない人、複数回答、n=49)



(注) 「その他」の内容として、「病院に近い薬局を選ぶ」(同旨含め3件)等が挙げられた。

調剤時における、同じ薬局の同じ薬剤師からの説明希望をみると、「同じ薬剤師から説明を受けたい」が 32.5%、「同じ薬剤師でなくてよい」が 59.8%、「よくわからない」が 5.6%であった。

図表 108 調剤時における、同じ薬局の同じ薬剤師からの説明希望

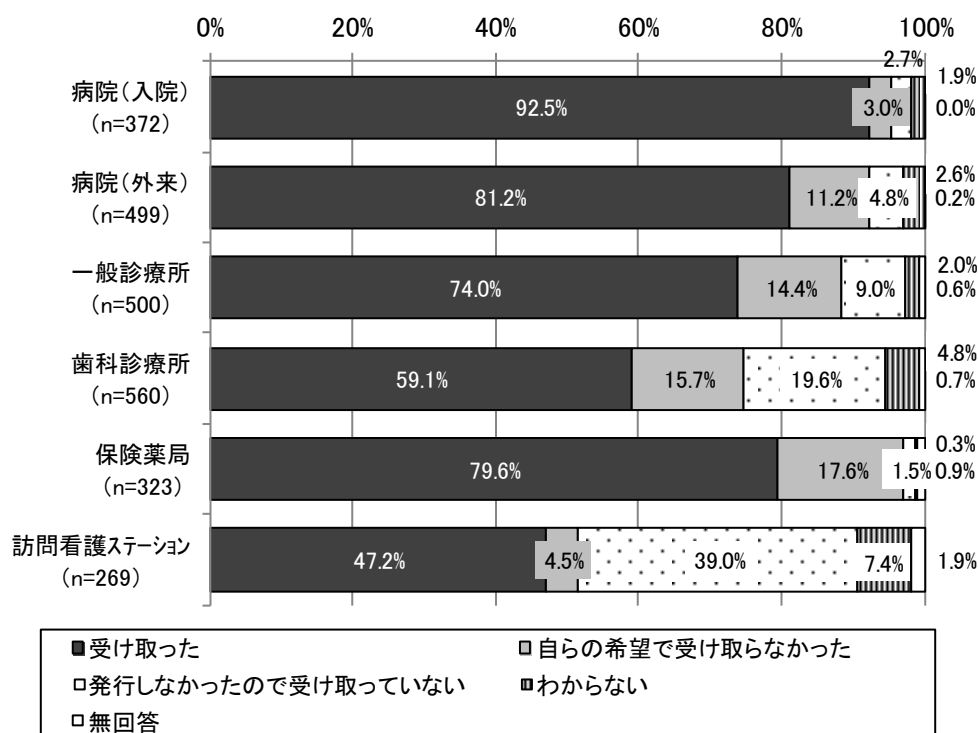


(2) 調査日における明細書の受取状況等

①調査日における明細書の受取状況

調査日における明細書の受取状況についてみると、病院（入院）、病院（外来）、一般診療所、保険薬局では「受け取った」がそれぞれ92.5%、81.2%、74.0%、79.6%で最も多く、次いで「自らの希望で受け取らなかった」（それぞれ3.0%、11.2%、14.4%、17.6%）であった。歯科診療所では「受け取った」が59.1%にとどまり、「発行しなかったので受け取っていない」が19.6%、「自らの希望で受け取らなかった」が15.7%であった。訪問看護ステーションでは「受け取った」が47.2%で、「発行しなかったので受け取っていない」が39.0%であった。

図表 109 調査日における明細書の受取状況

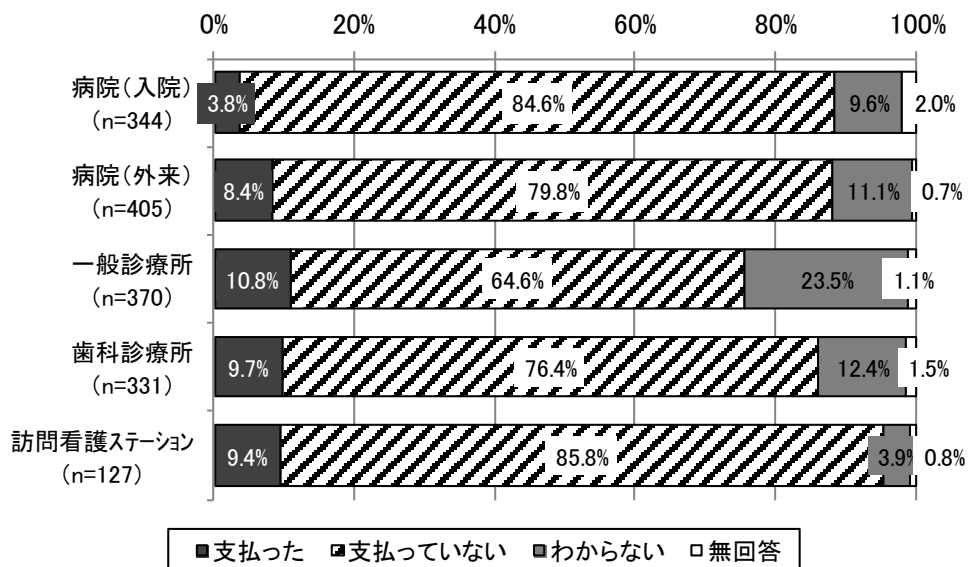


②明細書受取に際しての費用支払い

明細書を受け取った人に明細書受取に際しての費用支払いの有無を尋ねたところ、「支払った」と回答した人は、病院（入院）では 3.8%、病院（外来）では 8.4%、一般診療所では 10.8%、歯科診療所では 9.7%、訪問看護ステーションでは 9.4%であった。

明細書受取に際して支払った額についてみると、病院（入院）では平均 789.0 円、病院（外来）では平均 543.2 円、一般診療所では平均 306.3 円、歯科診療所では平均 445.4 円、訪問看護ステーションでは平均 500.0 円であった。

図表 110 明細書受取に際しての費用支払いの有無（明細書を受け取った人）



(注) 保険薬局の患者には、当該質問項目は設けていない。

図表 111 明細書受取に際して支払った額（支払いがあった人）

(単位：円)

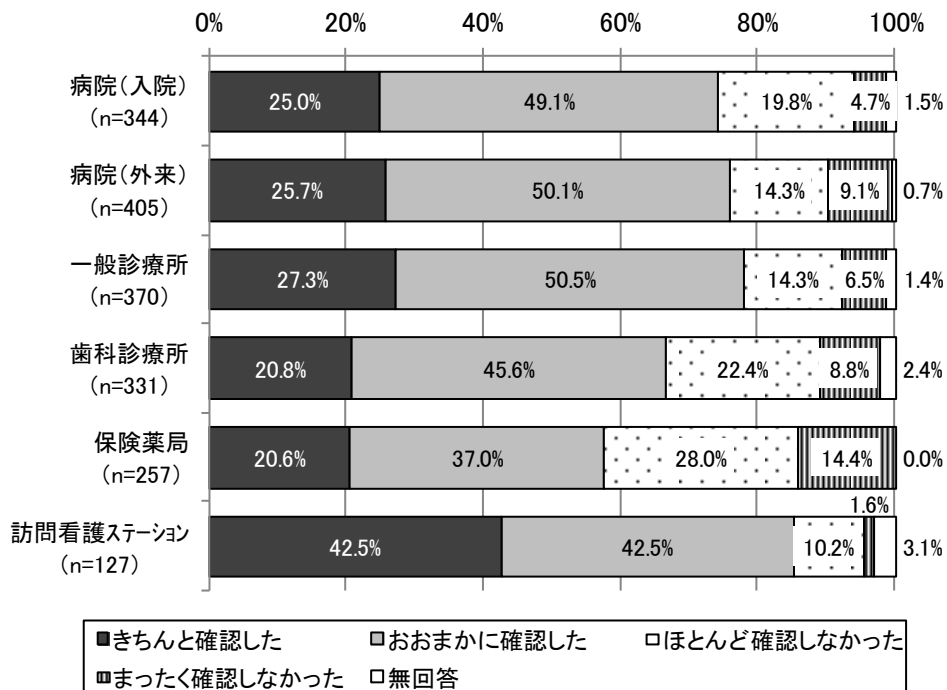
	平均値	標準偏差	中央値
病院(入院) (n=2)	789.0	1,090.4	789.0
病院(外来) (n=12)	543.2	336.1	430.0
一般診療所 (n=29)	306.3	404.5	110.0
歯科診療所 (n=19)	445.4	473.6	140.0
訪問看護ステーション (n=1)	500.0	-	500.0

(注) 明細書受取に際して支払った額に回答のあった患者・利用者を集計対象とした。

③明細書の内容の確認状況

明細書を受け取った人に明細書の内容の確認状況について尋ねたところ、病院（入院）、病院（外来）、一般診療所、歯科診療所、保険薬局では「おおまかに確認した」が最も多く、それぞれ49.1%、50.1%、50.5%、45.6%、37.0%であった。訪問看護ステーションでは「きちんと確認した」、「おおまかに確認した」がそれぞれ42.5%で最も多く、他施設と比べると「きちんと確認した」割合が高かった。また、「きちんと確認した」、「おおまかに確認した」を合わせた割合は保険薬局以外の施設では65%を超えた。保険薬局では57.6%と他施設に比べると低かった。保険薬局では「ほとんど確認しなかった」の割合が28.0%で、他施設と比較して高かった。

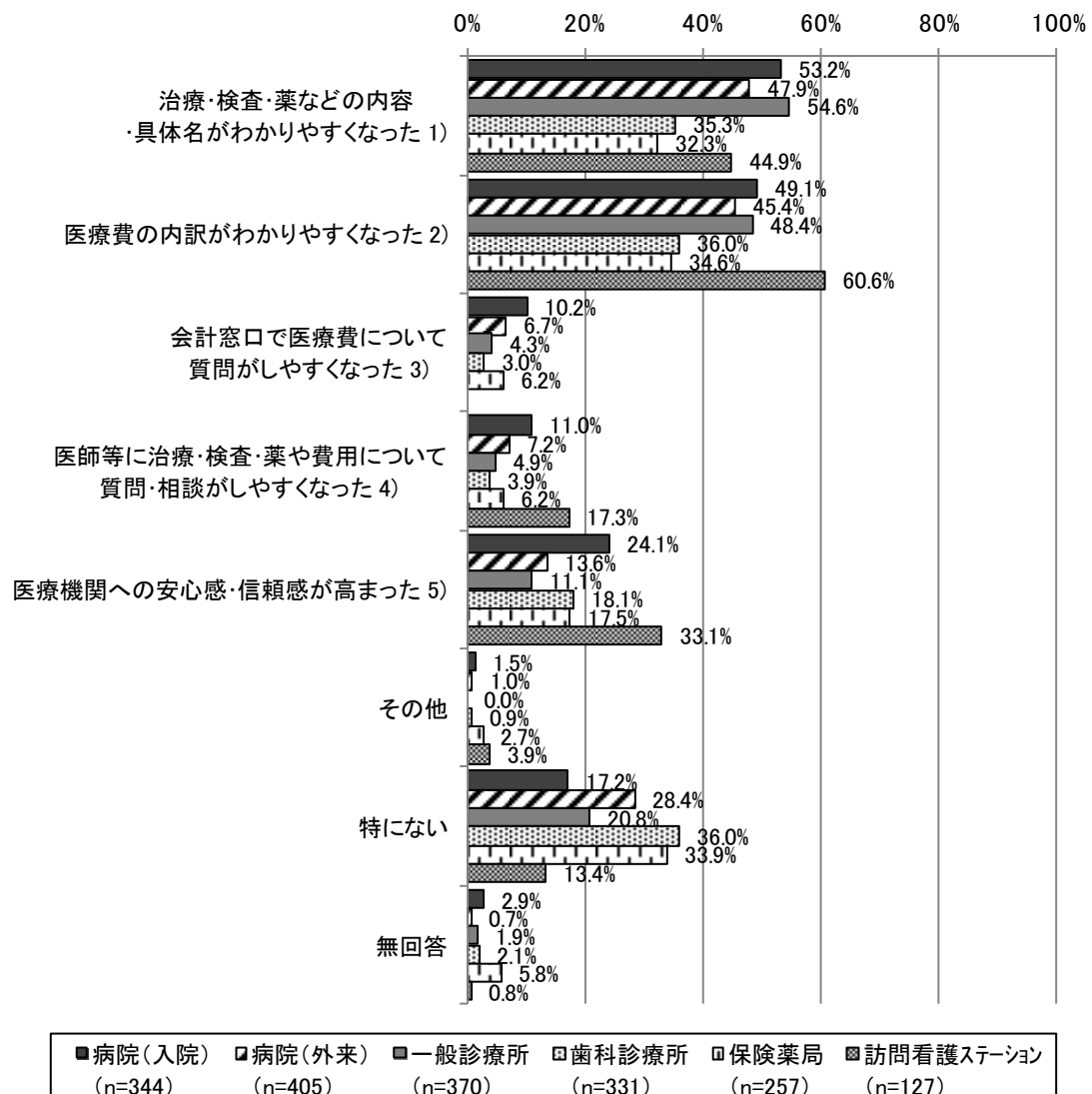
図表 112 明細書の内容の確認状況（明細書を受け取った人）



④明細書を受け取って良かったこと

明細書を受け取った人に明細書を受け取って良かったことを尋ねたところ、病院(入院)、病院(外来)、一般診療所では「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」がそれぞれ 53.2%、47.9%、54.6%で最も多く、次いで「医療費の内訳がわかりやすくなった」(それぞれ 49.1%、45.4%、48.4%)であった。歯科診療所では「医療費の内訳がわかりやすくなった」と「特にない」がそれぞれ 36.0%で最も多く、次いで「治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった」(35.3%)であった。保険薬局、訪問看護ステーションでは、「費用の内訳がわかりやすくなった」がそれぞれ 34.6%、60.6%で最も多く、次いで保険薬局では「特にない」(33.9%)、訪問看護ステーションでは「訪問看護の提供内容・具体名がわかりやすくなった」(44.9%)が多かった。

図表 113 明細書を受け取って良かったこと(明細書を受け取った人、複数回答)



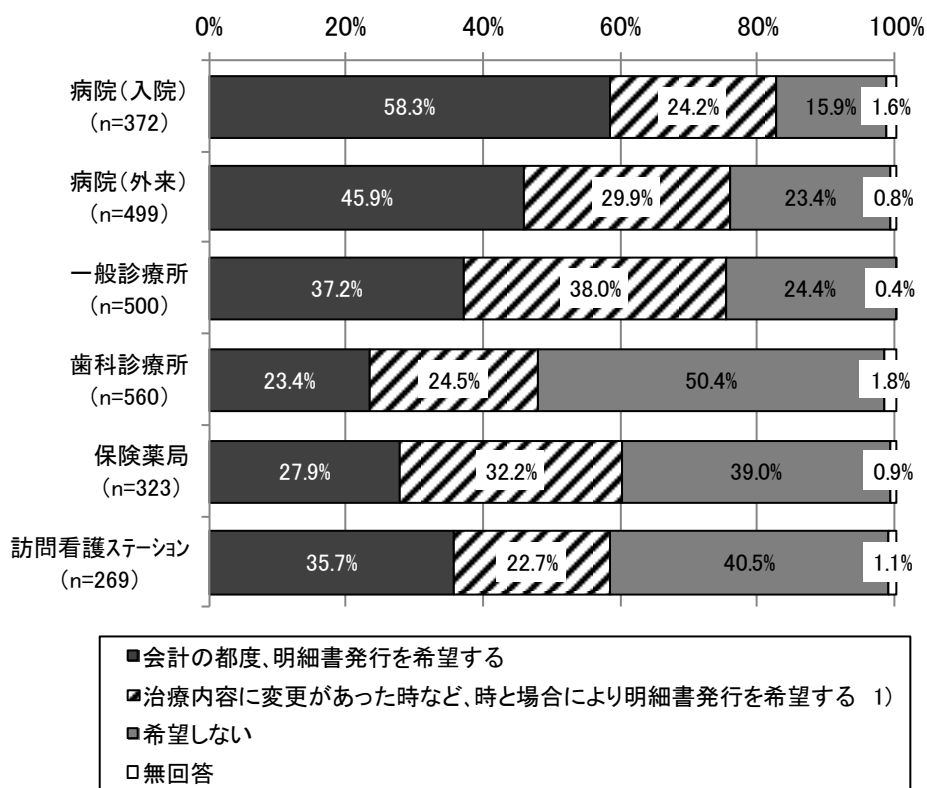
- (注) 1) 保険薬局では「薬の内容・具体名がわかりやすくなった」、訪問看護ステーションでは「訪問看護の提供内容・具体名がわかりやすくなった」。
- 2) 保険薬局では「医療費（保険薬局での会計）の内訳がわかりやすくなった」、訪問看護ステーションでは「費用の内訳がわかりやすくなった」。
- 3) 保険薬局では「会計窓口で医療費（保険薬局での会計）について質問がしやすくなった」。訪問看護ステーションには当該選択肢を設けていない。
- 4) 歯科診療所では「歯科医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった」、保険薬局では「薬剤師等に薬や費用について質問・相談がしやすくなった」、訪問看護ステーションでは「看護師等に訪問看護の内容や費用について質問・相談がしやすくなった」。
- 5) 歯科診療所では「歯科診療所への安心感・信頼感が高まった」、保険薬局では「保険薬局への安心感・信頼感が高まった」、訪問看護ステーションでは「訪問看護ステーションへの安心感・信頼感が高まった」。
- ・「その他」の内容として、以下が挙げられた。
- 病院（入院）：「保険の請求に使用」（同旨含め2件）、「後日確認できる」等
- 病院（外来）：「前回との違いを聞いた。また、会計が合っているか確認できた」、「後日、領収証だけでは何でかかったのか思い出せないことがあったが、明細書で確認することができた」等
- 保険薬局：「細やかに説明してくれる」（同旨含め2件）、「きちんとやっている証明になる」等
- 訪問看護ステーション：「話ができる」、「投薬等の間違いがわかる」等

(3) 明細書発行に関する今後の希望等

①明細書発行に関する今後の希望

明細書発行に関する今後の希望についてみると、病院（入院）、病院（外来）では「会計の都度、明細書発行を希望する」がそれぞれ 58.3%、45.9%で最も多かったが、一般診療所では「治療内容に変更があった時など、時と場合により明細書発行を希望する」が 38.0%で最も多く、歯科診療所、保険薬局、訪問看護ステーションでは「希望しない」がそれぞれ 50.4%、39.0%、40.5%で最も多かった。

図表 114 明細書発行に関する今後の希望



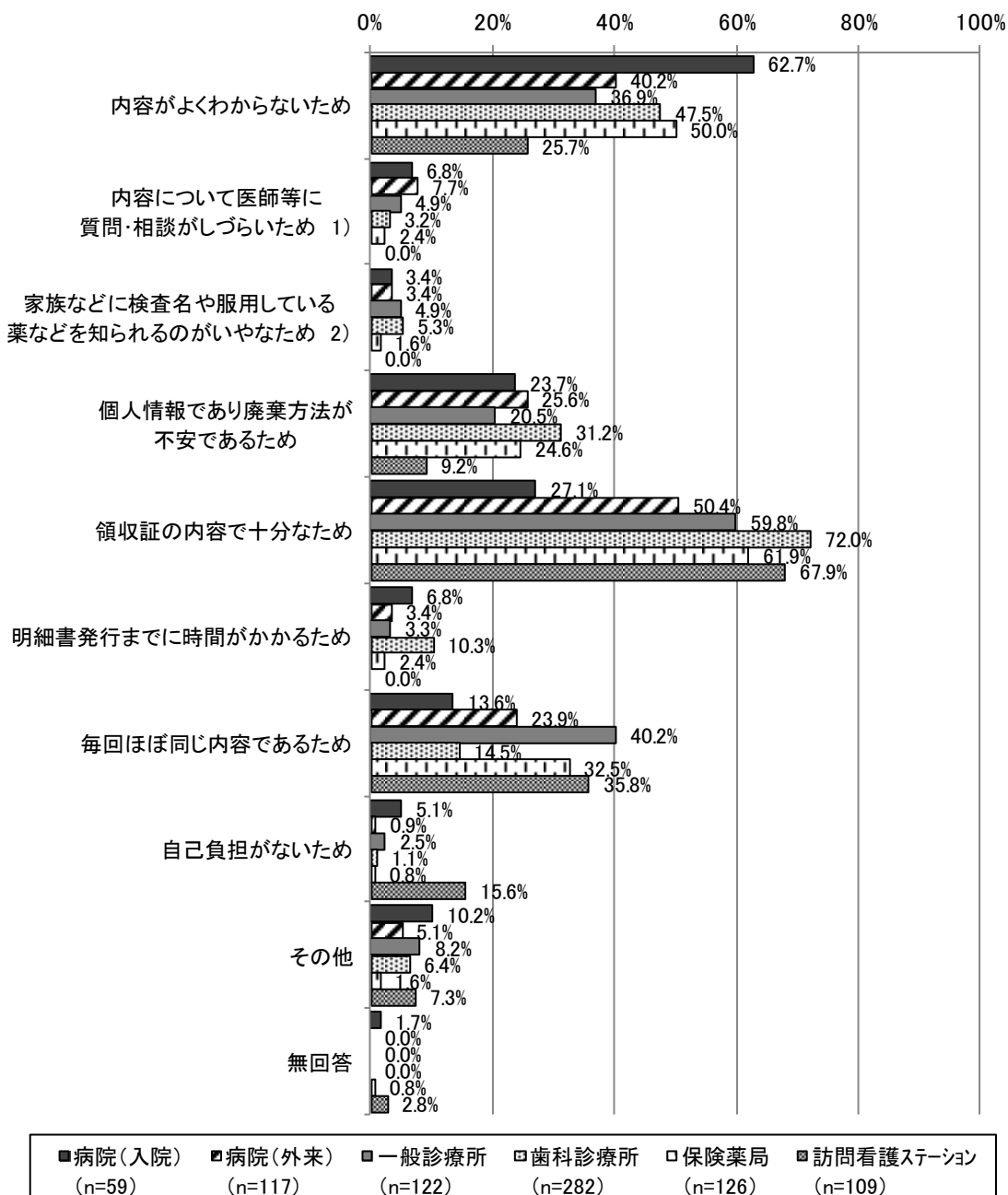
(注) 1) 訪問看護ステーションでは「訪問看護の提供内容に変更があった時など、時と場合により明細書発行を希望する」。

②明細書発行を希望しない理由

明細書発行を希望しない人に明細書発行を希望しない理由を尋ねたところ、病院（入院）では「内容がよくわからないため」が 62.7%で最も多かった。それ以外の施設では「領収証の内容で十分なため」が最も多く、病院（外来）では 50.4%、一般診療所では 59.8%、歯科診療所では 72.0%、保険薬局では 61.9%、訪問看護ステーションでは 67.9%であった。

また、明細書発行を希望しない最大の理由についてみると、同様に、病院（入院）では「内容がよくわからないため」が 49.2%で最も多く、それ以外の施設では「領収証の内容で十分なため」（病院（外来）30.8%、一般診療所 33.6%、歯科診療所 45.7%、保険薬局 39.7%、訪問看護ステーション 43.1%）が最も多かった。

図表 115 明細書発行を希望しない理由（明細書発行を希望しない人、複数回答）



(注) 1) 歯科診療所では「内容について歯科医師等に質問・相談がしづらいため」、保険薬局では「内容について薬剤師等に質問・相談がしづらいため」、訪問看護ステーションでは「内容について看護師等に質問・相談がしづらいため」。

2) 保険薬局では「家族などに服用している薬などを知られるのがいやなため」、訪問看護ステーションでは「家族などに傷病名や受けているサービスの内容などを知られるのがいやなため」。

・「その他」の内容として、以下が挙げられた。

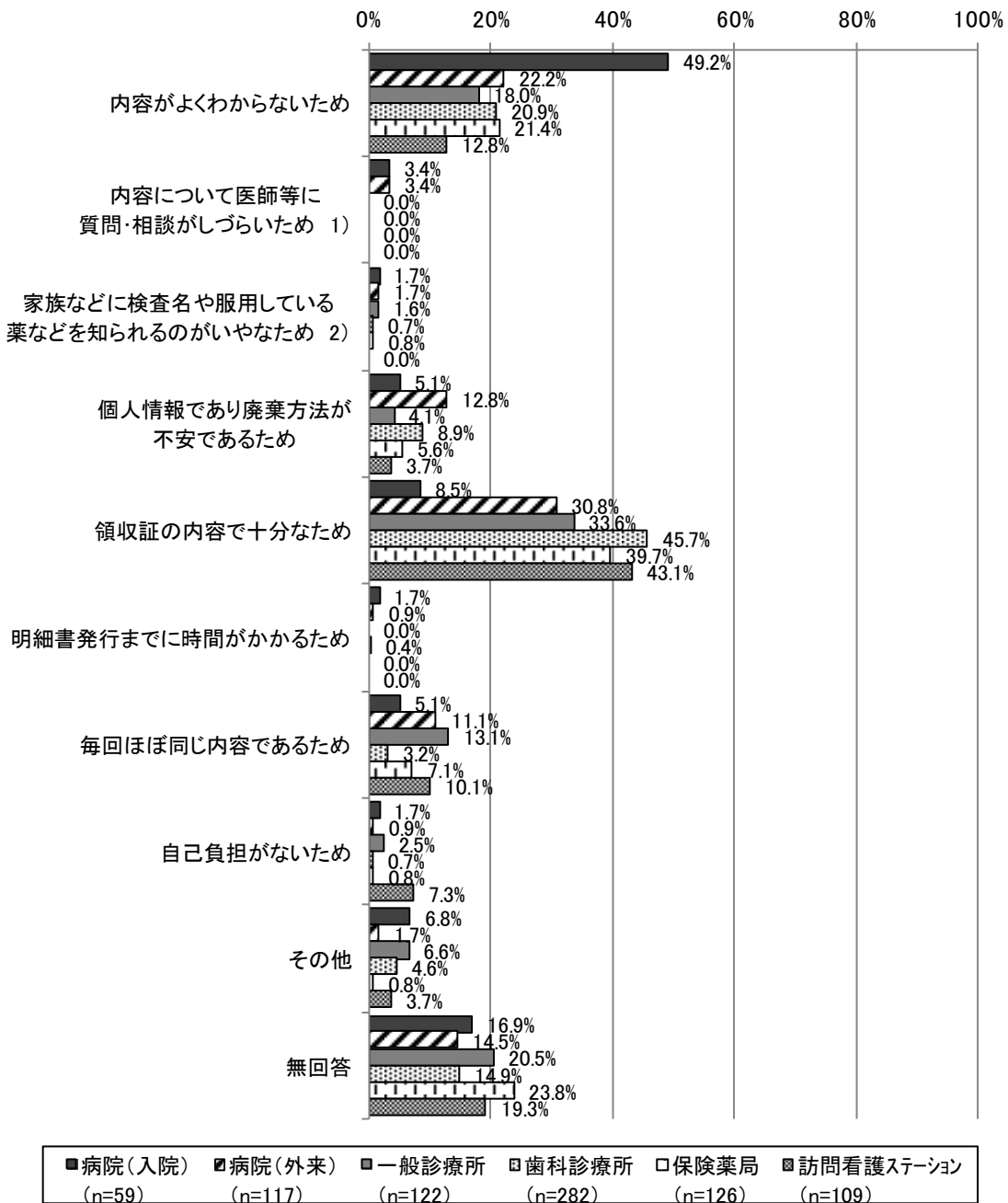
病院（入院）：「必要ないから」、「興味ないから」、「薬などは片仮名で種別がわからない」等

病院（外来）：「必要性がわからない」（同旨含め 2件）、「興味がない」、「紙がもったいない」等

保険薬局：「資源（紙）がもったいないため」（同旨含め 2件）

訪問看護ステーション：「看護師に何でも聞けるから」（同旨含め 2件）、「もらっても見ないから」、「もらう書類が多すぎるため」等

図表 116 明細書発行を希望しない最大の理由（明細書発行を希望しない人）



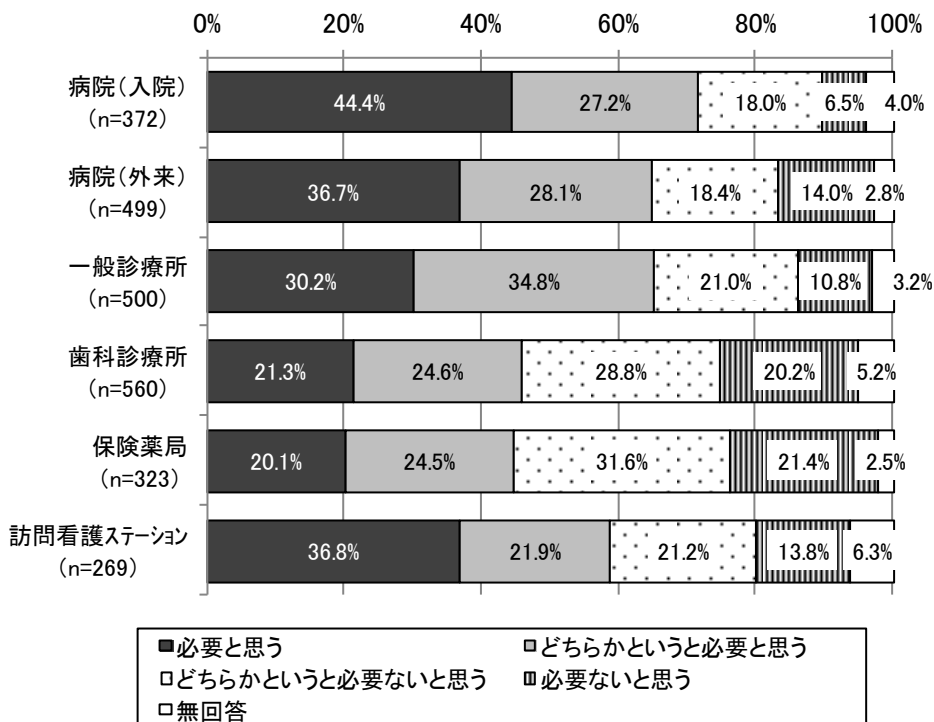
(注) 1) 歯科診療所では「内容について歯科医師等に質問・相談がしづらいため」、保険薬局では「内容について薬剤師等に質問・相談がしづらいため」、訪問看護ステーションでは「内容について看護師等に質問・相談がしづらいため」。

2) 保険薬局では「家族などに服用している薬などを知られるのがいやなため」、訪問看護ステーションでは「家族などに傷病名や受けているサービスの内容などを知られるのがいやなため」。

③全ての患者に明細書が無料発行される制度の必要性

全ての患者に明細書が無料発行される制度の必要性についてみると、病院（入院）、病院（外来）、訪問看護ステーションでは「必要と思う」がそれぞれ44.4%、36.7%、36.8%で最も多かった。「必要と思う」と「どちらかという必要と思う」を合わせた割合とみると、病院（入院）で7割以上、病院（外来）、一般診療所で6割超、訪問看護ステーションで約6割となった。歯科診療所と保険薬局では、「必要と思う」と「どちらかという必要と思う」を合わせた割合よりも、「必要ないと思う」と「どちらかという必要ないと思う」を合わせた割合の方が多かった。

図表 117 全ての患者に明細書が無料発行される制度の必要性



(4) 明細書の無料発行に関する意見等

本調査において、明細書の無料発行にあたっての意見等を自由記述形式で記載して頂いた内容のうち、主な意見を取りまとめた。

①病院（入院）

【明細書は必要】

- ・診療明細書を発行してもらうことは、治療する上で、大変ありがたく思う。何か疑問がある場合、チェックできるため。
- ・明細書の発行には賛成。治療の内容がわかり、確認できる（検査の部分で、専門的でわからないところはあるにしても）。ただ、退院時に渡されただけなので、確認のしようがない。折角だから、待ち時間を利用して説明等あればよい。
- ・明細書の無料発行義務化はうれしい限り。自分の払う医療費の見える化は同時に自分の治療の見える化であり、患者として当然知りたいところである。
- ・薬の内容を調べることができるので良い制度だと思う。 /等

【必要がある時に発行すればよい】

- ・個人の希望によって発行されると良いと思う。
- ・希望者のみ発行でよい（紙の無駄が増えている）。再診料と処方せん料のみなど診療内容が同じだと毎回金額が同じだから、必要ない。
- ・本人（患者）が希望した時でよいのでは。または診療内容に変更があった時など。
- ・病気の内容によるが、入院、手術などを受けた場合は必要と思うが、外来で変化のない病気などは、1度は必要と思うが、後は必要ないと思う。毎回は必要なし。 /等

【内容がよくわからない】

- ・明細書をもらってもよくわからないし、まず説明を聞きに行く人はいないと思う。入院中にわからないことはその都度聞くので必要ではないかも。
- ・明細書は良いと思うが、何となく分かりにくく感じている。
- ・点数のつけ方がわからない。
- ・記載の内容が（入院料や病棟の区分）専門的な事項が多く高齢者でなくとも理解が難しい。そこまでの詳細は必要としない。 /等

【環境に良くない／資源の無駄】

- ・詳細な治療内容が分かるため、明細書の無料発行は有意義だと思う。しかしながら、資源保護の観点から全ての場合に対し発行するのは疑問に思う。
- ・省エネだエコだと言いながら、特に入院での明細書の紙の多さ。病院だって用紙を購入してインクも準備して、よくわからない人にまで「無料で発行しろ」というのは、病院の負担と紙ゴミを増やすだけではないか。

【その他】

- ・医療に関して、全くわからない者にとっては医療費の細かな配分が少しわかるような気がする。ただただ医療費の高いのには驚かされるし、できることなら病気をせず健康な体でいたいとつくづく思う。
- ・今後医療費の負担も大きくなることから、明細がわかることで、治療に対する認識も深まるし、病院への質問もしやすくなる。過剰診療の歯止めになるのではないかと考える。
- ・癌の告知、未告知の問題もあり、一律に発行するのは危険ではないか。
- ・個人情報が非常に集約されており、全員に発行するのはリスクを伴うと思う。
- ・内訳がわかりやすいので無料発行されると確認できる。有料となると内訳を確認することをしなくなる。 /等

②病院（外来）

【明細書は必要】

- ・良いことだと思う。ぜひ継続して頂きたい。
- ・明細書で治療、検査・薬などの内容を示すのは当然の行為だと思う。
- ・確認が必要な時、再確認できるため、便利だと思う。
- ・治療の内容、病状によっては、明細書は必要と思われる。医療の透明化であれば、病床数に関わらず、義務化した方がよいのでは…。 /等

【必要がある時に発行すればよい】

- ・明細書の無料発行は希望者だけで良いと思う。
- ・すべての人が必要かと聞かれると疑問ではある。慢性疾患の場合は、前回と同じ内容であれば、いらぬような気もするし、患者本人がいらぬと言え、出さなくてもよいのではないか。ただ、明細書の発行で病院側の不必要な保険請求は減ると思う。
- ・明細書が無料で発行されることは良いことだと思うが、全ての患者には必要ないと思う。希望する人に無料で発行すれば良い。いらぬ人にとっては自分の個人情報を印刷されるだけで、捨てる手間が増え、紙もムダにするだけである。 /等

【明細書は必要ない】

- ・明細書を発行することにより病院側はお金がかかり、そのことにより最終的に患者側が治療費を支払うお金が増えるのであればいらぬと思う。
- ・事務と経費の削減のため、必要ない。
- ・領収証だけで、良いと思う。新規に検査し、また治療し、薬を新たにもらうようになった時に、本人の希望で受領するようにすれば良い。病院側も、手間が省けると思うし、コンピュータに発行した、しないをインプットしておけば、良いのではないかとと思う。必要な人は、確定申告する時に、1年間分をもらいに来ると思うから。 /等

【よくわかって良い】

- ・点数とかはわからないが、内訳など書いてあるので、わかりやすいし、聞きやすいし、調べやすくなった。
- ・こういった内容の診断や薬の内容がわかるので、必要だと思う。 /等

【内容がよくわからない】

- ・無料発行は、良いことだと思うが、明細書の内容を読んでも専門用語だったりして、書いてある意味が理解できない。
- ・内容が素人でもわかりやすい内容にしてほしい。
- ・明細書の内容が専門用語なのでわからない。医師からの説明がないので（どのようなクスリ等を使用するのか）発行されても意味がない。紙がもったいない。 /等

【環境に良くない／資源の無駄】

- ・必要としている人に発行すればいいと思う。全員に発行するのは資源のムダだと思う。私はもったら、いつも窓口の人にシュレッダーをお願いしている。
- ・私はほしいが、いらぬ人の方が多いような気がする。紙とかインクとかもったいない気もする。
- ・患者と医師の信頼関係を築いていけば不要と考える。限られた資源。紙ベースの削減に取り組む姿勢が大切。 /等

【その他】

- ・患者の明細書を確認できることが必要条件だと思う。確認できない場合（本人に能力がなく本人に代わって確認する人がいなければ）無駄だと思う。
- ・明細書及び領収証について点数記載が行われているが直接金額で書いて頂いた方が医療費の軽減につながると思う。
- ・無料発行は助かるが、大病院だと紙代が高くつきそうと思うが、それは医療機関の負担になるのが疑問。
- ・将来的には電子化が望ましい。病院毎にネット上で参照できるシステム、あるいは保険証のIC内に電子データが入ると良い。 /等

③一般診療所

【明細書は必要】

- ・継続してほしい。
- ・何か疑問が生じた時に必要になると思うので、明細書は発行してほしい。無料発行は、とてもよい制度だと思うので、是非、そうなるようお願いしたい。
- ・明細を開示することは医療機関として当然のことと思われる。それに対して費用が必要ないということも当然と思う。 /等

【必要がある時に発行すればよい】

- ・患者自身が希望した時のみ、発行すれば良いと思う。
- ・病気の原因がわかる時の診察後に明細はもらわなくてもいいと思うが、難しい治療の場合には、何をしているのか知りたいと思うので、希望する人に出してあげてはどうか。
- ・最初と薬が変わった時だけで良いのではないか。
- ・他の病気で、別の病院に行った時、飲んでいる薬を聞かれた時など、薬の名前を覚えていない時など助かる。毎回はいらぬが、薬など変わった時などはあると良いと思う。検査などした時は、特に良いと思う。 /等

【明細書は必要ない】

- ・不要（診察所に関して）。領収証で可能。
- ・明細書が無料発行なのはいいことだが、お年寄りの方が多いためもらってもよくわからないと耳にしたことがある。領収証の内容だけで十分だと思う。 /等

【内容がよくわからない】

- ・明細書を見ても、点数は記載してあるが、その具体的な内容はわからない。これだけ、診察したら支払う必要があるのかだけで、その中身が正しいのかどうかはわからない。
- ・せっかく明細書をもっているが、記載されている項目や名称が、専門知識がないとわかりにくい（まぎらわしいものがある）。例えば、受付時間に間にあうように診察に行ったが、「時間外対応加算」というのが診察料に含まれていて、時間外の料金に間違えられたのかと思い会計の方に聞いたら、「時間外の料金ではなくて、施設基準というもので受付時間内の料金です」と言われた。普通にはわかりづらい。一般にもわかるような名称にしてほしい。
- ・明細書無料のまま継続してほしい。専門用語で書かれていてよくわからなかったりするので、簡単な一覧表などがあると良い。 /等

【環境に良くない／資源の無駄】

- ・紙のムダだと思う。
- ・税務所に出すのは、領収証のみだから紙の無駄だと思う。
- ・資源の無駄。受け取ってもよく見ないで捨てる人が多い。薬の内容が変わった時だけで十分。
- ・同じ診療内容で同じ明細書は、エコじゃないと思われる。領収証でほぼ、診療内容は把握できるので無駄かと思う。 /等

【その他】

- ・気にして見たことがなかった。
- ・発行の意味が不明。受診した人に何かあった時のための病院側の理由付けのために発行しているような気がする。

- ・肝炎等の治療内容が知られたくない（誤って紛失した場合）。
- ・領収証と明細書が一緒になっているとありがたい。
- ・今までは（明細書がなかった頃）どんな検査項目をやって、どんな注射を打ったかなど細かいことが分からないまま受診していてクリニックや病院に任せていたが、明細書が無料で発行されることになり、患者自身の医療を受ける姿勢が変わってきたように思う。（良い意味で）自分の健康管理を意識するようになった。 /等

④ 歯科診療所

【明細書は必要】

- ・公費で負担金0円の人もいる中で、時々、架空請求されていることもあると聞いたことがあるので、透明性を出す意味でも明細発行は必要だと思う。
- ・安心感及び信頼感がわく。
- ・治療してもらったことがわかるようになっていて、後から疑問に思ったことも知り合いの人に相談できるので良いと思う。 /等

【必要がある時に発行すればよい】

- ・今、かかりつけ歯科医として治療している歯科医は信用しているので明細書は必要ないが、何かの都合で初めてまたは久しぶりに行く歯科医は、明細書がないと比べることができないし、治療内容を理解するため必要だと思う。
- ・必要な人に出せばいいと思う。
- ・明細書は、ふだん必要性が少ないため、毎回と言われるといらぬ。内容が変わったりする時や、ほしい時にももらえるようにしたら良いと思う。 /等

【明細書は必要ない】

- ・領収証があれば十分。
- ・内容がよくわからない。必要ないと思う。時間がかかる。内容も同じだと思う。医者に必要な話を聞いた方が良いと思う。
- ・何枚ももらっても管理できない。領収証だけで充分である。処分に困る（個人情報あり）。医療費控除の書類には必要ないため。
- ・余分な手数、負担は避けた方が良いと思う。 /等

【内容がよくわからない】

- ・明細書はほぼ見てもわからないから、もらっても見ていない。
- ・どのくらいの人が発行された明細書をわかっているのか。もらっても私自身も見ない。
- ・患者側も治療内容を把握するためにも明細書は必要だと思うが、正直、内容が難しい専門用語で書かれていてわかりにくい。行ってもらった治療が何になるのか、明細書の内容のどの部分に組まれるのか、患者にはとてもわかりにくい。また疑問に思っても明細書を会

計窓口でじっくり見ている人は多分ほとんどいなく、自宅でゆっくり見て気付いた点を次回の診察時にどれだけの人が医師に伝えているかと考えると、会計の時、あるいは診察の最後に説明する時間があっても良いのかなと思う。また、行ってもらっていない行為が明細に書かれていても支払いの後だと返金してもらえるのかもわからず、結局は不透明なままの気がする。もう少しわかりやすい明細にならないか。 /等

【環境に良くない／資源の無駄】

- ・ほとんど内容を確認しないし、もらっても廃棄するので、資源の無駄。
- ・色々な紙をもらうが、少し多い気がする。
- ・ゴミが増える。ゴミも今や有料の時代。 /等

【その他】

- ・検査、処置、修復、補綴などすごくわかりやすく良かった。
- ・領収証と明細書をもらうとどちらが領収証かまぎらわしくなる。
- ・同じような治療をしても明細内容が、歯科医院によりとても違いすぎる。受け取る側より、発行する側の統一制が必要では。
- ・無料発行でももらっても廃棄するのが面倒。家に帰ればメモ用紙同然となる。 /等

⑤保険薬局

【明細書は必要】

- ・保険を使つての支払い内容が明確になり大変良いと思う。
- ・明細書があると安心感がある。
- ・自分の薬代等がどれくらいかかっているのか細かく見られるので、今後もぜひ発行してほしい。
- ・現在きちんと発行し説明してくれているので現状で満足している。 /等

【必要がある時に発行すればよい】

- ・見たい時に発行してもらえれば毎回は不要。
- ・必要な時に出してくれば良いと思うが、今まで必要と感じたことはない。
- ・同じ薬なら毎回はいらぬ。
- ・明細書は毎回もらえるのでもらって綴じて保管しているが内容はおおまかにしかわからない。金額だけのことで領収証で十分ではないかと思うし、薬局で聞けばわからないことは教えてもらえるので毎回は必要ないと思う。 /等

【明細書は必要ない】

- ・領収証とお薬手帳で十分と思う。
- ・書類ゴミが増えるだけなのでいらぬ。領収証に細かくのせればいいのではないか。

- ・明細書で点数がわかって、それでその点数を安くしてもらえないわけではないので必要性がわからない。
- ・全く必要を感じない。患者のために出しているのか疑問に感じる。それに係る手間、経費はいかばかりか。 /等

【内容がよくわからない】

- ・せっかく明細書を出すのならわかりやすくしてほしい。点数ではなく円単位で表して、国負担と本人負担を明記した方が良いと思う。
- ・明細書の内訳を見ても、点数で書かれているため、実際の金額として何円になるのかよくわからない。点数、負担割合から計算し、それぞれ何円になるのかも書いておいてほしい。 /等

【環境に良くない／資源の無駄】

- ・資源のムダだと思う。希望する人にだけ出すようにすれば良い。
- ・明細が気になる際は受付等に尋ねれば良いと思う。毎月内容を確認している人は少ない（ほとんどいない）と思うので、本当に資源のムダ使いにしかかかっていないような気がする。
- ・少なくとも私にとっては紙のムダになってしまう。 /等

【その他】

- ・病院と薬局とで紙が4~5枚になる。いつもゴチャゴチャになり、整理するのに厄介だ。
- ・「明細書」を渡す相手は「お客様である」との思いで、相手に理解してもらえるよう工夫すべきと思う。医師や薬剤師のために作っているものではないと思う。
- ・領収証と明細書で2枚あるのは邪魔なので、どちらの内容も含んで1枚になるといい。
- ・私ではなく、子ども（乳幼児医療あり）が病院などにかかった時に、負担がないためか、明細書をもらうことが少ない。意思も問われないので、聞いてほしいと思う。 /等

⑥訪問看護ステーション

【必要があるときに発行すればよい】

- ・必要な人や場合のみの発行でよいと思う。
- ・内容に変更がない時は必要ない。看護師の事務仕事が多くならないように希望する。
- ・訪問看護の利用当初または内容変更時には発行をお願いしたい。それ以外は必要でない。
- ・長年の疾病で看護内容が同じであれば、明細書は確認しないと思う。看護内容に変更があった時のみ必要と思う。 /等

【明細書は必要ない】

- ・訪問看護の内容と費用との関係を、最初に一度説明してほしい。その後の明細書は不要。

- ・請求書、領収証、明細書すべて内容が同じ。無駄だと思う。ペーパーレスの時代、少しでも節約できる部分は省いてもいいと思う。
- ・不要だと思う。忙しいナースの手間がかわいそう。 /等

【内容がよくわからない】

- ・明細書の表記が素人にわかる表現なら明細書が読めるが、医療表現では明細であっても明細ではないような。
- ・細々と書かれていてもよくわからない。知りたいことはケアマネや看護師から教えてもらう。 /等

【その他】

- ・事務作業に負担をかけるよりもサービスに重点を。
- ・領収証と同じ用紙にまとめて発行してほしい。収納に困るし、最近何でも紙面に残すことから、書類の山積みになりがち。資源を大切にしてほしい。地球が紙で山積み。
- ・明細は大事な記録で、あとで何がどうしたのか、具体的に思い出すことができるので、手元においておくと何かと安心。あまり大きくない用紙が良いと思う。
- ・提供内容等、具体的に理解しやすい、領収証の内訳金額がよく確認できるように思う。
- ・ただでさえ高額になりつつある医療費なので、これくらいは無料発行してもらえるとありがたい。 /等

明細書発行体制等加算等に係る NDB 集計

(平成 27 年 5 月診療分)

各項目の算定回数

項目	算定回数
明細書発行体制等加算	66,871,451
(参考)再診料(※)	86,083,406

(※) 明細書発行体制等加算は診療所のみで算定できるが、再診料には 200 床未満の病院で算定されたものを含んでいる。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 27 年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査 調査票

- ※ この「病院票」は医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における診療の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 27 年 6 月末時点の状況についてご記入ください。

1 貴施設の基本情報についてお伺いします。

①施設名	()														
②所在地	() 都・道・府・県														
③開設者 ^{注1} ※○は1つだけ	1. 国	2. 公立	3. 公的	4. 社会保険関係団体	5. 医療法人	6. 個人	7. 学校法人	8. その他の法人							
④標榜診療科 ※○はいくつでも *「産婦人科」には、婦人科・産科を含める	1. 内科	2. 外科	3. 整形外科	4. 脳神経外科	5. 小児科	6. 産婦人科*	7. 呼吸器科	8. 消化器科	9. 循環器科	10. 精神科	11. 眼科	12. 耳鼻咽喉科	13. 泌尿器科	14. 皮膚科	15. その他
⑤DPC 対応 ※○は1つだけ	1. DPC 対象病院			2. DPC 準備病院		3. 対応していない									
⑥許可病床数 ※介護療養病床は療養病床に含める	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	計									
	床	床	床	床	床	床									
⑦1日平均在院患者数 ※平成 27 年 6 月 1 か月間	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床	病院全体									
	人	人	人	人	人	人									
⑧外来患者数 ※平成 27 年 6 月 1 か月間	1) 初診患者数		人		2) 再診延べ患者数		人								
	医師・ 歯科医師	看護職員	薬剤師	事務職員	その他職員	計									
⑨全職員数 (常勤換算*) ※小数点以下第1位まで ※委託職員・派遣職員を含める	人	人	人	人	人	人									
	*非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。 ■ 1週間に複数勤務の場合：(非常勤職員の1週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間) ■ 1か月に複数勤務の場合：(非常勤職員の1か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)														
⑩レセプトコンピュータ等による 医事会計システムの導入状況 ^{注2} ※○は1つだけ	1. 導入している		2. 導入の具体的な予定がある												
	3. 導入を検討中		4. 導入する予定はない												
⑪レセプト請求方法 ※最も多いものに○	1. オンライン請求			2. 電子媒体 (CD など) による提出											
	3. 紙レセプトによる提出 (手書き)			4. 代行請求											

注1：開設者による分類は下記の通り。

国：厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康福祉機構、国立研究開発法人、独立行政法人地域医療機能推進機構、その他（国）

公立：都道府県、市町村、地方独立行政法人

公的：日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会

社会保険関係団体：健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合

その他の法人：公益法人、社会福祉法人、医療生協、会社、その他の法人

注2：「レセプトコンピュータ等による医事会計システム」とは、いわゆるレセコンのことです。

2 明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況】

①貴施設における、明細書の発行状況として、最もあてはまるものを選んでください。※〇は1つだけ

- 1. 原則、全患者に明細書を発行している（希望しない患者、自己負担額のない患者等は除く）
- 2. 「正当な理由」の届出をし、発行を希望する一部の患者にのみ明細書を発行している
- 3. 明細書の発行は行っていない → 4 ページの質問 **4** へ

②現在、明細書発行について、患者から費用を徴収していますか。※〇は1つだけ

- 1. 徴収していない → 4 ページの質問 **3** へ
- 2. 徴収している

②-1 1件当たりの徴収金額、その金額の算出根拠、貴施設で平成 27 年 6 月 1 か月間に明細書を有料発行した件数を外来／入院別にお書きください。

1) 1 件当たりの徴収金額	1 件当たり () 円			
2) 徴収金額の算出根拠	()			
3) 明細書の有料発行件数	外来	件	入院	件

→ 4 ページの質問 **3** へお進みください

③貴施設が明細書を発行していない患者として、あてはまるものに〇をつけてください。

自己負担額のない患者は除きます。 ※〇はいくつでも

- 0. 発行していない患者はいない
- 1. 明細書の発行を希望しない患者
- 2. 診療情報の提供が第三者の利益を害するおそれがある、又は患者本人の心身の状況を著しく損なうおそれがあると医療従事者等が認めた患者
- 3. その他（具体的に)

④平成 27 年 6 月 1 か月間に貴施設を受診した患者のうち、明細書を発行しなかった患者はどの程度いましたか。外来／入院別に最もあてはまるものを選んでください。 ※自己負担額のない患者は除きます

1) 外来	1. 10%未満	2. 10%以上 30%未満	3. 30%以上 50%未満
	4. 50%以上 70%未満	5. 70%以上 90%未満	6. 90%以上
	7. わからない		
2) 入院	1. 10%未満	2. 10%以上 30%未満	3. 30%以上 50%未満
	4. 50%以上 70%未満	5. 70%以上 90%未満	6. 90%以上
	7. わからない		

⑤貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で外来患者に対して明細書を発行していますか。※〇はいくつでも

- 1. 精算の都度発行
- 2. 次回来院時に発行
- 3. 月に 1 回まとめて発行
- 4. 患者・家族の要望に応じて発行
- 5. その他（具体的に)

⑥貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で入院患者に対して明細書を発行していますか。※〇はいくつでも

- 1. 精算の都度発行（定期請求を含む）
- 2. 月に 1 回まとめて発行（1.以外）
- 3. 退院時にまとめて発行
- 4. 患者・家族の要望に応じて発行
- 5. その他（具体的に)

⑦貴施設では、自己負担額（一部負担金）のない患者に対して明細書を発行していますか。※〇は1つだけ

- 1. 全員に発行している
- 2. 要望があれば発行している
- 3. 発行していない
- 4. その他（具体的に)

⑦-1 明細書を発行していない理由は何ですか。 ※○はいくつでも

1. 処方がない場合、患者は受付・会計窓口へ寄らずに帰宅するため
 2. 自己負担額のない患者については、明細書発行の義務がないため
 3. 明細書発行のための費用を負担に感じるため
 4. 患者本人が明細書の発行を希望しないため 5. その他（具体的に _____）

⑧自己負担額（一部負担金）のない患者への明細書発行についてご意見があればご記入ください。

【明細書の発行体制・体制整備等】

⑨貴施設では、明細書の作成・発行について、どのような体制で対応していますか。 ※○はいくつでも

1. 会計窓口の職員が対応している 2. 自動入金機で対応している
 3. その他（具体的に _____） 4. 特に対応する体制をとっていない

⑩貴施設では、患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。 ※○はいくつでも

1. 会計窓口の職員が対応している 2. 医師・歯科医師が対応している
 3. 照会の内容によって対応する人を変えている 4. 患者相談窓口で対応している
 5. その他（具体的に _____） 6. 特に対応する体制をとっていない

⑪貴施設では、いつから明細書の発行を行っていますか。 ※○は1つだけ

1. 平成 22 年 3 月以前 2. 平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月
 3. 平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月 4. 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
 5. 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月
 6. 平成 26 年 4 月以降

【平成 26 年 4 月以降に明細書の発行を始めた施設の方】

⑪-1 明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。 ※○はいくつでも

0. 特に行ったことはない

1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：(_____)人
 2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った
 3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した
 4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した
 5. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータとは別の、パソコン等のソフトを新規に購入した
 6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた
 7. 明細書発行に対応している自動入金機を新規に導入した
 8. 明細書発行に対応するため自動入金機を改修した
 9. その他（具体的に _____）

⑪-2 明細書発行体制の整備のために、初期費用としてかかった費用があれば、その金額を具体的にご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、費用が発生しているものの金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

1) 人材体制整備のための費用	約 (_____) 万円
2) 設備投資のための費用	約 (_____) 万円

⑫平成 27 年 6 月 1 か月間で、明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）があれば、その額を具体的にご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、費用が発生しているものの金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

約 (_____) 万円

(→ 裏面に続きます)

⑬明細書発行体制の整備にあたって、負担となることは何ですか。 ※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1. 設備投資のための初期費用 | 2. 人材体制整備のための初期費用 |
| 3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代） | |
| 4. 明細書発行に伴う業務負担の増加 | 5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること |
| 6. その他（具体的に | 7. 特に負担に感じることはない |

【患者の反応】

⑭貴施設において、平成27年6月1か月間で、患者から明細書について問合せはありましたか。 ※〇は1つだけ

- | |
|-------------|
| 1. 問合せがあった |
| 2. 問合せはなかった |

⑭-1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。 ※〇はいくつでも

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 診療月日 | 2. 入院期間 |
| 3. 診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む） | 4. 診療報酬点数の個別点数や価格 |
| 5. 診療報酬点数の算定回数 | 6. 使用医薬品の名称・投与回数・日数 |
| 7. その他（具体的に | |

⑭-2 上記⑭-1で最も多いものの番号1つをお答えください。

→質問4へお進みください

3 <「正当な理由」を届出している施設の方>

原則、全患者に対し明細書を無料発行していない理由等についてお伺いします。

①原則、全患者に対し明細書を無料発行していないのはなぜですか。 ※〇は1つだけ

- | |
|------------------------------------------|
| 1. 明細書発行機能が付与されていないレセプトコンピュータを使用しているため |
| 2. 自動入金機を活用しており、明細書発行を行うには自動入金機の改修が必要なため |
| 3. その他（具体的に |

② 貴施設では、今後、全患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定ですか。 ※〇は1つだけ

- | | |
|--------------------------------------|----------|
| 1. 具体的な計画がある→明細書無料発行予定時期：平成（ ）年（ ）月頃 | |
| 2. 具体的な時期は未定だが、検討中である | 3. 予定はない |
| 4. その他（具体的に | |

③今後、全患者に明細書を無料で発行する場合に何かお困りになることがありますか。 ※〇は1つだけ

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

③-1 それはどのようなことでしょうか。できるだけ具体的にご記入ください。

--

4 <全施設の方>

明細書の無料発行にあたってご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

--

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 27 年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査 調査票

- ※ この「一般診療所票」は医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における診療の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 27 年 6 月末時点の状況についてご記入ください。

1 貴施設の基本情報についてお伺いします。

①施設名	()					
②所在地	() 都・道・府・県					
③開設者 ※○は1つだけ	1. 個人		2. 法人		3. その他 ()	
④施設種別 ※○は1つだけ	1. 有床診療所		→許可病床数：() 床			
	2. 無床診療所					
⑤標榜診療科 ※○はいくつでも *「産婦人科」には、婦人科・産科を含める	1. 内科	2. 外科	3. 整形外科	4. 脳神経外科	5. 小児科	6. 産婦人科*
	7. 呼吸器科	8. 消化器科	9. 循環器科	10. 精神科	11. 眼科	12. 耳鼻咽喉科
	13. 泌尿器科	14. 皮膚科	15. その他			
⑥全職員数 (常勤換算*) ※平成 27 年 6 月末時点 ※小数点以下第 1 位まで	医師	看護職員	薬剤師	事務職員	その他の職員	計
	. 人	. 人	. 人	. 人	. 人	. 人
*非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。						
■ 1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間)						
■ 1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間 × 4)						
⑦ 1 か月間の延べ患者数 ※平成 27 年 6 月 1 か月間	1) 外来	初診	() 人	2) 入院	() 人	
		再診	() 人			
⑧レセプトコンピュータ等による 医事会計システム ^注 の導入状況 ※○は1つだけ	1. 導入している		2. 導入の具体的な予定がある			
	3. 導入を検討中		4. 導入する予定はない			
⑨レセプト請求方法 ※最も多いものに○	1. オンライン請求					
	2. 電子媒体 (CD など) による提出					
	3. 紙レセプトによる提出 (レセプトコンピュータ等による医事会計システムを使用)					
	4. 紙レセプトによる提出 (手書き)					
	5. 代行請求					

注：「レセプトコンピュータ等による医事会計システム」とは、いわゆるレセコンのことです。

2 明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況】

①「明細書発行体制等加算」の届出をしていますか。 ※〇は1つだけ

- 1. 届出している →1) 施設基準届出時期：平成（ ）年（ ）月
→2) 算定回数：（ ）回 ※平成27年6月1か月間
- 2. 届出していない

②貴施設における明細書の発行状況として、最もあてはまるものを選んでください。 ※〇は1つだけ

- 1. 原則、全患者に明細書を発行している（希望しない患者、自己負担額のない患者等は除く）
- 2. 希望する一部の患者にのみ明細書を発行している
- 3. 明細書の発行は行っていない →4 ページの質問**3**へ

③現在、明細書発行について、患者から費用を徴収していますか。費用を徴収している場合、1件当たりの金額はいくらですか。また、その金額の算出根拠を具体的にお書きください。

※〇は1つだけ ※明細書発行体制等加算による費用徴収は除く

- 1. 徴収していない
- 2. 徴収している → { 1件当たりの徴収金額：（ ）円
上記徴収金額の算出根拠：（具体的に ）

④貴施設での平成27年6月1か月間の明細書発行件数について、外来／入院別にお書きください。

※自己負担額のない患者への発行件数も含めてご記入ください ※発行がない場合は「0」とご記入ください

	外 来	入 院（有床診療所の方のみ）
1) 無料で発行した件数	件	件
2) 有料で発行した件数	件	件
3) 合計	件	件

⑤貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で外来患者に対して明細書を発行していますか。 ※〇はいくつでも

- 1. 精算の都度発行
- 2. 次回来院時に発行
- 3. 月に1回まとめて発行
- 4. 患者・家族の要望に応じて発行
- 5. その他（具体的に ）

【有床診療所の方】

⑥貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で入院患者に対して明細書を発行していますか。 ※〇はいくつでも

- 1. 精算の都度発行（定期請求を含む）
- 2. 月に1回まとめて発行（1以外）
- 3. 退院時にまとめて発行
- 4. 患者・家族の要望に応じて発行
- 5. その他（具体的に ）

⑦貴施設では、自己負担額（一部負担金）のない患者に対して明細書を発行していますか。 ※〇は1つだけ

- 1. 全員に発行している
- 2. 要望があれば発行している
- 3. 発行していない
- 4. その他（具体的に ）

【上記⑦で「3. 発行していない」と回答した施設の方】

⑦-1 明細書を発行していない理由は何ですか。 ※〇はいくつでも

- 1. 処方がない場合、患者は受付・会計窓口へ寄らずに帰宅するため
- 2. 自己負担額のない患者については、明細書発行の義務がないため
- 3. 明細書発行のための費用を負担に感じるため
- 4. 患者本人が明細書の発行を希望しないため
- 5. その他（具体的に ）

⑧自己負担額（一部負担金）のない患者への明細書発行についてご意見があればご記入ください。

【明細書の発行体制・体制整備等】

⑨貴施設では、どのような方法で明細書の作成・発行を行っていますか。 ※〇はいくつでも

1. レセプトコンピュータで作成している	2. パソコン等で作成している
3. 手書きで作成している	4. その他（具体的に _____ ）

⑩貴施設では、患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。 ※〇はいくつでも

1. 会計窓口の職員が対応している	2. 医師が対応している
3. 照会の内容によって対応する人を変えている	
4. その他（具体的に _____ ）	5. 特に対応する体制をとっていない

⑪貴施設では、いつから明細書の発行を行っていますか。 ※〇は1つだけ

1. 平成 22 年 3 月以前	2. 平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月
3. 平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	4. 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
5. 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	
6. 平成 26 年 4 月以降	

【平成 26 年 4 月以降に明細書の発行を始めた施設の方】

⑪-1 明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。 ※〇はいくつでも

0. 特に行ったことはない
1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：(_____) 人
2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った
3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した
4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した
5. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータとは別の、パソコン等のソフトを新規に購入した
6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた
7. 明細書発行に対応している自動入金機を新規に導入した
8. 明細書発行に対応するため自動入金機を改修した
9. その他（具体的に _____ ）

⑪-2 明細書を発行するために、初期費用としてかかった費用があれば、その金額を具体的にご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、費用が発生しているものの金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

1) 人材体制整備のための費用	約 (_____) 万円
2) 設備投資のための費用	約 (_____) 万円

⑫平成 27 年 6 月 1 か月間で、明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）があれば、その額を具体的にご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、費用が発生しているものの金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

約 (_____) 万円

⑬明細書発行体制の整備にあたって、負担となることは何ですか。 ※〇はいくつでも

1. 設備投資のための初期費用	2. 人材体制整備のための初期費用
3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）	
4. 明細書発行に伴う業務負担の増加	5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること
6. その他（具体的に _____ ）	
7. 特に負担に感じることはない	

(→ 裏面に続きます)

【患者の反応等】

⑭ 貴施設において、平成 27 年 6 月 1 か月間で、患者から明細書について問合せはありましたか。 ※○は1つだけ

- 1. 問合せがあった
- 2. 問合せはなかった

⑭-1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。 ※○はいくつでも

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 診療月日 | 2. 入院期間 |
| 3. 診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む） | 4. 診療報酬点数の個別点数や価格 |
| 5. 診療報酬点数の算定回数 | 6. 使用医薬品の名称・投与回数・日数 |
| 7. その他（具体的に _____） | |

⑭-2 上記⑭-1で最も多いものの番号1つをお答えください。

3 <全患者（発行を希望しない患者、自己負担額のない患者等を除く）には明細書の無料発行を行っていない施設の方>

原則、全患者には明細書を無料発行していない理由等についてお伺いします。

① 原則、全患者には明細書を無料発行していないのはなぜですか。 ※○は1つだけ

- 1. 全ての常勤医師が 65 歳以上で審査支払機関にその旨の届出をして、オンライン請求または電子媒体による請求が免除されているため
- 2. 明細書発行機能が付与されていないレセプトコンピュータを使用しているため
- 3. 自動入金機を活用しており、明細書発行を行うには自動入金機の改修が必要なため
- 4. レセプトコンピュータを使用していないため
- 5. その他（具体的に _____）

② 貴施設では、今後、全患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定ですか。 ※○は1つだけ

- 1. 具体的な計画がある→明細書無料発行予定時期：平成（ _____ ）年（ _____ ）月頃
- 2. 具体的な時期は未定だが、検討中である
- 3. 予定はない
- 4. その他（具体的に _____）

③ 今後、全患者に明細書を無料で発行する場合に何かお困りになることがありますか。 ※○は1つだけ

- 1. ある
- 2. ない

③-1 それはどのようなことでしょうか。できるだけ具体的にご記入ください。

4 <全施設の方>

明細書の無料発行について、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 27 年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査 調査票

- ※ この「歯科診療所票」は歯科診療所の開設者・管理者の方に、貴施設における診療の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 27 年 6 月末時点の状況についてご記入ください。

1 貴施設の基本情報についてお伺いします。

①施設名	()			
②所在地	() 都・道・府・県			
③開設者 ※○は1つだけ	1. 個人 2. 法人 3. その他 ()			
④標榜診療科 ※○はいくつでも	1. 歯科 2. 矯正歯科 3. 小児歯科 4. 歯科口腔外科 5. その他			
⑤全職員数 (常勤換算*) ※平成 27 年 6 月末時点 ※小数点以下第 1 位まで	歯科医師	歯科衛生士	その他の職員	計
	. 人	. 人	. 人	. 人
*非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。 ■ 1 週間に複数勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間) ■ 1 か月に複数勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間 × 4)				
⑥ 1 か月間の延べ外来患者数 ※平成 27 年 6 月 1 か月間	初診	() 人		
	再診	() 人		
⑦レセプトコンピュータ等による 医事会計システム ^注 の導入状況 ※○は1つだけ	1. 導入している 2. 導入の具体的な予定がある 3. 導入を検討中 4. 導入する予定はない			
⑧レセプト請求方法 ※最も多いものに○	1. オンライン請求 2. 電子媒体 (CD など) による提出 3. 紙レセプトによる提出 (レセプトコンピュータ等による医事会計システムを使用) 4. 紙レセプトによる提出 (手書き) 5. 代行請求			

注：「レセプトコンピュータ等による医事会計システム」とは、いわゆるレセコンのことです。

2 明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況】

①「明細書発行体制等加算」の届出をしていますか。 ※○は1つだけ	
1. 届出している	→1) 施設基準届出時期：平成 () 年 () 月 →2) 算定回数：() 回 ※平成 27 年 6 月 1 か月間
2. 届出していない	

②貴施設における、明細書の発行状況として、最もあてはまるものを選んでください。※○は1つだけ

- 1. 原則、全患者に明細書を発行している（希望しない患者、自己負担額のない患者等は除く）
- 2. 希望する一部の患者にのみ明細書を発行している
- 3. 明細書の発行は行っていない →4 ページの質問 **3** へ

③現在、明細書発行について、患者から費用を徴収していますか。費用を徴収している場合、1 件当たりの金額はいくらですか。また、その金額の算出根拠を具体的にお書きください。
※○は1つだけ ※明細書発行体制等加算による費用徴収は除く

- 1. 徴収していない
- 2. 徴収している → $\left\{ \begin{array}{l} \text{1 件当たりの徴収金額：(} \quad \quad \quad \text{) 円} \\ \text{上記徴収金額の算出根拠：(具体的に} \quad \quad \quad \text{)} \end{array} \right.$

④貴施設での平成 27 年 6 月 1 か月間の明細書発行件数をお書きください。
※自己負担額のない患者への発行件数も含めてご記入ください ※発行がない場合は「0」とご記入ください

1) 無料で発行した件数	件
2) 有料で発行した件数	件
3) 合計	件

⑤貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で明細書を発行していますか。※○はいくつでも

- 1. 精算の都度発行
- 2. 次回来院時に発行
- 3. 月に 1 回まとめて発行
- 4. 患者・家族の要望に応じて発行
- 5. その他（具体的に $\quad \quad \quad$)

⑥貴施設では、自己負担額（一部負担金）のない患者に対して明細書を発行していますか。※○は1つだけ

- 1. 全員に発行している
- 2. 要望があれば発行している
- 3. 発行していない
- 4. その他（具体的に $\quad \quad \quad$)

【上記⑥で「3. 発行していない」と回答した施設の方】

⑥-1 明細書を発行していない理由は何ですか。※○はいくつでも

- 1. 処方がない場合、患者は受付・会計窓口へ寄らずに帰宅するため
- 2. 自己負担額のない患者については、明細書発行の義務がないため
- 3. 明細書発行のための費用を負担に感じるため
- 4. 患者本人が明細書の発行を希望しないため
- 5. その他（具体的に $\quad \quad \quad$)

⑦自己負担額（一部負担金）のない患者への明細書発行についてご意見があればご記入ください。

【明細書の発行体制・体制整備等】

⑧貴施設では、どのような方法で明細書の作成・発行を行っていますか。 ※○はいくつでも

- 1. レセプトコンピュータで作成している
- 2. パソコン等で作成している
- 3. 手書きで作成している
- 4. その他（具体的に $\quad \quad \quad$)

⑨貴施設では、患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。※〇はいくつでも

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 会計窓口の職員が対応している | 2. 歯科医師が対応している |
| 3. 照会の内容によって対応する人を変えている | |
| 4. その他（具体的に | 5. 特に対応する体制をとっていない |

⑩貴施設では、いつから明細書の発行を行っていますか。※〇は1つだけ

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 平成 22 年 3 月以前 | 2. 平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月 |
| 3. 平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月 | 4. 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月 |
| 5. 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 | |
| 6. 平成 26 年 4 月以降 | |

【平成 26 年 4 月以降に明細書の発行を始めた施設の方】

⑩-1 明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。 ※〇はいくつでも

0. 特に行ったことはない
1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：()人
2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った
3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した
4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した
5. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータとは別の、パソコン等のソフトを新規に購入した
6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた
7. 明細書発行に対応している自動入金機を新規に導入した
8. 明細書発行に対応するため自動入金機を改修した
9. その他（具体的に

⑩-2 明細書を発行するために、初期費用としてかかった費用があれば、その金額を具体的にご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、費用が発生しているものの金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

1) 人材体制整備のための費用	約 () 万円
2) 設備投資のための費用	約 () 万円

⑪平成 27 年 6 月 1 か月間で、明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）があれば、その額を具体的にご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、費用が発生しているものの金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

約 () 万円

⑫明細書発行体制の整備にあたって、負担となることは何ですか。 ※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1. 設備投資のための初期費用 | 2. 人材体制整備のための初期費用 |
| 3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代） | |
| 4. 明細書発行に伴う業務負担の増加 | 5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること |
| 6. その他（具体的に | |
| 7. 特に負担に感じることはない | |

(→ 裏面に続きます)

【患者の反応等】

⑬貴施設において、平成27年6月1か月間で、患者から明細書について問合せはありましたか。※〇は1つだけ

- 1. 問合せがあった
- 2. 問合せはなかった

▶⑬-1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。※〇はいくつでも

- 1. 診療月日
- 2. 診療報酬点数の個別項目名（処置・検査名含む）
- 3. 診療報酬点数の個別点数や価格
- 4. 診療報酬点数の算定回数
- 5. 使用医薬品の名称・投与回数・日数
- 6. その他（具体的に

⑬-2 上記⑬-1で最も多いものの番号1つをお答えください。

3 <全患者（発行を希望しない患者、自己負担額のない患者等を除く）には明細書の無料発行を行っていない施設の方>

原則、全患者には明細書を無料発行していない理由等についてお伺いします。

①原則、全患者には明細書を無料発行していないのはなぜですか。※〇は1つだけ

- 1. 全ての常勤歯科医師が65歳以上で審査支払機関にその旨の届出をして、オンライン請求または電子媒体による請求が免除されているため
- 2. 明細書発行機能が付与されていないレセプトコンピュータを使用しているため
- 3. 自動入金機を活用しており、明細書発行を行うには自動入金機の改修が必要なため
- 4. レセプトコンピュータを使用していないため
- 5. その他（具体的に

②貴施設では、今後、全患者に明細書を無料で発行する体制を整える予定ですか。 ※〇は1つだけ

- 1. 具体的な計画がある→明細書無料発行予定時期：平成（ ）年（ ）月頃
- 2. 具体的な時期は未定だが、検討中である
- 3. 予定はない
- 4. その他（具体的に

③今後、全患者に明細書を無料で発行する場合に何かお困りになることがありますか。 ※〇は1つだけ

- 1. ある
- 2. ない

▶③-1 それはどのようなことでしょうか。できるだけ具体的に記入ください。

4 <全施設の方>

明細書の無料発行について、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 27 年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査 調査票

- ※ この「保険薬局票」は保険薬局の開設者・管理者の方に、貴施設における調剤の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 27 年 6 月末時点の状況についてご記入ください。

1 貴施設の基本情報についてお伺いします。

①施設名	()			
②所在地	() 都・道・府・県			
③組織形態 ※○は1つだけ ※会社の場合は、会社の形態にも○をつけてください	1. 会社→ (1.株式会社 2.有限会社 3.合資会社 4.合名会社 5.その他) 2. その他			
④全職員数 (常勤換算*) ※小数点以下第1位まで	薬剤師	事務職員	その他職員	計
	. 人	. 人	. 人	. 人
*非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。 ■ 1週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の1週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間) ■ 1か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の1か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)				
⑤調剤基本料 ※○は1つだけ	1. 調剤基本料 (41点)		2. 調剤基本料 (31点)	
	3. 調剤基本料 (25点)		4. 調剤基本料 (19点)	
⑥基準調剤加算 ※○は1つだけ	1. 基準調剤加算 1 (12点)		2. 基準調剤加算 2 (36点)	
	3. 届出(算定)していない			
⑦1か月間の延べ来局人数	() 人 ※平成 27 年 6 月 1 か月間			
⑧レセプトコンピュータ等による医事会計システム ^注 の導入状況 ※○は1つだけ	1. 導入している		2. 導入の具体的な予定がある	
	3. 導入を検討中		4. 導入する予定はない	
⑨レセプト請求方法 ※最も多いものに○	1. オンライン請求			
	2. 電子媒体 (CD など) による提出			
	3. 紙レセプトによる提出 (レセプトコンピュータ等による医事会計システム*を使用)			
	4. 紙レセプトによる提出 (手書き)			
	5. 代行請求			

注：「レセプトコンピュータ等による医事会計システム」とは、いわゆるレセコンのことです。

2 明細書の発行状況、発行体制、患者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況等】

①平成 27 年 6 月 1 か月間に貴施設で処方せんを受け付けた患者のうち、明細書を発行しなかった患者はどの程度いましたか。 ※〇は1つだけ ※自己負担額のない患者は除きます

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 10%未満 | 2. 10%以上 30%未満 | 3. 30%以上 50%未満 |
| 4. 50%以上 70%未満 | 5. 70%以上 90%未満 | 6. 90%以上 |
| 7. わからない | | |

②貴施設が明細書を発行していない患者として、あてはまるものに〇をつけてください。
自己負担額のない患者は除きます。 ※〇はいくつでも

0. 発行していない患者はいない
1. 明細書の発行を希望しない患者
2. 診療情報の提供が第三者の利益を害するおそれがある、又は患者本人の心身の状況を著しく損なうおそれがあると医療従事者等が認めた患者
3. その他（具体的に _____）

③貴施設では、どのようなタイミング（頻度）で明細書を発行していますか。 ※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 精算の都度発行 | 2. 次回来局時に発行 |
| 3. 月に1回まとめて発行 | 4. 患者・家族の要望に応じて発行 |
| 5. その他（具体的に _____） | |

④貴施設では、自己負担額（一部負担金）のない患者に対して明細書を発行していますか。 ※〇は1つだけ

1. 全員に発行している
2. 要望があれば発行している
3. 発行していない
4. その他（具体的に _____）

【上記④で「3. 発行していない」と回答した施設の方】

④-1 明細書を発行していない理由は何ですか。 ※〇はいくつでも

1. 自己負担額のない患者については、明細書発行の義務がないため
2. 明細書発行のための費用を負担に感じるため
3. 患者本人が明細書の発行を希望しないため
4. その他（具体的に _____）

⑤自己負担額（一部負担金）のない患者への明細書発行についてご意見があればご記入ください。

【明細書の発行体制・体制整備等】

⑥貴施設では、明細書の作成・発行について、どのような体制で対応していますか。 ※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1. 会計窓口の職員（薬剤師以外）が対応している | 2. 会計窓口の薬剤師が対応している |
| 3. 薬を交付した薬剤師が対応している | 4. その他（具体的に _____） |
| 5. 特に対応する体制をとっていない | |

⑦貴施設では、患者からの明細書の内容等の問合せに、どのような体制で対応していますか。 ※○はいくつでも

1. 会計窓口の職員（薬剤師以外）が対応している	2. 会計窓口の薬剤師が対応している
3. 薬を交付した薬剤師が対応している	4. 問合せを受けた薬剤師が対応している
5. その他（具体的に	6. 特に対応する体制をとっていない

⑧貴施設では、いつから明細書の発行を行っていますか。 ※○は1つだけ

1. 平成 22 年 3 月以前	2. 平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月
3. 平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	4. 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
5. 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月	
6. 平成 26 年 4 月以降	

【平成 26 年 4 月以降に明細書の発行を始めた施設の方】

⑧-1 明細書の作成及び患者からの照会のために、貴施設が行ったことは何ですか。 ※○はいくつでも

0. 特に行ったことはない
1. 明細書発行や患者からの照会に対応するための職員を増員した →増員した人数：()人
2. 患者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った
3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した
4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した
5. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータとは別の、パソコン等のソフトを新規に購入した
6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた
7. その他（具体的に

⑧-2 明細書を発行するために、初期費用としてかかった費用があれば、その金額を具体的にご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、費用が発生しているものの金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

1) 人材体制整備のための費用	約 () 万円
2) 設備投資のための費用	約 () 万円

⑨平成 27 年 6 月 1 か月間で、明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）があれば、その額を具体的にご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、費用が発生しているものの金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

約 () 万円

⑩明細書発行体制の整備にあたって、負担となることは何ですか。 ※○はいくつでも

1. 設備投資のための初期費用	2. 人材体制整備のための初期費用
3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）	
4. 明細書発行に伴う業務負担の増加	5. 会計等の患者の待ち時間が長くなること
6. その他（具体的に	
7. 特に負担に感じることはない	

(→ 裏面に続きます)

ID

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 27 年度調査)

明細書の無料発行の実施状況調査 調査票

- ※ この「訪問看護ステーション票」は訪問看護ステーションの開設者・管理者の方に、貴事業所における訪問看護療養費の内容がわかる明細書（以下、「明細書」）の発行状況やお考えについてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない場合は、平成 27 年 6 月末時点の状況、医療保険の訪問看護についてご記入ください。

1 貴事業所の基本情報についてお伺いします。

①事業所名	()			
②所在地	() 都・道・府・県			
③開設者 ※○は1つだけ	1. 国 2. 都道府県・市区町村・地方独立行政法人・広域連合・一部事務組合 3. 日本赤十字社・社会保険関係団体 4. 医療法人 5. 医師会 6. 看護協会 7. 社団・財団法人（医師会と看護協会は含まない） 8. 社会福祉法人（社会福祉協議会含む） 9. 農業協同組合及び連合会 10. 消費生活協同組合及び連合会 11. 営利法人（株式・合名・合資・有限会社） 12. 特定非営利活動法人（NPO） 13. その他（具体的に)			
④貴事業所の病院または診療所への併設状況	1. 併設している		2. 併設していない	
⑤保険種別の訪問看護の実利用者数 ※平成 27 年 6 月 1 か月間	医療保険	() 人	介護保険	() 人
⑥全職員数 (常勤換算*) ※平成 27 年 6 月末時点 ※小数点以下第 1 位まで	看護職員	事務職員	その他の職員	計
	. 人	. 人	. 人	. 人
*非常勤職員の「常勤換算」は以下の方法で計算してください。 ■ 1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (貴事業所が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間) ■ 1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間) ÷ (貴事業所が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間 × 4)				
⑦レセプトコンピュータ等による 医事会計システム ^注 の導入状況 ※○は1つだけ	1. 導入している 2. 導入の具体的な予定がある 3. 導入を検討中 4. 導入する予定はない			
⑧レセプト請求方法 ※最も多いものに○	1. 紙レセプトによる提出（レセプトコンピュータ等による医事会計システムを使用） 2. 紙レセプトによる提出（手書き） 3. 代行請求 4. その他（具体的に)			

注：「レセプトコンピュータ等による医事会計システム」とは、いわゆるレセコンのことです。

2 貴事業所における明細書（訪問看護療養費の内容がわかる明細書）の発行状況、発行体制、利用者の反応等についてお伺いします。

【明細書の発行状況】

①貴事業所における、明細書の発行状況として、最もあてはまるものを選んでください。※〇は1つだけ

1. 原則、全利用者に明細書を発行している（希望しない利用者、自己負担額のない利用者等は除く）
2. 希望する一部の利用者にものみ明細書を発行している
3. 明細書の発行は行っていない → 4 ページの質問 **3** へ

②現在、明細書発行について、利用者から費用を徴収していますか。費用を徴収している場合、1件当たりの金額はいくらですか。また、その金額の算出根拠を具体的にお書きください。 ※〇は1つだけ

1. 徴収していない
2. 徴収している →

{	1件当たりの徴収金額：（ ）円
	上記徴収金額の算出根拠：（具体的に ）

③貴事業所での平成27年6月1か月間の明細書発行件数をお書きください。

※自己負担額のない利用者への発行件数も含めてご記入ください ※発行がない場合は「0」とご記入ください

1) 無料で発行した件数	（ ）件
2) 有料で発行した件数	（ ）件
3) 合計	（ ）件

④貴事業所では、どのようなタイミング（頻度）で利用者に対して明細書を発行していますか。※〇はいくつでも

1. 精算の都度発行
2. 次回訪問時に発行
3. 月に1回まとめて発行
4. 利用者・家族の要望に応じて発行
5. 請求書の発行と同時に前月利用分をまとめて発行
6. その他（具体的に ）

⑤貴事業所では、自己負担額（一部負担金）のない利用者に対して明細書を発行していますか。※〇は1つだけ

1. 全員に発行している
2. 要望があれば発行している
3. 発行していない
4. その他（具体的に ）

▶【上記⑤で「3. 発行していない」と回答した事業所の方】

⑤-1 明細書を発行していない理由は何ですか。※〇はいくつでも

1. 領収証を渡すなど、訪問看護療養費について話す機会がないため
2. 明細書発行のための費用を負担に感じるため
3. 利用者本人が明細書の発行を希望しないため
4. その他（具体的に ）

⑥自己負担額（一部負担金）のない利用者への明細書発行についてご意見があればご記入ください。

【明細書の発行体制等】

⑦貴事業所では、明細書の作成・発行について、どのような体制で対応していますか。 ※〇はいくつでも

1. 事務職員が対応している
2. 管理者が対応している
3. 看護職員が対応している
4. その他（具体的に ）
5. 特に対応する体制をとっていない

⑧貴事業所では、明細書をどのような方法で作成・発行していますか。 ※〇は1つだけ

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. レセプトコンピュータで作成・出力している | 2. パソコン等で作成・出力している |
| 3. 手書きで作成・発行している | 4. その他（具体的に _____） |

⑨貴事業所では、利用者からの明細書の内容等の問合せにどのような体制で対応していますか。 ※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 事務職員が対応している | 2. 管理者が対応している |
| 3. 看護職員が対応している | 4. その他（具体的に _____） |
| 5. 特に対応する体制をとっていない | |

⑩貴事業所では、いつから明細書の発行を行っていますか。 ※〇は1つだけ

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 平成 22 年 3 月以前 | 2. 平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月 |
| 3. 平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月 | 4. 平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月 |
| 5. 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 | |
| 6. 平成 26 年 4 月以降 | |

▶【平成 26 年 4 月以降に明細書の発行を始めた事業所の方】

⑩-1 明細書の作成及び利用者からの照会のために、貴事業所が行ったことは何ですか。 ※〇はいくつでも

- | |
|---------------------------------------------------|
| 0. 特に行ったことはない |
| 1. 明細書発行や利用者からの照会に対応するための職員を増員した →増員人数：(_____)人 |
| 2. 利用者からの照会に対応するために担当者に対して教育研修を行った |
| 3. 明細書発行に対応しているレセプトコンピュータを新規に導入した |
| 4. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータを改修した |
| 5. 明細書発行に対応するためにレセプトコンピュータとは別の、パソコン等のソフトを新規に購入した |
| 6. 明細書を印刷するためのプリンターを新規に購入または買い換えた |
| 7. その他（具体的に _____） |

⑩-2 明細書を発行するために、初期費用としてかかった費用があれば、その金額を具体的にご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、費用が発生しているものの金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

1) 人材体制整備のための費用	約 (_____) 万円
2) 設備投資のための費用	約 (_____) 万円

⑪平成 27 年 6 月 1 か月間で、明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代）があれば、その額を具体的にご記入ください。費用が発生していない場合は「0」、費用が発生しているものの金額が不明の場合は「-」とご記入ください。

約 (_____) 万円

⑫明細書発行体制の整備にあたって、負担となることは何ですか。 ※〇はいくつでも

- | |
|--------------------------------|
| 1. 設備投資のための初期費用 |
| 2. 人材体制整備のための初期費用 |
| 3. 明細書発行のための運用経費（インク・紙などの消耗品代） |
| 4. 明細書発行に伴う業務負担の増加 |
| 5. その他（具体的に _____） |
| 6. 特に負担に感じることはない |

(→ 裏面に続きます)

【利用者の反応】

⑬貴事業所において、平成27年6月1か月間で、利用者から明細書について問合せはありましたか。

※〇は1つだけ

- 1. 問合せがあった
- 2. 問合せはなかった

⑬-1 明細書についての患者からの問合せ項目はどのようなものがありましたか。 ※〇はいくつでも

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 請求期間 | 2. 提供日 |
| 3. 訪問看護療養費の個別項目名 | 4. 訪問看護療養費の個別単価 |
| 5. 訪問看護療養費の個別数量 | 6. 保険外負担分の項目・単価・数量 |
| 7. 保険負担額 | 8. 保険外負担額 |
| 9. その他（具体的に | ） |

⑬-2 上記⑬-1で最も多いものの番号1つをお答えください。

3 <全利用者（発行を希望しない利用者、自己負担額のない利用者等を除く）には明細書の無料発行を行っていない事業所の方>

原則、全利用者には明細書を無料発行していない理由等についてお伺いします。

①全利用者には明細書を無料発行していないのはなぜですか。 ※〇はいくつでも

- 1. 訪問看護ステーションでは、明細書の無料発行が義務化されていないため
- 2. 明細書発行機能が付与されていないレセプトコンピュータを使用しているため
- 3. レセプトコンピュータを使用していないため
- 4. 領収証で訪問看護の内容が十分わかるため
- 5. 利用者の要望がないため
- 6. その他（具体的に

② 貴事業所では、今後、全利用者に明細書を無料で発行する体制を整える予定ですか。 ※〇は1つだけ

- 1. 具体的な計画がある→明細書無料発行予定時期：平成（ ）年（ ）月頃
- 2. 具体的な時期は未定だが、検討中である
- 3. 予定はない
- 4. その他（具体的に

③今後、全利用者に明細書を無料で発行する場合に何かお困りになることがありますか。 ※〇は1つだけ

- 1. ある
- 2. ない

③-1 それはどのようなことでしょうか。できるだけ具体的に記入ください。

4 <全事業所の方>

明細書の無料発行について、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 27 年度調査)

明細書の無料発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、() 内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。
この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者ご本人（代筆の場合も含む） 2. 本人以外のご家族等（具体的に ）

1. 患者さんご自身のことについておうかがいします。

① 性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額（医療機関や薬局の窓口で支払う金額）がありましたか。 ※○は1つだけ	1. ある 2. ない		
④ この1か月間で、本日受診した（この調査票を受け取った）医療機関に行った回数	約 () 回		
⑤ あなたには、ご自身が「かかりつけ医」と考える医師がいますか。 ※○は1つだけ			
1. いる → 病院の医師：() 人、診療所*1の医師：() 人			
2. いない			
3. わからない → 2 ページの質問 2. へ			

*1:診療所とは、一般的に「〇〇医院」「〇〇クリニック」「〇〇診療所」と呼ばれる、小規模な医療機関のことです。

（「かかりつけ医」がいる方）

⑤-1 その医師を「かかりつけ医」とした理由は何ですか。 ※○はいくつでも	
1. 自宅や職場・学校に近いから	
2. 診療科に関わらず何でも相談に乗ってくれるから	
3. 一度に複数の診療科を受診できるから	4. 専門性の高い治療を受けられるから
5. 医師の診療技術がよいと感じるから	6. 往診をしてくれるから
7. 緊急時に入院できるから	8. 検査機器などの設備が整っているから
9. 待ち時間が短いから	10. 過去の病歴・家族歴を把握しているから
11. 人柄などが信頼できる医師がいるから	12. 他の医療機関・施設等から紹介されたため
13. 家族や知人に勧められたから	
14. 医療機関の広告やホームページの情報をみて良いと思ったから	
15. その他（具体的に ）	
⑤-2 「かかりつけ医」への受診の仕方として、最もあてはまるものを1つ選んでください。	
1. 1つの病気にかかっていて、1人の「かかりつけ医」から治療を受けている	
2. 複数の病気にかかっていて、1人の「かかりつけ医」から全ての治療を受けている	
3. 複数の病気にかかっていて、病気ごとに別の「かかりつけ医」から治療を受けている	
4. 特に持病はないが、病気の内容に関わらず、まずは決まった1人の「かかりつけ医」を受診する	
5. 特に持病はないが、病気の内容に応じて受診する「かかりつけ医」を変える	

（「かかりつけ医」がない方）

⑤-3 「かかりつけ医」がない理由を教えてください。 ※〇はいくつでも

1. 医療機関を受診する機会がほとんどなかったから
2. 病気にかかる度、その病気の専門医から治療を受けたいから
3. 継続して受診したいと思える医師に巡り会えていないから
4. 自分が受診できる時間・場所に応じて、受診する医療機関を選んでいるから
5. 引越すことが多いから
6. 「かかりつけ医」を持つ必要性を感じていないから
7. その他（具体的に _____)

2. ここからは、本日の明細書の受け取り状況等についておうかがいします。

※明細書とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、診療の内容がわかる明細書の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日受診した医療機関で明細書を受け取りましたか。 ※〇は1つだけ

1. 受け取った
 2. 自らの希望で受け取らなかった
 3. 医療機関が発行しなかったので受け取っていない
 4. わからない
- } 3ページの質問3.へ

①-1 明細書を受け取るための手数料（治療費ではありません）をお支払いになりましたか。お支払いになった場合はその金額もご記入ください。 ※〇は1つだけ

1. 支払った →（お支払い金額： _____ 円）
2. 支払っていない
3. わからない

①-2 明細書の内容を確認しましたか。 ※〇は1つだけ

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. きちんと確認した | 2. おおまかに確認した |
| 3. ほとんど確認しなかった | 4. まったく確認しなかった |

①-3 明細書を受け取って良かったことは何ですか。 ※〇はいくつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 医療機関への安心感・信頼感が高まった
6. その他（具体的に _____)
7. 特にない

3. (すべての方におうかがいします。)

これからの明細書の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、病院（外来）・一般診療所での明細書の発行を希望しますか。 ※○は1つだけ

1. 会計の都度、明細書発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があった時など、時と場合により、明細書発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

→ ①-1 希望しない理由は何ですか。 ※○はいくつでも

1. 明細書をもらっても内容がよくわからないため
2. 明細書をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 明細書発行までに時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担がないため
9. その他（具体的に _____)

①-2 上記①-1の選択肢 1~9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。 あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 全ての患者に明細書が無料で発行される制度について、どのように思いますか。 ※○は1つだけ

1. 必要と思う
2. どちらかというとも必要と思う
3. どちらかというとも必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 明細書の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

8月7日（金）までに専用の返信用封筒（切手不要）に同封し、お近くのポストに投函してください。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 27 年度調査)

明細書の無料発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者ご本人（代筆の場合も含む） 2. 本人以外のご家族等（具体的に ）

1. 患者さんご自身のことについておうかがいします。

① 性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額（医療機関や薬局の窓口で支払う金額）がありましたか。 ※○は1つだけ			
1. ある 2. ない			
④本日退院した（この調査票を受け取った）病院に、どのくらい入院していましたか。 ※○は1つだけ			
1. 3日以内 2. ~2週間以内 3. ~1か月以内 4. ~3か月以内			
5. ~6か月以内 6. 6か月以上 7. その他（具体的に ）			

2. 本日の明細書の受け取り状況等についておうかがいします。

※明細書とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、診療の内容がわかる明細書の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日退院した病院で明細書を受け取りましたか。 ※○は1つだけ

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1. 受け取った | } 裏面の質問 3 へ |
| 2. 自らの希望で受け取らなかった | |
| 3. 病院が発行しなかったので受け取っていない | |
| 4. わからない | |

①-1 明細書を受け取るための手数料（治療費ではありません）をお支払いになりましたか。お支払いになった場合はその金額もご記入ください。 ※○は1つだけ

- | |
|---------------------------|
| 1. 支払った →（お支払い金額： 円） |
| 2. 支払っていない |
| 3. わからない |

①-2 明細書の内容を確認しましたか。 ※○は1つだけ

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. きちんと確認した | 2. おおまかに確認した |
| 3. ほとんど確認しなかった | 4. まったく確認しなかった |

①-3 明細書を受け取って良かったことは何ですか。 ※〇はいくつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 医療機関への安心感・信頼感が高まった
6. その他（具体的に _____)
7. 特にない

3. (すべての方におうかがいします。)

これからの明細書の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、病院（入院）での明細書の無料発行を希望しますか。 ※〇は1つだけ

1. 会計の都度、明細書発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があった時など、時と場合により、明細書発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

①-1 希望しない理由は何ですか。 ※〇はいくつでも

1. 明細書をもらっても内容がよくわからないため
2. 明細書をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 明細書発行までに時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担がないため
9. その他（具体的に _____)

①-2 上記①-1の選択肢1~9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。 あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 全ての患者に明細書が無料で発行される制度について、どのように思いますか。 ※〇は1つだけ

1. 必要と思う
2. どちらかというとも必要と思う
3. どちらかというとも必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 明細書の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

8月7日（金）までに専用の返信用封筒（切手不要）に同封し、お近くのポストに投函してください。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 27 年度調査)

明細書の無料発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者ご本人(代筆の場合も含む) 2. 本人以外のご家族等(具体的に)

1. 患者さんご自身のことについておうかがいします。

① 性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額(医療機関や薬局の窓口で払う金額)がありましたか。 ※○は1つだけ	1. ある 2. ない		
④ この1か月間で、本日受診した(この調査票を受け取った)医療機関に行った回数	約()回		
⑤ あなたには、ご自身が「かかりつけ医」と考える医師がいますか。 ※○は1つだけ			
1. いる → 病院の医師:()人、診療所*1の医師:()人			
2. いない			
3. わからない → 2ページの質問2.へ			

*1:診療所とは、一般的に「〇〇医院」「〇〇クリニック」「〇〇診療所」と呼ばれる、小規模な医療機関のことです。

(「かかりつけ医」がいる方)

⑤-1 その医師を「かかりつけ医」とした理由は何ですか。 ※○はいくつでも
1. 自宅や職場・学校に近いから 2. 診療科に関わらず何でも相談に乗ってくれるから 3. 一度に複数の診療科を受診できるから 4. 専門性の高い治療を受けられるから 5. 医師の診療技術がよいと感じるから 6. 往診をしてくれるから 7. 緊急時に入院できるから 8. 検査機器などの設備が整っているから 9. 待ち時間が短いから 10. 過去の病歴・家族歴を把握しているから 11. 人柄などが信頼できる医師がいるから 12. 他の医療機関・施設等から紹介されたため 13. 家族や知人に勧められたから 14. 医療機関の広告やホームページの情報をみて良いと思ったから 15. その他(具体的に)
⑤-2 「かかりつけ医」への受診の仕方として、最もあてはまるものを1つ選んでください。
1. 1つの病気にかかっている、1人の「かかりつけ医」から治療を受けている 2. 複数の病気にかかっている、1人の「かかりつけ医」から全ての治療を受けている 3. 複数の病気にかかっている、病気ごとに別の「かかりつけ医」から治療を受けている 4. 特に持病はないが、病気の内容に関わらず、まずは決まった1人の「かかりつけ医」を受診する 5. 特に持病はないが、病気の内容に応じて受診する「かかりつけ医」を変える

(「かかりつけ医」がない方)

⑤-3 「かかりつけ医」がない理由を教えてください。 ※〇はいくつでも

1. 医療機関を受診する機会がほとんどなかったから
2. 病気にかかる度、その病気の専門医から治療を受けたいから
3. 継続して受診したいと思える医師に巡り会えていないから
4. 自分が受診できる時間・場所に応じて、受診する医療機関を選んでいるから
5. 引越すことが多いから
6. 「かかりつけ医」を持つ必要性を感じていないから
7. その他 (具体的に)

2. ここからは、本日の明細書の受け取り状況等についておうかがいします。

※明細書とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。
 ※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、診療の内容がわかる明細書の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日受診した医療機関で明細書を受け取りましたか。 ※〇は1つだけ

1. 受け取った
2. 自らの希望で受け取らなかった
3. 医療機関が発行しなかったので受け取っていない
4. わからない

} 3ページの質問3.へ

①-1 明細書を受け取るための手数料(治療費ではありません)をお支払いになりましたか。お支払いになった場合はその金額もご記入ください。 ※〇は1つだけ

1. 支払った → (お支払い金額: 円)
2. 支払っていない
3. わからない

①-2 明細書の内容を確認しましたか。 ※〇は1つだけ

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. きちんと確認した | 2. おおまかに確認した |
| 3. ほとんど確認しなかった | 4. まったく確認しなかった |

①-3 明細書を受け取って良かったことは何ですか。 ※〇はいくつでも

1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 医療機関への安心感・信頼感が高まった
6. その他 (具体的に)
7. 特にない

3. (すべての方におうかがいします。)

これからの明細書の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、病院・一般診療所（外来）での明細書の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

1. 会計の都度、明細書発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があった時など、時と場合により、明細書発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

→ ①-1 希望しない理由は何ですか。 ※〇はいくつでも

1. 明細書をもらっても内容がよくわからないため
2. 明細書をもらっても内容について医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 明細書発行までに時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担がないため
9. その他（具体的に _____)

①-2 上記①-1の選択肢 1~9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 全ての患者に明細書が無料で発行される制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要と思う
2. どちらかという必要と思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 明細書の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

8月7日（金）までに専用の返信用封筒（切手不要）に同封し、お近くのポストに投函してください。

（「かかりつけ歯科医」がない方）

⑤-2 「かかりつけ歯科医」がない理由を教えてください。 ※〇はいくつでも	
1. 歯科医療機関を受診する機会がほとんどなかったから 2. 継続して受診したいと思える歯科医師に巡り会えていないから 3. 自分が受診できる時間・場所に応じて、受診する歯科医療機関を選んでいるから 4. 引越すことが多いから 5. 「かかりつけ歯科医」を持つ必要性を感じていないから 6. その他（具体的に)

2. 本日の明細書の受け取り状況等についておうかがいします。

※明細書とは、「個別の診療の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。
 ※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、診療の内容がわかる明細書の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日受診した歯科診療所で明細書を受け取りましたか。 ※〇は1つだけ

- | | | |
|-------------------------------------------------------------------------|---|------------|
| 1. 受け取った
2. 自らの希望で受け取らなかった
3. 歯科診療所が発行しなかったので受け取っていない
4. わからない | } | 3ページの質問3.へ |
|-------------------------------------------------------------------------|---|------------|

①-1 明細書を受け取るための手数料（治療費ではありません）をお支払いになりましたか。お支払いになった場合はその金額もご記入ください。 ※〇は1つだけ

- | |
|-------------------------------------------|
| 1. 支払った →（お支払い金額： 円） |
| 2. 支払っていない |
| 3. わからない |

①-2 明細書の内容を確認しましたか。 ※〇は1つだけ

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. きちんと確認した | 2. おおまかに確認した |
| 3. ほとんど確認しなかった | 4. まったく確認しなかった |

①-3 明細書を受け取って良かったことは何ですか。 ※〇はいくつでも

- | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 1. 治療・検査・薬などの内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費について質問がしやすくなった
4. 歯科医師等に治療・検査・薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 歯科診療所への安心感・信頼感が高まった
6. その他（具体的に |) |
| 7. 特にない | |

3. (すべての方におうかがいします。)

これからの明細書の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、歯科診療所での明細書の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

1. 会計の都度、明細書発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があった時など、時と場合により、明細書発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

→ ①-1 希望しない理由は何ですか。 ※〇はいくつでも

1. 明細書をもらっても内容がよくわからないため
2. 明細書をもらっても内容について歯科医師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに検査名や服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 明細書発行までに時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担がないため
9. その他 (具体的に)

①-2 上記①-1の選択肢1~9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 全ての患者に明細書が無料で発行される制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要と思う
2. どちらかという必要と思う
3. どちらかという必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 明細書の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

8月7日(金)までに専用の返信用封筒(切手不要)に同封し、お近くのポストに投函してください。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 27 年度調査)

明細書の無料発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、患者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. 患者ご本人 (代筆の場合も含む) 2. 本人以外のご家族等 (具体的に)

1. 患者さんご自身のことについておうかがいします。

① 性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額 (医療機関や薬局の窓口で支払う金額) がありましたか。 ※○は1つだけ	1. ある 2. ない		
④ 本日処方せんを出した (この調査票を受け取った) 保険薬局に、この1か月で訪れた回数	約 () 回		
⑤ あなたには、どこの医療機関にかかっても、いつも同じところで薬をもらう、かかりつけにしている薬局がありますか。 ※○は1つだけ			
1. ある 2. たまに別のところでもらう → 2 ページの質問⑤-3 へ 3. ない 4. わからない → 2 ページの質問⑤-3 へ			

→「ある」と回答した方

⑤-1 その薬局をかかりつけにした理由は何ですか。 ※○はいくつでも
1. 自宅や職場・学校に近いから 2. 専門性の高い調剤を受けられるから 3. 設備 (プライバシーへの配慮等) が整っているから 4. 待ち時間が短いから 5. 過去の服用歴を含め、様々な医療機関の薬をまとめて管理してくれるから 6. 医師との連携が十分に取れていると感じるから 7. 信頼できる薬剤師がいるから 8. 在宅医療の際に訪問して薬学管理をしてくれているから 9. 他の薬局・施設等から紹介されたため 10. 家族や知人に紹介されたから 11. 薬局の広告やホームページの情報をみて良いと思ったから 12. その他 (具体的に)

→2 ページの質問⑤-3 へ進んでください。

（「ない」と回答した方）

⑤-2 かかりつけにしている薬局がない理由を教えてください。 ※〇はいくつでも

1. 薬局に行く機会（薬をもらう機会）がほとんどなかったから
2. 継続して薬をもらいたいと思える薬局がないから
3. 自分が薬をもらいたい場所や時間に応じて、薬局を選んでいるから
4. 引越すことが多いから
5. 必要性を感じていないから
6. その他（具体的に)

（すべての方にお伺いします）

⑤-3 あなたは、薬をもらうときに、いつも同じ薬局の同じ薬剤師から説明を受けたいですか。
※〇は1つだけ

1. 同じ薬剤師から説明を受けたい
2. 同じ薬剤師でなくてよい
3. わからない

2. 本日の明細書の受け取り状況等についておうかがいします。

※明細書とは、「個別の調剤の内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、調剤の内容がわかる明細書の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日来局した保険薬局で明細書を受け取りましたか。 ※〇は1つだけ

1. 受け取った
2. 自らの希望で受け取らなかった
3. 保険薬局が発行しなかったので受け取っていない
4. わからない

} 3ページの質問3.へ

①-2 明細書の内容を確認しましたか。 ※〇は1つだけ

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. きちんと確認した | 2. おおまかに確認した |
| 3. ほとんど確認しなかった | 4. まったく確認しなかった |

①-3 明細書を受け取って良かったことは何ですか。 ※〇はいくつでも

1. 薬の内容・具体名がわかりやすくなった
2. 医療費（保険薬局での会計）の内訳がわかりやすくなった
3. 会計窓口で医療費（保険薬局での会計）について質問がしやすくなった
4. 薬剤師等に薬や費用について質問・相談がしやすくなった
5. 保険薬局への安心感・信頼感が高まった
6. その他（具体的に)
7. 特にない

3. (すべての方におうかがいします。)

これからの明細書の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、保険薬局での明細書の無料発行を希望しますか。 ※○は1つだけ

1. 会計の都度、明細書発行を希望する →質問②へ
2. 治療内容に変更があった時など、時と場合により、明細書発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

①-1 希望しない理由は何ですか。 ※○はいくつでも

1. 明細書をもらっても内容がよくわからないため
2. 明細書をもらっても内容について薬剤師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに服用している薬などを知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 明細書発行までに時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担がないため
9. その他 (具体的に)

①-2 上記①-1の選択肢1~9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。 あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 全ての患者に明細書が無料で発行される制度について、どのように思いますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 必要と思う | 2. どちらかというとも必要だと思う |
| 3. どちらかというとも必要ないと思う | 4. 必要ないと思う |

4. 明細書の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。
8月7日(金)までに専用の返信用封筒(切手不要)に同封し、
 お近くのポストに投函してください。

平成 26 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 27 年度調査)

明細書の無料発行に関する意識調査

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数字や内容・理由などをご記入ください。

0. 最初に、この調査票のご記入者について、おうかがいします。

この調査票のご記入者は、利用者さんご本人でしょうか。それともご家族の方等でしょうか。

1. ご本人(代筆の場合も含む) 2. 本人以外のご家族等(具体的に)

1. 利用者さんご自身のことについておうかがいします。

① 性別 ※○は1つだけ	1. 男性 2. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医療費の自己負担額がありましたか。 ※○は1つだけ	1. ある 2. ない		
④ この1か月間で、本日利用した(この調査票を受け取った)訪問看護ステーションを利用した回数	約() 回		

2. 本日の明細書の受け取り状況等についておうかがいします。

※明細書とは、「療養費の詳細な内容がわかるもの」として発行されるもので、「領収証」とは異なります。

※この調査票と一緒にお渡しした「調査ご協力のお願い」の裏面に、訪問看護の内容がわかる明細書の見本をおつけしましたので、参考にしてください。

① 本日利用した訪問看護ステーションから、最近1か月くらいの間に明細書を受け取ったことがありますか。 ※○は1つだけ

1. 受け取った
2. 自らの希望で受け取らなかった
3. 訪問看護ステーションが発行しなかったため受け取っていない
4. わからない
- } 裏面の質問3. へ

①-1 明細書を受け取るための手数料(治療費ではありません)をお支払いになりましたか。お支払いになった場合はその金額もご記入ください。 ※○は1つだけ

1. 支払った → (お支払い金額: 円)
2. 支払っていない
3. わからない

①-2 明細書の内容を確認しましたか。 ※○は1つだけ

1. きちんと確認した 2. おおまかに確認した
3. ほとんど確認しなかった 4. まったく確認しなかった

①-3 明細書を受け取って良かったことは何ですか。※〇はいくつでも

1. 訪問看護の提供内容・具体名がわかりやすくなった
2. 費用の内訳がわかりやすくなった
3. 看護師等に訪問看護の内容や費用について質問・相談がしやすくなった
4. 訪問看護ステーションへの安心感・信頼感が高まった
5. その他（具体的に _____ ）
6. 特にない

3.（すべての方におうかがいします。）

これからの明細書の受け取りに対するお考えについておうかがいします。

① 今後、あなたは、訪問看護ステーションでの明細書の発行を希望しますか。※〇は1つだけ

1. 会計の都度、明細書発行を希望する →質問②へ
2. 訪問看護の内容に変更があった時など、時と場合により、明細書発行を希望する →質問②へ
3. 希望しない

①-1 希望しない理由は何ですか。 ※〇はいくつでも

1. 明細書をもらっても内容がよくわからないため
2. 明細書をもらっても内容について看護師等に質問・相談がしづらいため
3. 家族などに傷病名や受けているサービスの内容を知られるのがいやなため
4. 個人情報であり廃棄方法が不安であるため
5. 領収証の内容で十分なため
6. 明細書発行までに時間がかかるため
7. 毎回ほぼ同じ内容であるため
8. 自己負担がないため
9. その他（具体的に _____ ）

①-2 上記①-1の選択肢1~9のうち、希望しない最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけお書きください。

② 全ての利用者に明細書が無料で発行される制度について、どのように思いますか。※〇は1つだけ

1. 必要と思う
2. どちらかというとも必要と思う
3. どちらかというとも必要ないと思う
4. 必要ないと思う

4. 明細書の無料発行についてご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

8月7日（金）までに専用の返信用封筒（切手不要）に同封し、お近くのポストに投函してください。

【検証部会としての評価】

平成26年4月の診療報酬改定内容を踏まえ、明細書の発行実態、明細書発行の事務・費用負担の実態、患者の明細書の受領状況及び明細書受領に関する意識、患者の明細書の活用状況及び明細書の内容に関する理解度、患者のかかりつけ医等の有無の実態等について検証を行った。

＜施設調査＞

- (ア) 明細書の発行状況について、病院においては、原則全患者に明細書を発行しているとした施設が大部分（400床以上が98.4%、400床未満が96.6%）を占め、一般診療所においては78.4%、歯科診療所においては54.7%、訪問看護ステーションにおいては51.8%であった。（図表35）
- (イ) 明細書発行に係る費用徴収について、一般診療所、歯科診療所、訪問看護ステーションのいずれにおいても、大部分が徴収していなかった。また、費用を徴収している一般診療所における平均金額は290円であった。（図表39、40）
- (ウ) 自己負担のない患者に対する明細書の発行状況について、全員に発行している施設は3割程度であり、要望があれば発行している施設は2割から4割程度であった。（図表58）
- (エ) 自己負担のない患者に対して明細書を発行していない理由について、「発行義務がないため」としたものが約6割で最も多く、次いで「患者本人が発行を希望しないため」、「受付・会計窓口へ寄らずに患者が帰宅するため」としたものが多かった。（図表59、60）
- (オ) 明細書の作成及び患者からの照会のために行ったこととしては、「レセプトコンピュータを改修した」が最も多く、一方で「特に行ったことはない」という回答も多かった。（図表70）
- (カ) 明細書発行体制を整備するにあたり負担に感じていることとしては、「インク・紙などの消耗品経費」が最も多く、次に「業務負担の増加」が多かった。（図表75）
- (キ) 明細書についての問い合わせの有無については、400床以上の病院においては問い合わせがあった患者が半数を超えていた一方、それ以外の施設では問い合わせのなかった患者が多数を占めていた。（図表76）
- (ク) 明細書についての問い合わせ項目では、個別の診療報酬の項目名や点数に関する問い合わせが最も多かった。（図表77）
- (ケ) 全患者に明細書を無料発行していない400床未満の病院に対し、その理由を尋ねたところ、「自動入金機の改修が必要なため」が55.6%で最も多く、次いで「明細書発行機能がないレセプトコンピュータを使用しているため」が33.3%であった。また、当該病院の約9割が「全患者への明細書発行体制の整備予定がある」と回答した。（図表81、82）
- (コ) 全患者に明細書を無料発行していない診療所に対し、その理由を尋ねたところ、一般診療所においては、無回答を除くと、「全常勤医が65歳以上でレセプト電子請求が免除されているため」が19.5%で最も多く、次いで「明細書発行機能がないレセプトコンピュータを使用しているため」が11.5%であった。また、当該一般診療所のうち、「全患者への明細書発行体制の整備予定がある」としたものは1割程度であった。（図表84、85）

＜患者調査＞

- (サ) 明細書の内容について、「きちんと確認した」「おおまかに確認した」と回答した患者の割合は、病院（入院）が74.1%、病院（外来）が75.8%、一般診療所が77.8%、歯科

診療所が 66.4%、保険薬局が 57.6%、訪問看護ステーションが 85.0%であった。(図表 112)

- (シ) 明細書を受け取って良かったこととしては、「医療費の内訳、治療、検査、薬などの内容が分かりやすくなった」といった回答が多かった。(図表 113)
- (ス) 明細書発行に関する今後の希望では、「会計の都度明細書発行を希望する」と「治療内容に変更があった時などに発行を希望する」の合計が、病院及び一般診療所では8割程度、保険薬局と訪問看護ステーションでは6割程度であったが、歯科診療所では5割以下であった。(図表 114)
- (セ) 明細書発行を希望しない理由としては、「領収証の内容で十分なため」としたものが最も多く、次いで「内容がよく分からないため」、「毎回ほぼ同じ内容であるため」といった理由が多かった。(図表 115)
- (ソ) 全ての患者に明細書が無料発行される制度の必要性について、「必要と思う」と「どちらかという必要と思う」の合計が、病院及び一般診療所では7割程度、訪問看護ステーションでは6割程度であったが、歯科診療所及び保険薬局では4割程度であった。(図表 117)

<患者調査(かかりつけ医等)>

- (タ) 病院(外来)、一般診療所の患者で、「かかりつけ医がいる」と回答したのは、病院で 73.3%、診療所で 85.0%であった。かかりつけ医とした理由は、「自宅や職場・学校に近い」、「人柄などが信頼できる」が多かった。(図表 97、99)
- (チ) かかりつけ医がいる人の場合、「1つの病気または複数の病気について、1人のかかりつけ医から治療を受けている」と回答したのは病院受診患者では5割強、診療所受診者で5割程度であった。一方、「病気ごとに別のかかりつけ医から治療を受けている」と回答したのは2~3割程度であった。(図表 100)
- (ツ) かかりつけ医のいない理由は、「医療機関を受診する機会がほとんど無い」という人を除くと、「病気にかかるたび、その病気の専門医から治療を受けたい」、「受診できる時間・場所に応じ、受診医療機関を選んでいる」が多かった。(図表 101)
- (テ) 歯科診療所の患者で、「かかりつけ歯科医がいる」と回答したのは 94.6%であった。かかりつけ歯科医とした理由は、「自宅に近い」、「人柄などが信頼できる」が多かった。(図表 102、103)
- (ト) かかりつけ歯科医のいない理由は、「医療機関を受診する機会がほとんど無い」という人を除くと、「継続して受診したいという歯科医に巡り会えていない」、「受診できる時間・場所に応じ、受診医療機関を選んでいる」が多かった。(図表 104)
- (ナ) 保険薬局の患者で、「かかりつけ薬局がある」と回答したのは 65.0%であった。かかりつけ薬局とした理由は、「自宅に近い」、「信頼できる薬剤師がいる」、「過去の服用歴を含め、まとめて管理してくれる」が多かった。(図表 105、106)
- (ニ) かかりつけ薬局がない理由は、「薬局に行く機会がほとんど無い」という人を除くと、「薬をもらいたい場所や時間に応じ、薬局を選んでいる」が多かった。(図表 107)